

326
363



始



化學工業博覽會報告

326-363



化學
工業博覽會報告

大正
7. 8. 24
內交



會 場 正 門



總裁 清浦 子爵



副裁 武井 男爵



長會田内



長總務事松中



長總查審山平



士博學工
長部二第查審田阪



士博學工
長部一第查審松高



會 計 監 查
植 村 理 事



事 務 監 查
井 村 理 事

化學工業博覽會報告目次

第一編 事務報告

第一章 本會の設立及組織

第一節 設立及沿革	一
第二節 設立の主旨	四
第三節 規則	八
第四節 出品規則	一一
第五節 賣店規則	二〇
第六節 總裁、副總裁及役員	二四
第七節 徽章	三一
第八節 服制	三二
第九節 門鑑	三二

第二章 會場及設備

第一節 會場地所及建物	三三
第二節 參考館	三五
第三節 教育館	三五

目次

第四節	特設館	四二
第五節	音樂堂	四五
第六節	噴水塔	四五
第七節	賣店	四五
第八節	入場券賣捌所	四七
第九節	物品預り所	四七
第十節	休憩所	四七
第十一節	救護所	四八
第十二節	正門	四八
第十三節	山下裝飾門	四九
第十四節	裝飾兼示道塔	四九
第十五節	萬世橋揭示場	四九
第十六節	建札	五〇
第十七節	廣告畫(繪ビラ)の揭示	五〇
第十八節	探照燈の點火	五二
第十九節	電燈及電力	五二
第二十節	臨時郵便出張所の開設	五六
第二十一節	請願巡查派出	五六

第三章 出品

第一節	運賃及乗船車賃の割引	五六
第二節	一般出品	六五
第三節	官廳出品	六八
第四節	館外出品	六九
第五節	出品の特別運轉及實驗	七〇
第六節	説明員	七八
第七節	出品人懇談會出品人委員	七八
第八節	學校博物館等へ出品寄贈	七九
第九節	特別出品に對する感謝狀贈呈	八三
第十節	出品物賣約及殘品處分	八五
第十一節	出品陳列に關する札類	八七
第十二節	大阪出品協會	八八

第四章 審査

第一節	審査部の組織	九一
第二節	審査部員の分掌	九四
第三節	審査方針	一〇一

第四節	審査規程	一〇二
第五節	審査手續	一〇五
第六節	審査事務	一〇六
第七節	賞牌及賞狀	一〇七
第八節	褒賞授與人名錄	一〇七
第九節	褒賞授與人員統計	一三四

第五章 儀式

第一節	上棟式	一三六
第二節	開會式	一三八
	飛行機の表祝飛行	一四五
第三節	褒賞授與式	一四七
第四節	閉會式	一五四

第六章 行幸、行啓、台臨

第一節	天皇陛下行幸	一五七
第二節	皇后陛下行啓	一五八
	最近三箇年本邦重要化學工業品輸出表	一六〇
	最近三箇年本邦重要化學工業品輸入表	一六一

第三節	皇太子殿下行啓	一六二
第四節	皇族台臨	一六二
第五節	獻上品	一六五
第六節	御買上品	一六八

第七章 觀覽

第一節	入場料	一七三
第二節	入場券	一七四
第三節	各館觀覽順序	一七五
第四節	入場人員	一七五
第五節	名士の觀覽	一八一
第六節	全國工業學校長觀覽	一八二
第七節	學校團體觀覽	一八三

第八章 奏樂及餘興等

第一節	奏樂	一八五
第二節	餘興	一八六
第三節	子供デー其他の開催	一八六
一	子供デー	一八七

二	工場デー	一九〇
三	婦人デー	一九一
四	大福引デー	一九三
四節	マラソン競争と表祝	一九四

第九章 懸賞募集

第一節	化學實驗方法懸賞募集	一九五
第二節	化學實驗方法懸賞募集に對する當選の答案	一九八
一	一定量の原料より發生する氣體の體積測定法	一九八
二	水素瓦斯爆發豫防器	二〇一
三	簡易水素發生裝置	二〇三
四	水素比重測定方法(空氣よりも輕き氣體の比重測定)	二〇四
五	硝子穿孔法	二〇五
六	電氣式過滿俺酸加里製造裝置	二〇七
七	硝酸製造の實驗に使用すべき蒸餾裝置	二一四

第十章 集會

第一節	化學工業協會の設立	二一六
第二節	工業化學會通俗講談會	二三四

第三節	工學會通俗講演會	二三一
-----	----------	-----

第十一章 事務所

第一節	事務所の位置	二三五
第二節	處務規程	二三六
第三節	守衛看守服務規程	二三九
第四節	事務所員の分擔	二四六
第五節	備員及備人	二四七

第十二章 記念品贈呈及慰勞

第一節	記念ビン贈呈	二四八
第二節	慰勞及賞與	二四八
第三節	臨時賞與	二四九

第十三章 收入及支出

第一節	本會出資及寄附金	二四九
第二節	收支決算報告會	二五三
第三節	收支決算	二五六

第一編

事務報告

目次

第十四章 雜件

- 第一節 本會發行印刷物……………二五八
- 第二節 會場案内圖……………二五九
- 第三節 電車線路開通……………二五九
- 第四節 暴風雨の被害……………二五九

第二編 審査報告

- 一 緒言……………二六一
- 二 出品點數出品人員及受賞者數類別……………二六四
- 三 第一部……………二六六
- 四 第二部……………四一六

第三編 出品目錄等

- 第一章 目錄及解說書……………
- 第一節 一般出品目錄……………四三一
- 第二節 官應出品目錄……………五五八
- 第三節 官應出品主要解說書……………五七一

目次

第十四章 雑件

第一節	本會發行印刷物	二五八
第二節	會場案内圖	二五九
第三節	電車線路開通	二五九
第四節	暴風雨の被害	二五九

第二編 審査報告

一	緒言	二六一
二	出品點數出品人員及受賞者數類別	二六四
三	第一部	二六六
四	第二部	四一六

第三編 出品目錄等

第一章	目錄及解說書	四三一
第一節	一般出品目錄	五五八
第二節	官廳出品目錄	五五八
第三節	官廳出品主要解說書	五七一

第一編 事務報告

化學工業博覽會報告

第一編 事務報告

第一章 本會ノ設立及組織

第一節 設立及沿革

本會の設立は子爵清浦奎吾、男爵武井守正、平山成信、工學博士高松豊吉、手島精一、内田嘉吉及中松盛雄諸氏の發起に係り大正六年二月二十四日右諸氏の名義を以て朝野の化學工業關係者を帝國ホテルに招待して協議する所あり其の結果満場一致を以て同年秋季上野に於て化學工業博覽會を開催することを可決し之に關する諸般の事務を調査するため委員を設くることとし其の指名を清浦子爵に一任し龍居頼三、門野重九郎、植村澄三郎、工學博士牧田環、辻村楠造、相馬半治、中村房次郎、杉原榮三郎、平田初熊、田中榮八郎、藤田謙一、中谷弘吉、村井吉兵衛、服部金太郎、内藤久寛、星野錫、藤山雷太、加瀬忠次郎、鹽原又策、藥學博士池口慶三、池田豁二、田邊勉吉の諸氏其の委任の事に當ることとなり、三月五日右委員は前記發議者諸氏と共に帝國ホテルに會同して本會開設に關する諸規則、豫算等を審理し出品の分類に關しては植村澄三郎、工學博士牧田環、藤山雷太、門野重九郎、田中榮八郎の諸氏を特別委員に舉げて之に再調を托することとせり此日清浦子爵を總裁に推戴し且役員を總裁に一任することを決議せり

其後出品分類の調査成りたるを以て四月四日帝國大學、農商務省、高等學校其他民間の専門學者等を中央亭に會して出品分類に付き協議の末之を決議したり

次で總裁は副總裁、會長其他各役員を指名せり又名譽贊助員、評議員に付ては朝野の化學工業家に對し夫々依頼狀を發送し、審査總長、同部長、審査官に付ては主務官廳に差遣を請ふこととせり

四月七日を以て本會の組織全く成るを告げ同九日新聞紙を以て本會の組織成立を發表せり

次で出品規則を一般に配付し尙官私立の工場及當業家諸氏に對して夫々勸誘狀を發して賛同を依頼したり

四月十一日理事並委員會を中央亭に開きて本會諸規則を議了し次で出資保證募集のことを可決したり即ち本會開設に付ては當初先づ相當の資本を要するを以て之に充るため有志諸氏より一口金五百圓のつの出資を保證し之を以て準備費用を支辨し開會後入場料其他の收入を以て諸經費に充當し收支相償ひたるときは其の出資金は返済すべく若し又萬一不足を生したる場合には其の不足額は右出資金中より寄附を請ふことに決定せしものにして同二十四日内田會長の名を以て理事、委員中の諸氏其他に出資を勸誘する所ありしか後、續々快諾を與へらる其の氏名は別掲の如し

特別出品の出陳方法に關しては四月十九日理事、委員等を帝國ホテルに會して其の將來に對する方針を議し同二十三日更に特別出品協議會を帝國ホテルに開き此の會同に於て全く決定を了せり

又本會開設に付ては東京府下に於ける化學工業關係當業家に對し開會の主旨を説明し賛同を勸誘するの必要あるを以て東京府廳並に東京商業會議所の主催にて五月二十五日當業家を東京商業會議所に會同す出席人員百八十名あり先づ井上東京府知事より懇切なる挨拶あり次で清浦總裁、武井副總裁、内田會長等順次會旨を敷衍して出品を勸誘し最後に中野東京商業會議所會頭亦縷々勸説し多大の感動を

與ふる所ありたり

又一面出品に關し將來大阪地方との聯絡を保つ必要あるを以て清浦總裁、内田會長、中松事務總長及井村理事は四月大阪に出張し二十八日同地の主たる化學工業關係者を大阪ホテルに會し本會開設の主旨を説明して出席者の賛同を得、翌二十九日は同地の一般實業家二百餘名を大阪府立商品陳列所に會し大久保大阪府知事より本會開設に關し一場の挨拶あり次で清浦總裁、内田會長は本會開設の主旨を述べ懇々出品を勸誘せしか大阪商業會議所會頭土居通夫氏は參會者を代表して賛成演説を爲し會衆何れも賛同の意志を表せり

本會事務の進捗に對し經過の概略を報告するため六月四日報告會を帝國ホテルに開けり出席者は清浦總裁、内田會長其他理事、委員等三十六名にして著手の最初より現在に至るまでの會務の梗概を報告し併せて今後の進行に對する主要なる事項は重要手續を了したる旨を報告し退散したり

其後内田會長は六月八日横濱に、同十七日名古屋に出張して該地當業家に出品を勸誘する所あり又中松事務總長、井村理事は同十六日京都に至り、十七日名古屋に至り（内田會長の一行と合し）該地方廳紹介の下に出品を勸誘する所ありたり

本會は發起の當初より最も深甚なる朝野の賛同を得て諸官廳、學校、會社、個人等に於て大に之か進行を幫助せられ殊に地方廳、郡區役所、市役所、町村役場、商業會議所其他に於て出品の勸誘、取扱等に關し始終多大の配慮を得たるは本會の最も感謝に勝えざる所なり

又會務に關して多數の専門家、實業家諸氏か其の業務の繁忙なるにも拘はらず委員となり、理事となりて之を分擔處理し熱心に其の成功を圖られたるは蓋本會の設立か復た産業的協力一致を意味し確に各方面の愛國的精神の發現を觀取することを得るに足るものと云ふへし

本會の成立と同時に發表したる開設の主旨は次の如し

第二節 設立の主旨

歐洲の戦焔は尙ほ未だ熄まず其の如何に終局するや知るへからずと雖も世界の原状は既に甚しく攪破せられたるを以て戦後列國の關係は形質共に變動するに至らんこと想像するに難からず曩に帝國は日英同盟の誼に依り戦争に参加し起て極東平和の禍原を一掃し忽ち交戦第一の目的を達したり爾後直接戦争の慘禍を蒙むるとなく却て經濟上有利の地位を占め輸出は遙に輸入に超過し管に軍需品のみならず普通製品も亦遠く各地の需用に應ずるに至れり而して特に注目すべきは戦前振はさりし各種の化學工業が到る所に計畫せられて不時の盛況を呈したることは是なり斯る現象は忽ち消滅することなく戦後に涉りて變せざる永久の事實たらしめんこと寔に我國政府民間共に努力すべき所ならずや

抑も鐵火相交へ忽ち勝敗を戦場に決したるの日に過去に屬し學術及産業の力に富む者遂に最後の優者となること今次の大戦争に依り愈々明瞭となれり而して戦後に於ては戦勝國も戦敗國も其の國力の恢復を計る爲め激烈なる産業競争に従事すべく而して技術卓越の國は最も速に回復し且優越の地位を得るに至ると亦最も看易きの理なり學術産業の程度を顧みるときは我國の前途は決して樂觀すべきにあらず所謂學國一致して産業の發達を計るにあらざれば或は恐る戦後直に舊時の状態に復歸し今唯一時の榮華を夢みたるに過ぎざることを而して産業の確立を期するには實業教育の普及、理化學研究の獎勵、發明考案の保護等何れも有効の方策たるを失はず而かも化學工業の發達は至難の事業に屬し今日亦従前の如く外國より其の技術を模倣傳習せんと欲するも殆んど得へからず従て現時其の勃興を見

たる化學工業の發達を維持助長すると實に焦眉の急を告ぐるあり英國の如き佛國の如き、又米國の如き化學工業の獨立を期する爲め諸種の方法を講しつゝあるにあらずや我國も亦此形勢に鑒み化學工業の隆盛を計る爲め特殊の手段を講せずして可ならんや若し夫れ一般國民をして國家生存上化學工業の特に重要なとを諒解せしめ或は工業家をして其の製造原料の捜査に便ならしめ又其の製品の販賣、擴布を容易ならしめ或は資本家をして目前に投資の事業を撰擇せしめ更に又發明家をして其の思考の材料を得せしむる上に於て化學工業博覽會の開設は極めて適切な措置なりと信す依て爰に今秋を期し東京に於て學理を離れず而かも興味を失せざる程度の化學工業に關する博覽會を開催せんとす大方の人士奮て此計畫に賛助あらんことを希ふ

化學工業博覽會開設に關して曩に内田嘉吉氏か米國に旅行し親しく同地に於て歐洲戦争に起因する化學工業の勃興を視察し感ずる所多く將來同志と相計りて我國にも化學工業博覽會開催の必要を高唱し朝野兩面に對して勸説最も努めたり本會開設に先ち發表したる意見、前記の趣意書と併せて参考の必要あるを信じ今之を左に掲ぐ

化學工業博覽會の開催に就て

内 田 嘉 吉 述

乾坤一轉して我經濟界は空前の盛況を以て大正六年の新春を迎へたり客臘株式の暴落を來し多少恐慌に類する現象を呈せりしにあらざりしも其原因たる諸和説は獨逸側の誠意なき發議に過ぎざりしこと明かとなり想像せられたるより僅少なる影響を以て鎮靜せられたるは洵に社會の幸福なりと稱せざるへからず

歐洲開戦の當初本邦の貿易は輸入杜絶し輸出は見込なく産業の前途は頗る悲觀せられ路傍に嘆聲を聞きしも帝國が日英同盟の大義と東洋永遠の平和とに鑑み獨逸に對し開戦を宣せしより青島に於ける根柢を顛覆し南洋に於ける羽翼を占據し之れと前後して經濟界は曙光を認め大正五年を迎ふると共に海運は擴大し工業は發展し貿易は既往の記録を破りて振張せり大正五年の貿易總額は輸出十一億

二千萬、輸入七億參千萬合計十八億六千萬圓に上れり之を大正三年の輸出五億九千萬圓、輸入五億九千萬圓合計十一億八千萬圓に比すれば約七億圓に垂んとする増加なり而かも經濟界をして一層慶賀に堪へざらしむるは大正五年度は輸出超過三億七千萬圓に及へることなり我貿易が大正三年までは常に輸出超過にして大正四年に至り一億七千五百萬圓の輸入超過となれるものにして越へて一年にして其倍額に及へるは我經濟界の爲め祝福すべきは論を俟たず

我貿易の擴張は我産業の自然的發達に起因するものあるは疑を容れずと雖も歐洲開戦の爲め影響を受けたるに因るもの多きあるは亦更に説述するを要せざるへし余輩は未だ貿易の細目を見るに至らずと雖も略ぼ推斷して憚からず輸入の大正三年に比し一億四千萬圓の増加せるは原料の輸入なるへく製品の輸入は寧ろ減ずるも増加することなるへし之に反して輸出の五億三千萬圓を増加せるは原料も製品も共に増加したるに因るものなるへしと雖も其の分合製品に強きは疑を容れず

更に貿易の對手國に於て之を論ぜんに輸入は原料を輸出する合衆國、印度、澳洲、支那、英國等なるへく輸出は第一英吉利、佛蘭西、露西亞の諸國、第二北米合衆國、第三支那、滿洲、南領印度、香港、海峽殖民地、加奈陀、印度、菲律賓、南米諸國、佛領印度、第四南阿弗利加等なり右輸出を四分類に分ちたるは第一は戦争の爲め需要を増加したるもの、第二は戦時の影響に依り間接に我貿易を促進したるもの、第三は歐洲諸國開戦の爲め貿易杜絶し我製品を以て之に替へたるもの、第四は戦時偶然の緣故より新に貿易を開始したるもの是なり

願て顧みるに我内國に於ける需要は年と共に著しく膨張し工業の發展を促進したると同時に開戦の結果歐洲諸國より我國へ供給し來りし貿易品は輸入を杜絶したる爲め本邦に於て自ら之れを製造するの必要を感じしめたるものあり又輸入減少の爲め價額の騰貴を招き本邦に於て製造するの利益を感じしめたるものあり爲めに國內に産業の發展を來せること尠少なからず

産業發展の内容に就き調査するに時局の關係上顯著の發展を爲せるは工業の各方面に亘り染織工業、電気工業、採鑛工業、造船工業等を包含すれとも其最も重要なものは化學工業に如くものなし其分類として爆發物、染料、醫藥品、塗料、酸、醃酸、石鹼、晒粉等指摘すへし度、沃度加里、鹽素酸加里、和洋紙、バルブ、インキ、セメント、フォルマリン、セルロイド、化粧品、石鹼、晒粉等指摘すへし北米合衆國も亦我國に於けると同様歐洲開戦の爲め産業界に著しき影響を被ふりたり其影響を被ふりたる我邦の如き到底比較に上はず能はざる程度的好況なりしなり唯だ歐洲殊に獨逸より化學工業品の輸入を杜絶する已むを得ざるに至り工業の獨立を企圖し銳意之れを發展に盡力し更に交戦國の需要に應ずる爲め爆發物等の製造を擴大せり合衆國の化學關係者は千九百十五年に化學工業覽會を開催し更に千九百十六年に第二回の展覽會を開催したり

又最近到着の外字新聞を讀むに英吉利に於ても戦時工藝品展覽會の開催あり曰く英國商務院は千九百十七年二月二十六日より三月九日までヴィクトリア及アルヘルト博物館に於て貿易品展覽會を開催することの議を決したり其目的は歐洲開戦前獨逸より輸入されつありし各種貿易品の製造に關する發展の實況を示すに在り玩具類の如きは其主要なる一例なり其他陶器類、玻璃類、小間物類、文具類、印刷機類も陳列せらるへし右の外商務院は同一の時期にグラスゴウにも工業展覽會を開催し織物類、靴類、化學工藝品類、衣服類、食料品類を陳列すへしと

合衆國に於ける化學工藝品展覽會も英吉利の貿易品展覽會も略ぼ同様の目的を有することを推知するに難からず其他佛蘭西にも同様な展覽會の開催あり又獨逸に於ても此種類の展覽會を催せりと聞く。我國も亦歐洲開戦以來産業の發展を來たし殊に化學工藝品に至つては深厚の注意を拂ふべき價値あるを以て今に際し我製品を一堂に蒐集し工業の現状を明瞭ならしむると同時に戦後の商戦に對する策謀を確定するは目下の急務なりと云はざるへからず

我産業の發展は主として戦時特殊の事情に基きたるものなるか故戦局終了の後尙ほ盛況を繼續し得べきや懸念なきを得ず能く戦後に於ける猛烈なる商戦の禍中に投じて競争に堪ゆることを得るや今に際し調査を遂げざるへからず由來英米兩國は機械的工業に長し獨逸は化學的工業に長せしか開戦後英米兩國は化學的工業の發展に精力を集注し其基礎を鞏固にしたり是を以て英吉利並に合衆國に於て之れを發展の調査に努むる所あるは當然なり本邦も亦程度の差ありとするも略ぼ同様の位置に立つものなれば展覽會を開き戦時に發展せる事業殊に化學工藝品の發達を審察するは當然の措置なりと言はざるを得ず若し我産業にして充分なる發展を遂げざるものとせば戦後の競争に堪へしむる爲め必要なる政策を施して之れを保護を計らざるへからず其保護に二様あり内國貿易に就ては關稅を引上げ若くは保護金を交付して之れを發展を促進し外國貿易に就ては同業組合を設けしめ若くは内外航路を設定して輸出の擴張を求めざるへからず

往時の戦争は政府の戦争たり若くは軍人の戦争たり日露戦争尙ほ此傾向を有せるを免かれざり然るに現今の戦争は國民の戦争にして所謂學國一致の戦争なり故に國防の大義を完成せんとせば必要上國民的産業を發展せしめざるへからず就中爆發物の製造の如き既往に於ては軍事官憲の手にのみ依頼して敢て不足を感じざりしも今や民間の施設に俟たざるへからざるもの多々なるに至れり現今の戦争は化學の戦争なりと稱せらるる將來我國の充實を企圖するに於て化學工業の情緒に附すへからざること明白なり米國に於ては國防と民衆とを聯絡する爲め隨意契約を以て特殊の民間工場より製品の買入を爲すことを許し又官營工場にも二割五分までの高價にて民間工場より製品の買入を爲すことを許すの制あり更に最近には國防會議に於ては技術顧問局委員と聯合會議を開き國防と民

業との聯絡する具體的方法を講したりと傳へらる
 以上記述する所に依れば我産業就中化學工業は
 第一、内國に於て戦後の競争に對し基礎を鞏固にすること
 第二、海外に對し販路の擴張を企圖すること
 第三、國防に關聯し必要なる措置を施すこと
 第四、國民の化學的思想を喚起すること
 等の理由に基き速かに展覽會を開くは效果の尠からざるものありと認む
 余輩の希望する所は我化學工業品を蒐集するに在るも英吉利商務院の例に鑑み戦時に際し發展せる工業を併せ陳列するは利益尠少な
 らざるものと信ず此展覽會の實用は我將來の政策に甚大の影響を及ぼすを以て政府に於て之を施設するを適當とするも開催の時
 期の可成早きを要するを以て之を民營とするも亦已むを得ざるへし果して然らば化學工業營業者を喚合して大日本發明協會又は國產
 獎勵會等と聯絡を通し開催あらんことを望む

第三節 規則

- 第一條 本會ハ帝國産業ノ進歩發達ニ資スル爲メ化學工業ニ關スル出品ヲ陳列シ公衆ノ觀覽ニ供ス
- 第二條 本會ハ化學工業博覽會ト稱ス
- 第三條 本會ハ東京市下谷區上野公園不忍池畔ニ開設ス
- 第四條 本會ノ開期ハ大正六年九月二十日ヨリ十一月十八日迄トス
- 第五條 本會ニ左ノ役員ヲ置ク

總 裁	一 名
副 總 裁	二 名

會 長	一 名
審 查 總 長	一 名
事 務 總 長	一 名
理 事	若 干 名
委 員	若 干 名
審 查 官	若 干 名
事 務 員	若 干 名

- 前項役員ノ外名譽贊助員、顧問、評議員及協賛員ヲ置ク
- 第六條 總裁ハ會務ヲ裁攬ス
- 第七條 副總裁ハ總裁ヲ輔佐シ總裁事故アルトキハ之ニ代ル
- 第八條 會長ハ一切ノ會務ヲ統理シ本會ヲ代表ス
- 第九條 審査總長ハ出品審査ニ關スル事務ヲ總理ス
- 第十條 事務總長ハ會務ヲ掌理シ會長事故アルトキハ之ニ代ル
- 第十一條 理事ハ會長ノ旨ヲ受ケ會務ヲ分掌ス
- 第十二條 委員ハ會務ニ參與シ必要アルトキハ會長ノ旨ヲ承ケ擔任事務ヲ掌ル
- 第十三條 審査官ハ審査ニ關スル事務ヲ分掌ス
- 第十四條 事務員ハ主務者ノ指揮ヲ受ケ事務ニ從事ス
- 第十五條 名譽贊助員ハ本會ノ事業ヲ翼賛シ總裁ノ諮問ニ應ス
- 第十六條 顧問ハ總裁會長ノ諮問ニ應シ本會ノ經營ヲ審議ス

第十七條 評議員ハ重要ナル會務ヲ評議決定ス

第十八條 協賛員ハ出品其他ノ方法ヲ以テ本會ヲ贊助ス

第十九條 事務員ヲ除ク外役員ハ名譽職トス

第二十條 本會ノ出品區域ハ内地、朝鮮、臺灣、樺太及關東州トス

外國製品ハ參考品トシテ之ヲ出品スルコトヲ得

第二十一條 本會出品ノ種類左ノ如シ

一 化學工業ニ關スル製品、半製品及原料

二 化學工業ニ關スル機械、器具及模型

三 前二號ノ外化學的知識涵養ニ資スルニ足ルモノ

第二十二條 出品ハ總テ之ヲ審査ス但官廳ノ出品、賣藥、參考品及審査ヲ望マサル出品ハ之ヲ行ハス

第二十三條 審査上必要アルトキハ審査ノ爲メ提供シタル出品ヲ消耗又ハ毀損スルコトアルヘシ此場

合ニ於テハ損害ノ賠償ヲ請求スルコトヲ得ス

第二十四條 褒賞ハ左ノ五種トス

一名譽賞牌 二金 牌 三銀 牌 四銅 牌 五褒 狀

受賞ニ就テハ異議ヲ申立ツルコトヲ得ス

第二十五條 褒賞ヲ受ケタル出品ノ產出、加工、製作又ハ事業ニ付其ノ技工、設計、考案又ハ經營ニ

協力シタル者ニ對シ協賛賞狀ヲ授與スルコトアルヘシ

第二十六條 入場料ハ大人金貳拾錢、小兒金拾錢トス

五十人以上ノ團體及教員引率ノ學生生徒ニ對シテハ入場料ヲ割引ス

第二十七條 本會ノ開場ハ毎日午前八時ヨリ午後五時迄トス但時宜ニ依リ開場時間ヲ伸縮スルコトアルヘシ

第二十八條 本會ノ處務細則、出品規則及審査規程ハ別ニ之ヲ定ム

第四節 出品規則

第一條 本會ノ出品區域ハ内地、朝鮮、臺灣、樺太及關東州トス

外國製品ハ參考品トシテ之ヲ出品スルコトヲ得

第二條 出品物ノ部類ハ附屬出品部類目錄ニ依ル

第三條 左ニ掲クルモノハ出品スルコトヲ得ス

一 衛生風教ニ害アリト認メラルモノ

一 爆發物其他危險ノ虞アリト認メラルモノ(模型又ハ包裝ノミヲ以テスル場合ハ此限リニ非ス)

第四條 本會ニ出品セントスルモノハ大正六年六月三十日迄ニ第一號書式ノ出品申込書ニ必要事項ヲ

記入シ本會事務所ニ差出シ承諾ヲ受ケラルヘシ

第五條 出品申込者ニシテ本會事務所ヨリ出品承諾ノ通知ヲ受ケタルトキハ指定ノ期日內ニ第六條以

下規定ノ使用料ヲ拂込マルヘシ

第六條 出品陳列箱及出品陳列場所ノ使用料ハ左ノ如シ

陳列箱一小間(間口四尺五寸奥行二尺乃至三尺)ニ付

特 等 金貳拾五圓

一 等

金貳拾圓

二 等

金拾五圓

陳列場所一坪ニ付

一 等

金貳拾五圓

二 等

金貳拾圓

第七條 一定ノ位置ニ設置シアル陳列箱ヲ取除ケ特ニ出品人ニ於テ陳列箱ヲ設クル場合ハ前項ノ料金ニ依ラス相互協議ノ上相當場所代ヲ定ム

第八條 出品人ニシテ館外ニ特別陳列場ノ建設ヲ望マル、場合ハ出品申込書ニ設計書及圖面ヲ添付セラルヘシ、敷地使用料ハ一坪ニ付金拾圓以上金參拾圓以下トス

第九條 出品人ハ陳列場ニ使用ノ飾箱及裝飾等ノ設計ニ就テハ豫メ仕様書又ハ圖面ヲ差出シ本會事務所ノ承諾ヲ受ケラルヘシ

第十條 使用料ハ出品人ニ於テ出品ヲ中止又ハ減少スル場合ト雖モ之レヲ返戻セス

第十一條 出品人ハ出品場所ニ關スル決定ニ對シ異議ヲ申立ツルコトヲ得ス

出品場所ハ他人ニ讓渡シ又ハ貸渡スコトヲ得ス

第十二條 出品物ノ搬入及陳列ハ九月一日ヨリ同十五日迄トシ搬出ハ閉會後五日以内トス

第十三條 第二號書式ノ出品目録二通ヲ調製シ一通ハ八月末日迄ニ、一通ハ第三號書式ノ解説書ヲ添

ヘ出品物ヲ搬入シタルトキ本會事務所ニ差出サルヘシ

第十四條 重量ノ出品物ニシテ基礎工事ヲ要スルモノ又ハ運轉ノ爲メ動力ノ供給ヲ要スルモノハ其ノ旨出品申込書ニ附記セラルヘシ但基礎工事ヲ要スルモノハ設計圖面ヲ添付セラルヘシ

第十五條 前條ノ運轉ニ要スル費用其他設備並ニ原形復舊工事ノ費用ハ出品人ノ負擔トス

第十六條 出品物ノ搬出入、裝飾、陳列及説明ハ出品人ニ於テ之ヲ爲スヘキモノトス但出品人ノ希望ニ依リ本會事務所ニ於テ之ヲ爲スコトアルヘシ此場合ニ於テハ其ノ實費及損害ハ出品人ノ負擔トス

第十七條 出品人ハ開期中其ノ陳列場ヲ閉鎖シ又ハ出品物ヲ撤去スルコトヲ得ス

第十八條 出品搬出期間經過後尙搬出ヲ爲ササルモノハ本會ニ於テ之ヲ搬出ス但其實費及損害ハ出品人ノ負擔トス

第十九條 出品物ノ看守、保護、會場ノ守衛等ハ本會ニ於テ相當ノ方法ニヨリ其ノ任ヲ盡スヘキモ天

災、火災、盜難等ノ事故ヨリ生スル損害ハ本會ニ於テ其責ニ任セス

第二十條 出品人ニ於テ自營看守人又ハ説明者ヲ置カルル場合ハ其姓名ヲ本會ニ届出テ承諾ヲ受ケラルヘシ

自營看守人ヲ置カルル出品人ノ出品物保管ニ就テハ本會ハ其ノ責ニ任セス

第二十一條 出品人ハ出品物ニ第四號書式ノ票箋ヲ附スルヲ要ス

第二十二條 販賣ヲ爲ササル出品物ニハ出品目録及前條ノ票箋中ニ非賣品タルコトヲ明記スヘシ

第二十三條 自營看守人ヲ置キタル出品人ハ其出品ヲ即賣スルコトヲ得

前項ノ場合ニハ其出品、個數及金額ヲ日々閉館後三十分以内ニ本會事務所ニ届出テラルヘシ

即賣シタル出品ハ直ニ同一品ヲ以テ補足セラルヘシ

第二十四條 出品物ハ出品人ノ委嘱ニ依リ賣約ヲ本會事務所ニ於テ取扱フコトヲ得此場合ニハ手数料トシテ賣價ノ百分ノ五ヲ申受クヘシ

第二十五條 出品ノ委託販賣上代金ハ閉會後十日以内ニ之ヲ精算シ出品人ニ拂渡スモノトス但拂渡

ニ付送貨ヲ要スル場合ハ其ノ費用ハ出品人ノ負擔トス
 第二十六條 出品物ノ賣買約定ハ出品目録所載ノ賣價ニ依リ取扱フヘシ
 賣買約定ノ際ハ代價拾圓以上ノモノハ賣價ノ三分ノ一以上ヲ約定金トシテ買受人ヨリ前金ヲ申受ケ
 拾圓未満ノモノハ全額ヲ前金ニ申受クヘシ
 第二十七條 賣約ヲ爲シタル現品ハ閉會後五日以内ニ殘金ト引換ニ引渡スヘシ但引渡期日內ニ殘金ノ
 拂込ナキ場合ハ破約ト見做シ約定金ヲ沒收シ之ヲ出品人ニ拂渡スヘシ
 第二十八條 出品物ハ即賣品ノ外事務所ノ承諾ヲ經スシテ搬出スルコトヲ得ス
 第二十九條 第十六條及第二十四條ノ場合ニハ出品人ハ第五號書式ノ委託書ヲ差出サルヘシ
 第三十條 出品人ニシテ本會諸規則ニ基ク義務ヲ履行セサルトキハ本會ハ適宜ノ處分ヲ爲スヘシ若
 シ之カ爲メ費用ヲ要スル場合ハ其ノ出品人ヨリ徵收スヘシ

(附屬) 出品部類目錄

- | | | |
|-------------------------|------------------|---------------------------------------------------|
| 第一類 工業藥品 | 第二一類 漆液及漆器 | 第二六類 セルロイド及其類似品 |
| 第二類 電氣化學製品及用品 | 第二二類 窯業品 | 第二七類 纖維工業品(化學的處理ノ施
シタル原料及製品) |
| 第三類 金屬製品 | 第二三類 砂糖類 | 第二八類 雜種化學製品(インキ、墨、
印刷インキ、印肉、靴漿、膠、
セラチン、寒天等) |
| 第四類 壓縮及液化瓦斯 | 第二四類 酒類及醱造品 | 第二部 |
| 第五類 乾餾生成品 | 第二五類 紙及製品 | 第一類 分析及試驗用器具、機械 |
| 第六類 タール蒸餾製品 | 第二六類 ゴム及其製品 | 第二類 製造用器具、機械 |
| 第七類 染料及染物 | 第二七類 礦油及其製品 | 第三類 發光、發熱及燃燒、裝置 |
| 第八類 爆發物及マツチ(模型又ハ
包裝) | 第二八類 油脂及蠟 | 第四類 冷却及冷藏裝置 |
| 第九類 醫藥 | 第二九類 香料及化粧品 | 第五類 防熱、防火、防水、防遮材料及
裝置 |
| 第十類 顏料及塗料 | 第三〇類 樟腦、薄荷及テレピン油 | 第六類 化學ニ關スル圖書統計設計
報告論文等 |
| | 第三一類 人造肥料 | |
| | 第三二類 皮膚、皮革及其成品 | |
| | 第三三類 寫眞及寫眞印刷物 | |
| | 第三四類 飲食物及嗜好品 | |

第一號書式

出品申込書

陳列箱(場所共)	等級	所有數	料	金
陳列場所			小 大	

一何々外何點

右化學工業博覽會出品規則ヲ恪守シ出品可仕候也

年 月 日

住所

氏名

(商 號)

(電 話 番 號)

化學工業博覽會事務所御中

解說書

住所
職業
出品人

氏名

製 產 數 量	製 品 ノ 種 類 及 單 價	製 造 上 又 ハ 製 品 ノ 特 徵 若 ク ハ 効 用	主 要 ナ ル 設 備	製 造 方 法	原 料 ノ 種 類 及 產 地	職 工 數	工 場 坪 數	營 業 所	部 類	第	品 名
										縣	
						女男	數 造 二 階 地 建 木 造 平 屋 建			坪坪坪	職 工 以 外 ノ 從 業 者
										人	馬 力 ガ ス エ ン ジ ン 電 動 機
										人	技 師 其 他
										人	臺
										人	町村
											製 產 價 格

第四號書式

主要ナル販路
賞
審査請求主眼

右之通ニ候也

大正六年 月 日

化學工業博覽會御中

右
氏

名
印

號	出品番號		
	品名	賣價	個ニ付
氏名	住所	賣價	

(注意) 非賣品ハ賣價ノ欄ニ非賣品ト朱書スヘシ
第一編事務報告

三 錢
收入印紙

出品取扱委託證

化學工業博覽會別紙目錄ノ通り出品致候ニ就テハ貴會諸規則ヲ承認シ出品物ノ(搬入、搬出)(陳列)
(説明)(賣約)ヲ委託候也

大正六年 月 日

住 所

職 業

出品人名

氏

名 ㊦

化學工業博覽會 御中

(別紙目錄ハ出品目錄書式乙ト同一ノモノヲ要ス)

第五節 賣店規則

- 第一條 本會構内ニ於テ飲食店其他ノ賣店ノ開設ヲ希望セラル、者ハ大正六年七月十五日迄ニ第一號書式ノ申込書ニ設計書及圖面ヲ添付シ本會事務所ニ差出サルヘシ
- 賣店開設ノ承諾ヲ受ケタルトキハ保證人連署ヲ以テ第二號書式ノ請書ヲ差出サルヘシ
- 第二條 建築物ノ設計變更又ハ屋外ノ看板裝飾等ヲ爲ス場合ハ本會事務所ノ承諾ヲ受ケラルヘシ
- 第三條 建築物ハ開會五日以前ニ竣工セシメ閉會後十日以内ニ取拂ヒ用地ヲ原形ニ復シ検査ヲ受ケテ

返還セラルヘシ

第四條 構内賣店敷地ノ使用料ハ會期中壹坪金拾圓以上金參拾圓以下トシ其等差ハ場所ニ應シ本會事務所ニ於テ之ヲ定ム

第五條 本會ニ於テ設備セル建物ヲ使用セラル、場合ハ開會中ノ使用料トシテ左ノ料金を申受クヘシ

- 壹等 一坪 金 四拾五圓
- 貳等 一坪 金 參拾五圓

第六條 使用料ハ總テ開店準備着手前ニ拂込マルヘシ

第七條 賣店ノ營業時間ハ本會ノ開場時間ニ限ルモノトス

第八條 本會事務所ノ承諾ヲ得サル物品ヲ販賣スルコトヲ得ス

第九條 飲食物ノ代價ハ豫メ本會事務所ノ承諾ヲ受ケ其料金ヲ觀易キ場所ニ揭示セラルヘシ

第十條 賣店ハ觀覽人ヲ強ヒテ喚ヒ入レ又ハ需メ無キニ飲食物ヲ供スル等押賣ヲ爲スヘカラス

第十一條 賣店申込者ハ本會事務所ノ承諾ヲ得シテ構内ニ於テ引札又ハ其他ノ方法ニ依リテ廣告ヲ爲シ又廣告ノ目的ヲ以テ商品ヲ贈與若クハ配布スルコトヲ得ス

第十二條 賣店申込者ハ常ニ其建設物ノ内外ヲ掃除シ塵溜、下水等ノ清潔ヲ保持スルニ努メラルヘシ

第十三條 建物内ニハ必要ノ場所ニ消火器具及唾壺ヲ備ヘラルヘシ

第十四條 點燈ハ瓦斯電氣又ハ蠟燭ヲ用ヒタル提灯ノ外使用スヘカラス

第十五條 開店中ハ申込人自身又ハ代表者ヲ派出シテ營業一切ノ責ヲ負擔セラルヘシ

第十六條 賣店ノ店員ハ構内ニ宿泊スルコトヲ得ス
但止ヲ得サル事情ニ依リ店員ヲ宿泊セシムル必要アル場合ハ本會事務所ノ承認ヲ經ラルヘシ

第十七條 賣店使用人ノ行爲ハ凡テ賣店申込者ニ於テ其責任ヲ負ハルヘシ
 第十八條 開店中ハ營業ヲ他人ニ讓渡シ又ハ變換スルコトヲ得ス
 但特ニ承諾ヲ受ケラレタル場合ハ此ノ限ニアラス
 第十九條 賣店申込者又ハ其使用人ニシテ本規則又ハ本會事務所ノ命令ニ違背シタルトキハ其營業ヲ停止シ若クハ禁止シ場合ニ依リ無償ヲ以テ他人ニ其建設物ヲ使用セシムルコトアルヘシ
 第二十條 賣店申込者ニ於テ閉會後本規則第三條ノ期間内又ハ營業停止若クハ禁止ノ場合或ハ指定ノ期間内ニ建設物ヲ取拂ハサルトキハ本會事務所ハ隨意ニ之ヲ處分シ且ツ之ニ要シタル實費ヲ辨償セシムヘシ

第一號書式(用紙美濃紙)

賣店開設申込書

本會建物 (用地共)	等級	所要數	料	金
用地				

一、賣品ノ種類

右貴會構内ニ於テ賣店開設致度候間御承諾被成下度建設物設計書及圖面相添此

段申込候也

大正六年 月 日

住所

申込人氏

名印

化學工業博覽會事務所 御中

第二號書式(用紙美濃紙)

請書

今般貴會構内ニ於テ賣店開設御承諾相成候ニ就テハ貴會ノ御規則ヲ遵守可致ハ
 勿論貴會事務所ノ御命令ニ服從可仕候依テ保證人連署御請書差出候也

住所

申込人氏

名印

住所

保證人氏

名印

大正六年 月 日

化學工業博覽會事務所 御中

第六節 總裁、副總裁及役員等

總裁	子爵 清浦奎吾
副總裁	男爵 武井守正
會長	內田嘉吉
事務總長	中松盛雄
理事及評議員	植村澄三郎 牧田環 藤山雷太 杉原榮三郎 田中榮八郎 柳橋寅五郎 平田初熊

門野重九郎	山本悌二郎	鹽原又策	莊司市太郎	井村大吉	竹澤太一	小野良三	正田桂太郎	龜高德平	湯淺藤市郎	井上仁吉	山口貴雄	池田裕二	池口慶三
-------	-------	------	-------	------	------	------	-------	------	-------	------	------	------	------

星野錫	加瀬忠次郎	田邊勉吉	相馬半治	中谷弘吉	中村房次郎	內藤久寬	橋本圭三郎	藤田謙一	新莊吉生	原邦造	鈴木三郎助	白石元治郎	小田川全之	星三輪善兵衛
-----	-------	------	------	------	-------	------	-------	------	------	-----	-------	-------	-------	--------

島津源藏	諸井恒平	加藤昇一郎	田坂友吉	久米良作	藤原銀次郎	伊東榮	大田黑重五郎	上野金太郎	窪田四郎	淺野泰次郎	山內政良	犬丸鐵太郎	原田鎮治	蜂屋貞興	新田長次郎	堀居左五郎	岡島千代造	橋本千之助
------	------	-------	------	------	-------	-----	--------	-------	------	-------	------	-------	------	------	-------	-------	-------	-------

森下博	中山太一	矢野丑乙	小西喜代松	平田專太郎	脇本米司	伊佐壽	井上濟美	森田茂吉	藤江章夫	錦光山宗兵衛	奧村猛	川西清兵衛	瀧川儀作	竹田文吉	金子直吉	北島七兵衛	平尾贊平	田中隆三
-----	------	------	-------	-------	------	-----	------	------	------	--------	-----	-------	------	------	------	-------	------	------

名譽贊助員

松岡壽	岩崎小彌太	三井八郎右衛門	住友吉左衛門	藤田平太郎	森村市左衛門	大倉喜八郎	古河虎之助	澁澤榮一	中村雄次郎	近藤廉平	金子堅太郎	阪谷芳郎	宮原二郎	押川則吉	上山滿之進	市來乙彦
-----	-------	---------	--------	-------	--------	-------	-------	------	-------	------	-------	------	------	------	-------	------

法學博士

田所美治
山田隆一
水野鍊太郎
鈴木貫太郎
下村宏
白仁武
山縣伊三郎
俵孫一
昌谷彰
山川健次郎
荒木寅三郎
眞野文二
北條時敬
櫻井錠二
渡邊渡
古在由直
川崎芳太郎
村井吉兵衛
高田慎藏

理學博士
男爵

理學博士
工學博士
農學博士

法學博士

大川平三郎
藤田四郎
中橋德五郎
日比谷平左衛門
和田維四郎
井上友一
木内重四郎
大久保利武
有吉忠一
清野長太郎
島田剛太郎
北川信從
岡田忠彦
三宅源之助
折原己一郎
力石雄一郎
平塚廣義
木田川奎彦
長野幹

法學博士

松井茂
安河内麻吉
山脇春樹
池松時和
石橋和
赤星典太
濱田恒之助
川崎卓吉
大津麟平
川村竹治
添田敬一郎
川口彦治
川島純幹
土岐嘉平
井上孝哉
佐竹義文
西村保吉
笠井信一
馬淵銳太郎

顧問

顧問

林市藏
鹿子木小五郎
末松偕一郎
坂田幹太
若林資藏
柿沼竹雄
谷口留五郎
新妻駒五郎
岡田宇之助
太田政弘
堀内秀太郎
高岡直吉
鈴木邦義
平山成信
高山豐吉
手島精一
岡島讓吉
高峯讓吉

評議員

評議員

工學博士
工學博士
工學博士
工學博士
同
同
藥學博士
理學博士
工學博士
藥學博士
工學博士
工學博士
平賀義美
辻村楠造
久米金彌
團琢磨
阪田貞一
安永義章
中澤岩太
長井長義
河喜多能達
莊清次郎
丹波敬三
道本英太郎
岡本英太郎
崎川才四郎
鶴見左吉雄
村上隆吉
中川健藏
棟居喜九馬

若宮貞夫
肥後八次
松浦鎮次郎
赤司應一郎
渡邊勝三郎
永田秀次郎
小橋一太
中川望
松本重威
嘉納德三郎
坂田重次郎
島川文八郎
柄内曾次郎
中野直枝
市川清次郎
楠瀬熊治
有坂鋁藏
宮田太郎
田原良純

工學博士
同
藥學博士

江守襄吉郎
福原有信
池田菊苗
鴨居武
西川虎之助
鈴木梅太郎
鈴木達治
近藤陸三郎
村井貞之助
吉武榮之進
蜂屋貞興
小泉角五郎
吉村鐵之助
田中長兵衛
小野金六
濱口吉右衛門
小倉久兵衛
山田直矢
近藤利兵衛

工學博士
理學博士
工學博士
同
農學博士
工學博士
同
工學博士

小西安兵衛
渡邊文七
金子政吉
上郎清助
高島嘉兵衛
田中茂
增田增藏
岡島利兵衛
長富直三
土谷秀立
橋本正彰
志賀直溫
西村直
田中隆三
野村宗十郎
山下秀實
進經太郎
稻木繁太郎
内村達次郎

木戶傳
清水連一郎
渡邊嘉一
柿沼谷雄
津田五郎
中谷整治
米井源治郎
高山長幸
八十島親德
山本条太郎
增田義一
木村平右衛門
藤崎三郎助
宮島清次郎
窪田勘六
小谷鐵次郎
岸清一
杉田金之助
飯田藤二郎

堀井新治郎
左右田喜一郎
村山小次郎
桐島像一
岸敬三郎
志賀泰山
宿利英治
日高榮三郎
小西六右衛門
大倉象馬
森岡平右衛門
野澤源次郎
安部幸兵衛
渡邊福三郎
嘉納治郎右衛門
小林作五郎
濱口慶次
茂木啓三郎
森永太郎

林學博士

小寺房治郎
三山喜三郎
高松德次郎
山村銳吉
北村彌一郎
加藤與五郎
齋藤俊吉
吉田信一
小西正二
利根川安三郎
根津嘉一郎
大倉孫兵衛
黑田恒馬
加茂巖雄
土居通夫
田中源太郎
岩井勝太郎
伊藤忠兵衛
片岡直輝

同
工學博士

河盛又三郎
 金澤仁作
 谷新助
 高崎親章
 池上四郎
 遠藤慎司
 大野盛郁
 鹿島房次郎
 津田勝五郎
 永田仁助
 村山龍平
 浮田桂造
 尼崎伊三郎
 菊池恭三
 鈴木馬左也
 井上周
 志方勢七
 磯野良吉
 本山彦一

法學博士

藤澤友吉
 杉本勘七
 平賀敏
 吉川又平
 野口遵
 伊藤佐助
 藤田彦三郎
 久原房之助
 柴田善三郎
 關田善一郎
 江田邦太
 武田長兵衛
 稻畑勝太郎
 今西林三郎
 大久保利武
 大村彦太郎
 長尾薰
 藤本清兵衛
 安部幸之助

工學博士

阿部市三郎
 平賀義美
 安永義章
 小磯吉人
 島田孫市
 北島安五郎
 吉村素義
 野田眞吉
 南方常楠
 松村政之丞
 高橋龜太郎
 清野長太郎
 鹿子木小五郎
 木内重四郎
 島津源藏
 濱岡光哲
 飯田新七
 西村總左衛門
 大澤善助

工學博士

中井三郎兵衛
 松風嘉定
 中澤岩太
 伊藤長次郎
 多木次郎
 川崎芳太郎
 武藤山治

事務囑託

岩崎俊彌
 保科貞
 藤井祐敬
 中尾嘉平
 安田祿造
 近藤貞光

工學博士

土井利三郎
 平野師應
 角田秀丸
 西田博太郎
 佐々木左馬太

第七節 徽章

本會總裁以下役員、事務員並審査部員、委員、出品人及新聞記者等各佩用の徽章は七寶製斜方形にして中央に「化」「工」の二字を現し其色彩に依りて各佩用者の種類を區別したり其の製式左の如し

徽章



總裁以下役員	審査部員	事務員	出品委員	新聞記者	佩用者	地色	中央圓形部	「化」字	「工」字
金	紅	藍	紫	黃	綠	紅色	黃色	藍色	藍色
紅色	黃色	紅色	白色	紅色	紅色	紅色	白色	白色	黃色
藍色	綠色	藍色	白色	白色	白色	白色	白色	白色	黃色
藍色	綠色	藍色	白色	白色	白色	白色	白色	白色	黃色

第八節 服 制

本會の守衛、看守(女)及定備人夫に對する著服の製式左の如し

著用者	地質	色	形	狀	帽
守衛	羅紗	黒	マンテル形、前部に金色鈕を四個宛二行、腰部に貳個を附す		黒羅紗海軍形、周圍に幅三分の金線を守衛班長は二條、守衛は一條を附す
看守	セルヂ	海老茶	天平式改良服		
定備人夫	木綿	紺	半纏、背に會章を附す		

守衛及看守は番號を記したる一定の章を佩用せしめたり其の製式は圓形徑一寸、白地に綠色にて月桂樹を描き上に會章を、中央に番號を記したるものなり

第九節 門 鑑

本會出入商人、出品人の使用人及賣店主並其の使用人に出入に對し門鑑を交付せり其の製式左の如し
(甲は會期中常時使用するもの、乙は指定の期限内使用するものとす)

形狀 橢圓
材質 紙 粧



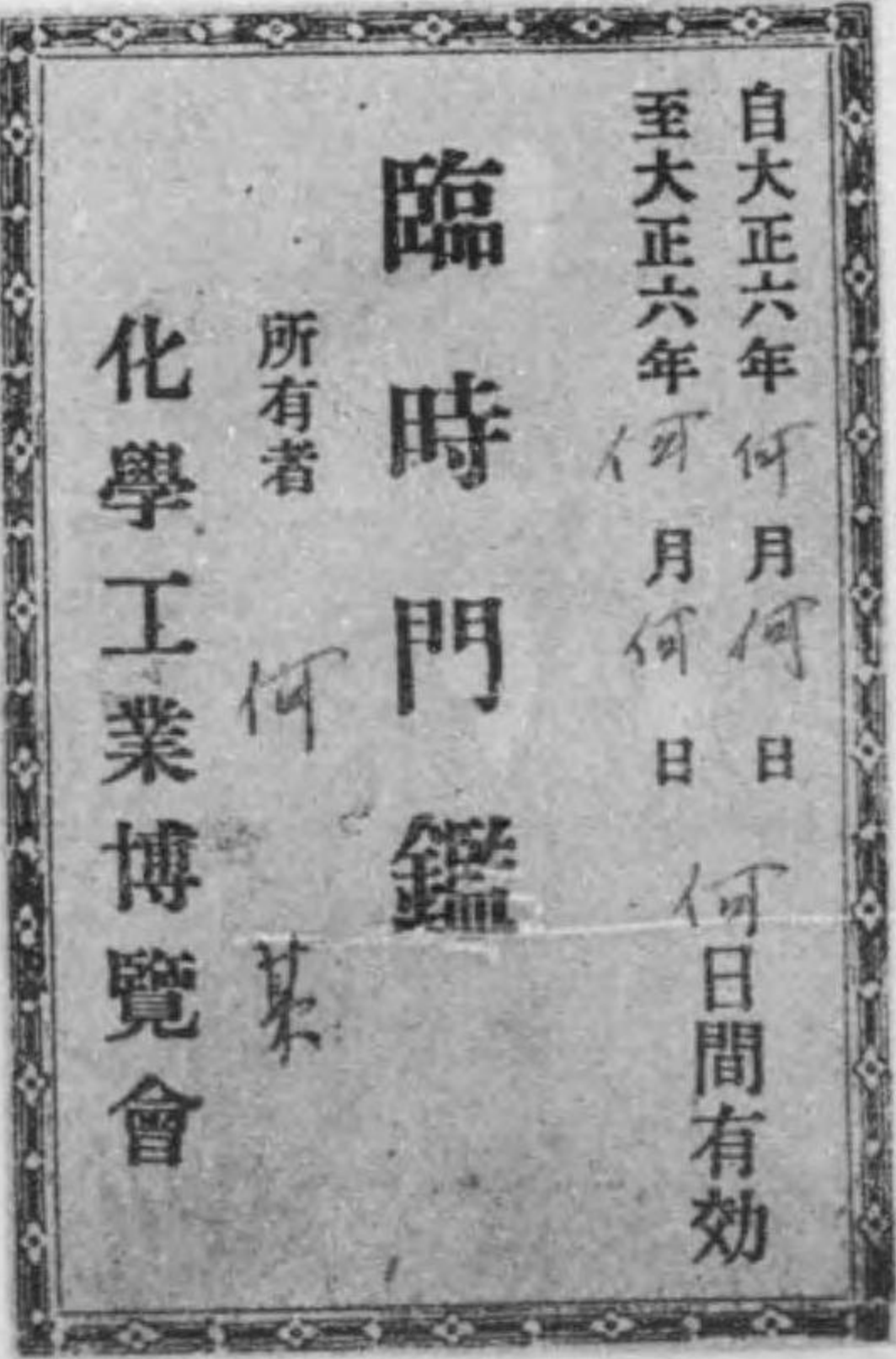
表



裏

甲(文字烙印)

乙



寸法 竪二寸二分、幅一寸四分、厚二分五厘

第二章 會場及設備

第一節 會場地所及建物

地所

本會敷地は上野不忍池畔に於ける國產獎勵會借用の敷地及本會か今回特に帝室博物館より借用の敷地とを併して會場用地となし外圍を區劃したるものにして其の坪數及區別左の如し

一、敷地總面積五千九拾七坪四六三三

内

國產獎勵會の借用敷地 貳千七百五拾坪六二

帝室博物館より借用の敷地 貳千四百四拾六坪八四三三

建物

本會々場の建物は國產獎勵會の建物と本會か特に増設せる別館とを以てせり其の區別左の如し

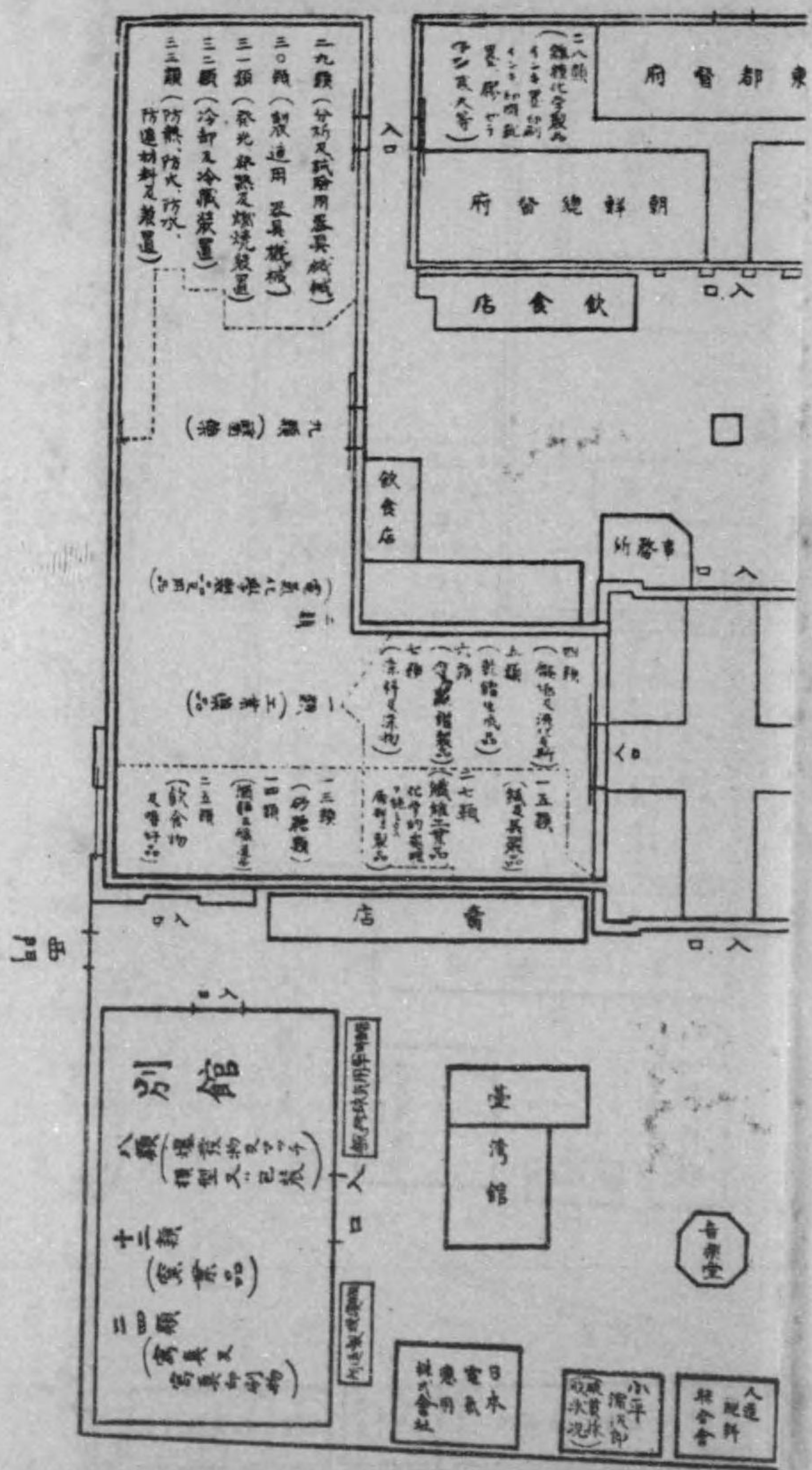
内

本會の設備に屬するもの 貳千五百九拾九坪

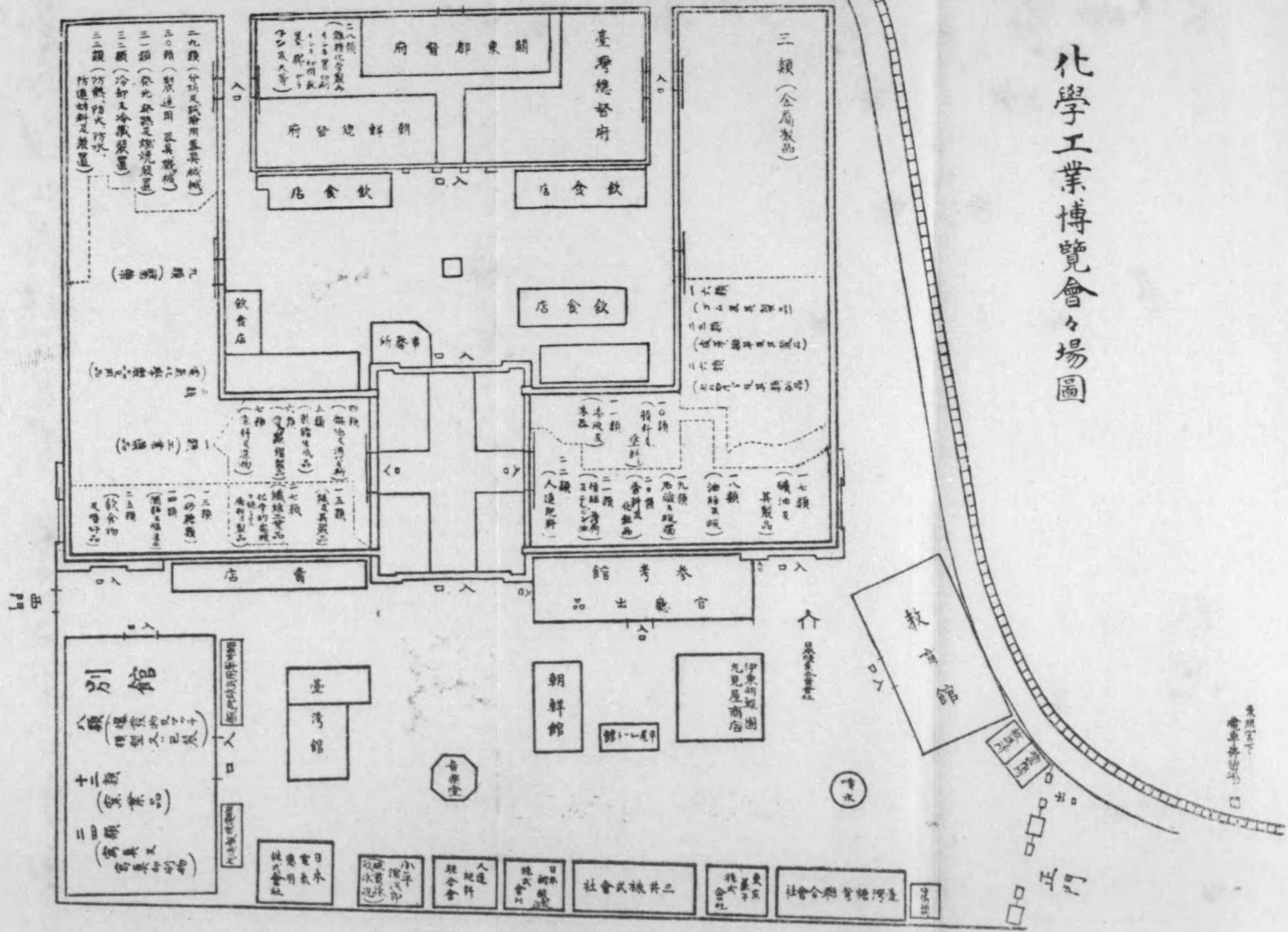
出品人の特設に屬するもの 參百壹坪

館別坪數

東	西	北	別	參	教	音	事	守	救	物	賣	其	便	建
館	館	館	館	館	館	館	館	館	館	館	館	館	館	建
朝鮮館	臺灣館	臺糖聯合會特設館	東京菓子株式會社	三共株式會社	日本醋酸製造株式會社	人造肥料聯合會	小平濱次郎	日本電氣應用株式會社	伊東胡蝶園、丸見屋商店共同同上	平尾贊平	レイト特設館	計	計	建
一、五二	三、八四	二、四〇	九、四	一、二二	一、二二	二、〇	六	四	四	四	一、三、八	七、三	一、五	二、六、一、四
數	坪	數	坪	數	坪	數	坪	數	坪	數	坪	數	坪	數
二、八	五、三	四、〇	四、〇	二、〇	二、〇	二、〇	三、〇	二、〇	一、〇	一、〇	一、〇	三、〇	一、〇	數



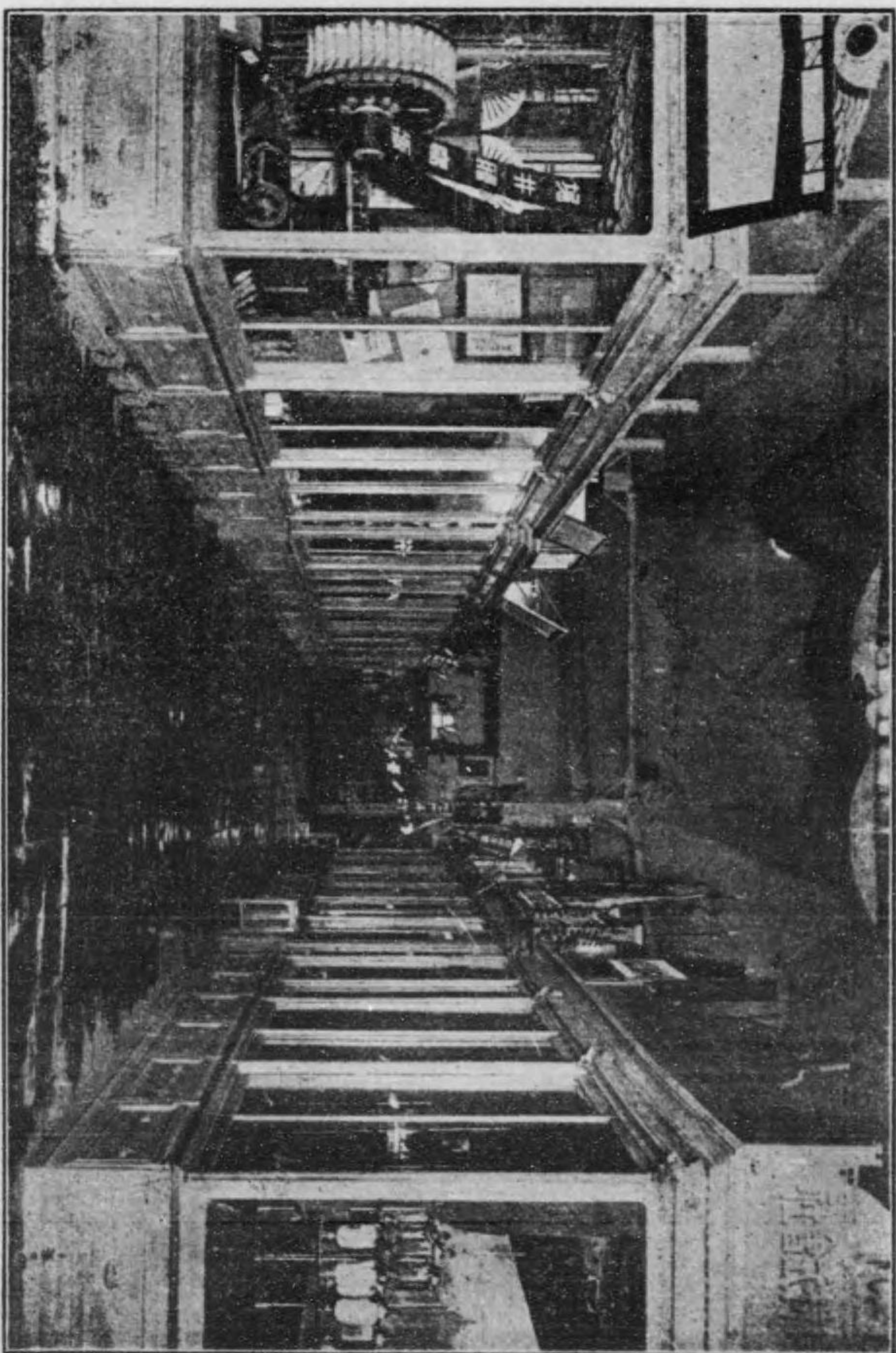
化學工業博覽會々場圖



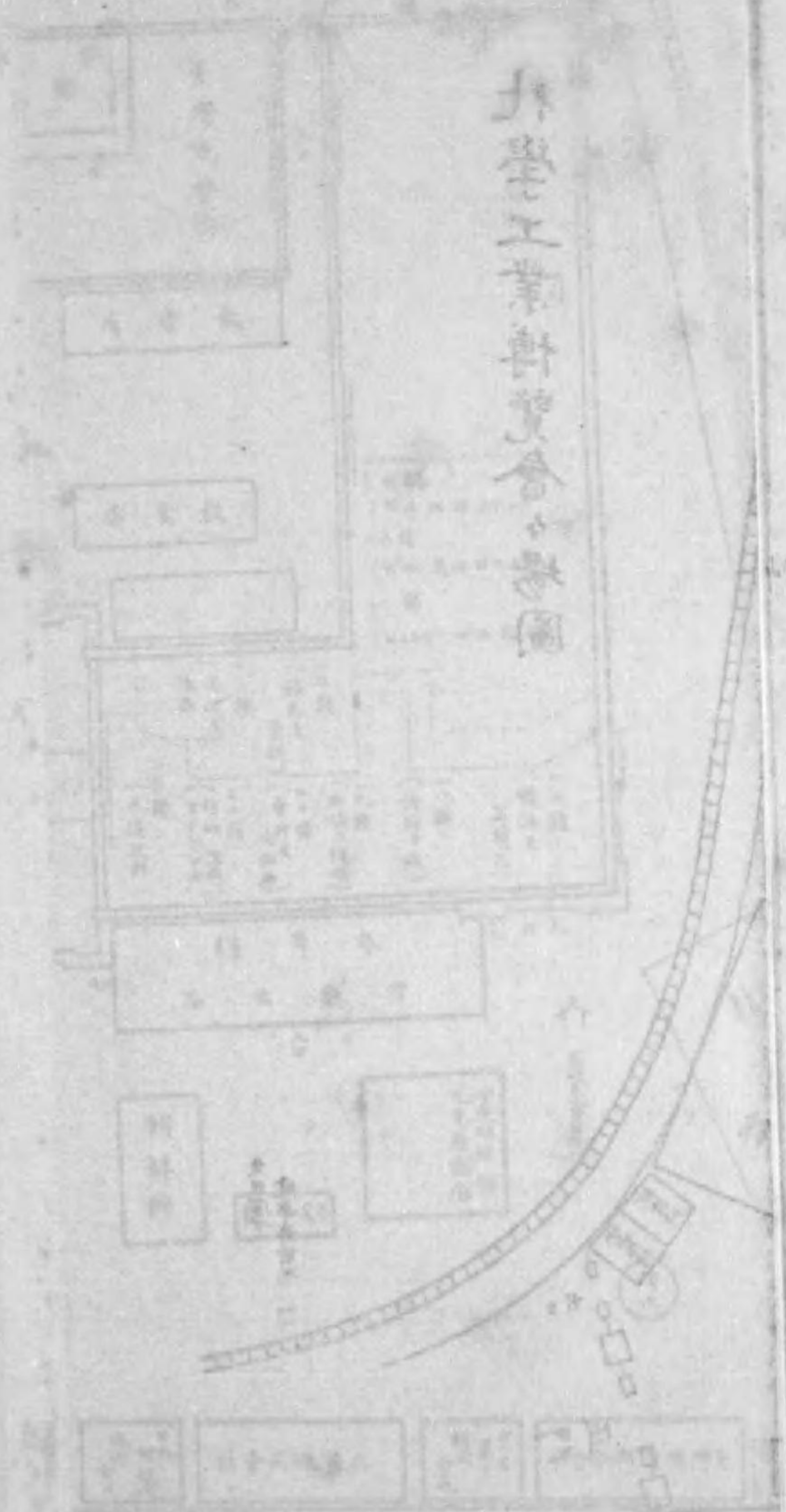
計 所 (五ヶ所) 店 (十七ヶ所) 品 (十七ヶ所) 救護所 (五ヶ所) 衛生所 (十七ヶ所) 事務所 (十七ヶ所)

六 日本... 四 伊東胡蝶園、丸見屋商店共同上
尾贊平レトリ特設館
四 一三八
七三
一五
二、六、一四 計

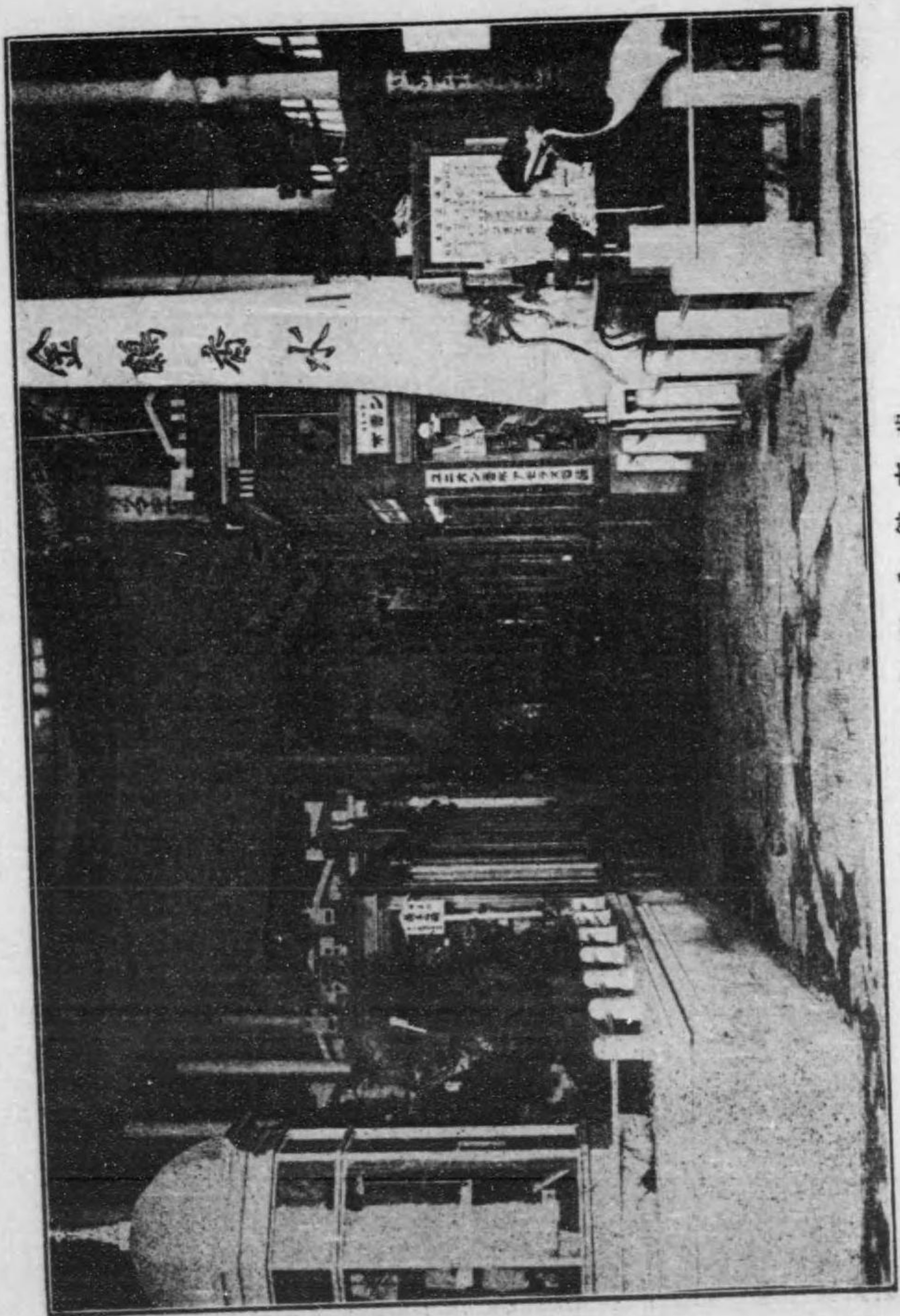
三〇一 一〇 二〇



四本館入口内部分の光景



東京教育博物館入口内部の光景



第二節 参考館

参考館は官廳出品中東京衛生試験所の一部及臨時軍用氣球研究會、東京教育博物館、東京高等工業學校、東京府立第一高等女學校、朝鮮總督府、臺灣總督府及關東都督府の出品を除くの外は全部は之を本館に收めたり其の出品は化學工業上参考となるべき最も最新有益なるもの多數を含み就中工業試験所の空中窒素固定装置、陸軍省及陸軍技術審査部の毒瓦斯豫防器類、砲兵工廠の火藥類、海軍造兵廠の火藥其他、逓信省の無線電話装置等の如き殊に最も多大なる注意と感興とを以て迎へられたり

第三節 教育館

教育館の設備は本會理事學博士龜高德平氏の擔任に屬し氏は始終専ら其事に盡瘁せられたり氏が此の館の設備に就きて其の要旨とする所左の如し
化學工業の基礎はいふまでもなく化學教育にあり獨逸に於て化學工業の隆盛を見たるは其の教育制度の宜きを得たるかためにて、彼國の大學及高等工業學校に於ては將來化學工業に従事せんとするものも、化學の理論—一見すれば化學工業と何等縁故なき様なる純粹なる理論—を研究し研究の方法を知得したる後實社會に出て初めて工業の實際を知る有様なり、即ち化學工業と化學研究とは密接の關係を保ち相離るへからざる状態にあり然るに英國に於ては化學工業に志すものは化學研究をなす必要は更になきもの、如く考へられ、唯當座の作業をなすことさへ知れば十分なりと考へ、即

ち化學工業と化學研究とは直接の關係なきかの如く考へ、化學研究を重んぜざりし結果、今次の戰爭に於て獨逸に多少の後れを取りし次第にて、今茲に化學教育の模様を示さんかため教育館なるものを特設したり。

此の館の出品中東京衛生試験所、東京教育博物館、東京府立第一高等女學校等の出品に付ては別掲「参考館」官廳出品」の項に其の概要を記したれば便宜茲に之を略すへし。丸善株式會社は此の館の一隅に於て特に圖書室を設け架上には多く化學工業上の書籍を陳列し、中央卓上には同種の外國雜誌を展列し以て縦に入場者の閲讀に便し、又館の入口には四本柱を建てたる一座を設けて中央に大なる老猿の塑像を安し同社製造の各種のインキを其の周圍に陳列したり但斯の老猿を配したるは唯人の注意を呼はむか爲にして固よりインキとは別に緣故あるに非ず。工業化學會の出品には同會發行の工業化學雜誌、研究報文、會員の増減分布に關する圖表、集會大要、沿革を主とす同會は明治三十一年の創立に係り同志者相會し工業化學の進歩並に普及を圖るを目的とせるものにして今回の出品は實に其の成績を集約せるものなり。同文館出品の書棚一基は同館出版の「工業大辭書」を飾れるものにして斯の浩瀚なる同書の發行は時代の要求が本書あるを致さしめたるものにして復以て今日の工業と文運の盛を表するものと云ふを得へし。田中合名會社の出品に付ては其の概況、出品の運用及實驗に掲ぐる所の如し。清水連郎氏出品の寫眞及書籍は教育上の参考品として最も有益にして且趣味を有するものなりき即ち其の寫眞は出品者の嚴父にして明治の初年に於ける我化學工業界の先覺者たりし清水卯三郎氏か慶應三年（今を距る五十二年）前佛國巴里に於て萬國大博覽會を開設せし當時の撮影に係るものにして其の前列右端は即ち清水卯三郎氏（中央は時の領事吉田二郎氏、左端は通譯某）なり、清水卯三郎氏は其名夙に美術工藝界に著はれたる人にして殊に弘く瑞穂屋卯三郎の名を以て知らる、氏が當時

洋行は我が美術工藝を世界に紹介し尙ほ同時に海外に於ける窯業其他の化學工業上の事項を研究して我か知識の啓發に貢獻せしもの最も多し明治四十三年一月八十二の老齡を以て永眠せり。又書籍二種の内清水卯三郎氏著「ものわりのはしこ」（明治七年春出版、木版全三冊、全部平假名を以て化學の一斑を説けるもの）及宇田榕菴氏譯「含密開宗」（天保丁酉梓、木版全七冊）は共に本邦最初の化學書として貴重せられる、所に係り寔に斯業上の好参考たり（前書の全部か平假名を以て記述せられたるは當時著者は「かなのくわい」の會員として専ら假名の専用普及に熱心せしが爲なり）。東京教育品研究會は後藤牧太氏を會長となし常に専ら教育品研究の事に従へるものにして本會にはアセチレン自動浮沈子、簡易アセチレン燈、炙り出し、青寫眞、色の變る紙、色文字の出たり消えたりする紙、感熱紙、消火器、木綿染め、絹染め、毛染め、色抜き、石炭乾溜、色の變る水、色の變る花等何れも同會の研究に成れる教育用化學的玩具其他なりき。土田兎四造、干場榮松、岸本庄太郎、鹽谷馬次、須賀孟伯、久保彌三郎、菊地清策、田村徳三郎、宮川卯一、川井金三郎、熊崎安太郎等の諸氏（共に東京）も東京教育品同業組合員にして其の出品は何れも教育用各種の標本其他寒暖計、檢温器、溫度調節器自動濾過器、解剖器械、理化學用器械、逆流式冷却器、特許蒸餾器等なりき。株式會社島津製作所の出品は一部を「中學程度化學實驗室」の裝置とし、一部を「家庭と化學」とす前者は甚平凡なるに反し後者は稍目新しさもの少からず「庖厨用各種燃料と電熱との比較表」、「燈火費用の比較表」の如きは其の燃料若くは燈火の種類に依りて經濟上の價値甚しく差違あるを示し觀覽者の爲に参考上裨益を與へたること鮮少ならず、今其の二表を左に轉載す

庖厨用各種燃料と電熱との比較表

燃料の種類	購買の単價	各燃機に要する電熱器一キロワット時に相當する燃料分量	一升の水を沸騰せしむる値段	一升の米を炊くに要する値段
薪 乾燥したるもの (二割)	一貫目	三百五匁	二厘七毛	四厘三毛
木炭	一貫目	二百五十匁	二厘六毛五	四厘二毛
石炭	一百斤	二百二十匁	四厘八毛	七厘八毛
コークス	一貫目	二百四十匁	二厘一毛五	三厘四毛五
瓦斯	一千立方尺	二百四十匁	二厘七毛	四厘三毛
石油	一升	十一立方尺	五厘	八厘
石炭油	一升	一合	四厘七毛	七厘五毛
電氣	一キロワット	一キロワット時	二錢二厘五毛	三錢七厘五毛

燈火費用の比較表

燈火の種類	十燭光十時間に要する費用
油燭	九角
石蠟	八角
油燭	四角
瓦斯	十錢
フア	十錢
ナシ	六錢
ナシ	四厘

瓦斯	電氣	氣
石炭瓦斯燈 （上向きマントル 下向きマントル）	炭素線燈 タングステム燈 オスラム燈 ニオトラム燈	弧光燈 グリブ付
九錢	六錢 四錢 二錢 一錢	二錢 三錢 一錢
二厘	三厘 五厘 五厘 八厘	八厘 四厘 三厘
四厘	三厘	八厘

「日光と化學作用」は洋傘の色の濃淡に依りて人の皮膚の色に影響を及ぼすの理を示せるものにして、少女の形と之が携帯せる洋傘とを以て之を明にせり其の説明に云ふ
御婦人は顔色の黒くなるのをお厭ひになるにも拘はらず夏は白い編蝠傘をさす癖かあります是は大なる誤てあります此の二人の令嬢を御覧なさい白色の傘をさす方が黒く、黒色の傘の方は色か白くありますその理由は此の二人の令嬢が持つ寫真か證明して居ります是は白黒二種の傘を寫真を撮す紙の上に置いて日光に曝したのでありますと白い傘の下は感して黒くなつたけれども黒い傘の下は少しも感しなく全くもとのまゝに白くなつて居ります即ち日光は白布を透して作用する

けれども黒布には遮られて作用せぬのであります」
「食器と食品」に付ては食器か其内容の爲に化學變化を起して自然損害を來すの例を示せり其説明に云ふ

食物を容れる食器は注意をせぬと器物を損し、或は有毒となることかあります下にある一はアルミニウムの辨當箱に梅干を入れた爲めに梅干の酸でアルミニウムを溶かし孔かあいた例と一は罐詰を開けたらばすぐ他の器に移すとよろしいけれども其儘にして置くときは罐が錆びるといふ例を示したのてあります」

又「食器とその營養價」は價金拾錢を標準として其の含有する養分即營養價を一表に擧げたるものにして蛋白質、炭水化物、脂肪、アルコール等の分量を示すに便にするかため蔬菜類、肉類等の蠟製標本をも添附陳列したり其の説明に云ふ

人生を保つ上に食物の必要なることは申すまでもありませぬ此の食物には滋養に富むものと滋養に乏しいものとかあります之を知ることは最も必要なることと種々の方法もありますけれども之に含まる熱量によりて定むるのもその一法であります之によりて見ますると高價なるもの必ずしも滋養多く安價のもの必ずしも滋養少しと云ふ譯ではありませぬ茲に普通なる食品の價金拾錢にて買ひ得らるゝ分量と之に含まるゝ營養價とを下に表にしましたよく味はふて御覽にならばお譯りになりませう(表略)」

「微菌」に付ては日常人々の接觸する貨幣、布巾を始め井水其他に存する微菌の状態を知らしめむがため一々微養基に培養して陳列せり其の説明左の如し

世には清淨と思へるもの必ずしも清淨ならずしてその中に無数の微菌を存在するものあり唯吾人の

肉眼之を識別すること能はざるのみ之によりて時に不測の禍を招くこと多し今世人の心つかさるもの十四種を撰び次の方法により之を檢査し其の成績を下に陳列せり

一、聚落は試験當初一箇なりし菌體の發育増殖したるものなり此の聚落の數多きもの即ち不潔を示せるものなり

一、貨幣無菌蒸餾水五グラムを以て洗滌し其の五滴を培養基に混し室温にて四十八時間培養す

一、布巾最も清潔に洗滌したるものを更に無菌蒸餾水五グラムにて其の一部を洗ひ其の五滴を貨幣の時と同様にす

一、井水堀井戸より汲み揚げたる水五滴を直に培養基に混し室温にて四十八時間培養す

一、頭髮婦人の頭髮を解き下け、二回培養基上にて振り動かし室温にて四十八時間培養す

一、爪手指の稍伸びたる爪をとり無菌蒸餾水五グラムにて洗滌し其の五滴を以て貨幣布片と同様の方法にす

一、家蠅一疋の蠅を一分間培養基面に放ち室にて四十八時間培養す(即ち足部及び體に附着せる微菌なり)

備考 乳色聚落は酵母菌、醋酸菌、肉色葡萄狀菌、黄色聚落は化膿的葡萄菌、放線狀聚落はカビの類、半透明聚落は球菌、桿菌、燐光聚落は靈菌、淡き聚落にして他の聚落を覆ひ頗る大なるものは變

形菌なりとす

角一。ゴムの合資會社の出品は大小のゴム球を無數に陳列し觀覽者の目前に於て之に瓦斯を填充し要望する人に對しては即時に賣り渡すことゝせり所謂博覽會土産として常に教育館の一隅を賑せり

第四節 特設館

特設館は配置圖に示すが如く正門内の左側より起り次第に駢立するもの即ち左の如し

朝鮮館

本館は朝鮮特有の構造に成れる地積貳拾八坪の二階建家にして階下は全部を朝鮮産物の賣店（總督府直營）とし、階上は貴賓の休憩席に充てたり

臺灣館

本館は臺灣固有の構造に成れる地積五拾三坪の二階建家にして階下の一半を臺灣産物の賣店（總督府直營）とし、一半を喫茶店（臺灣茶）とし又階上は貴賓の休憩席に充てたり

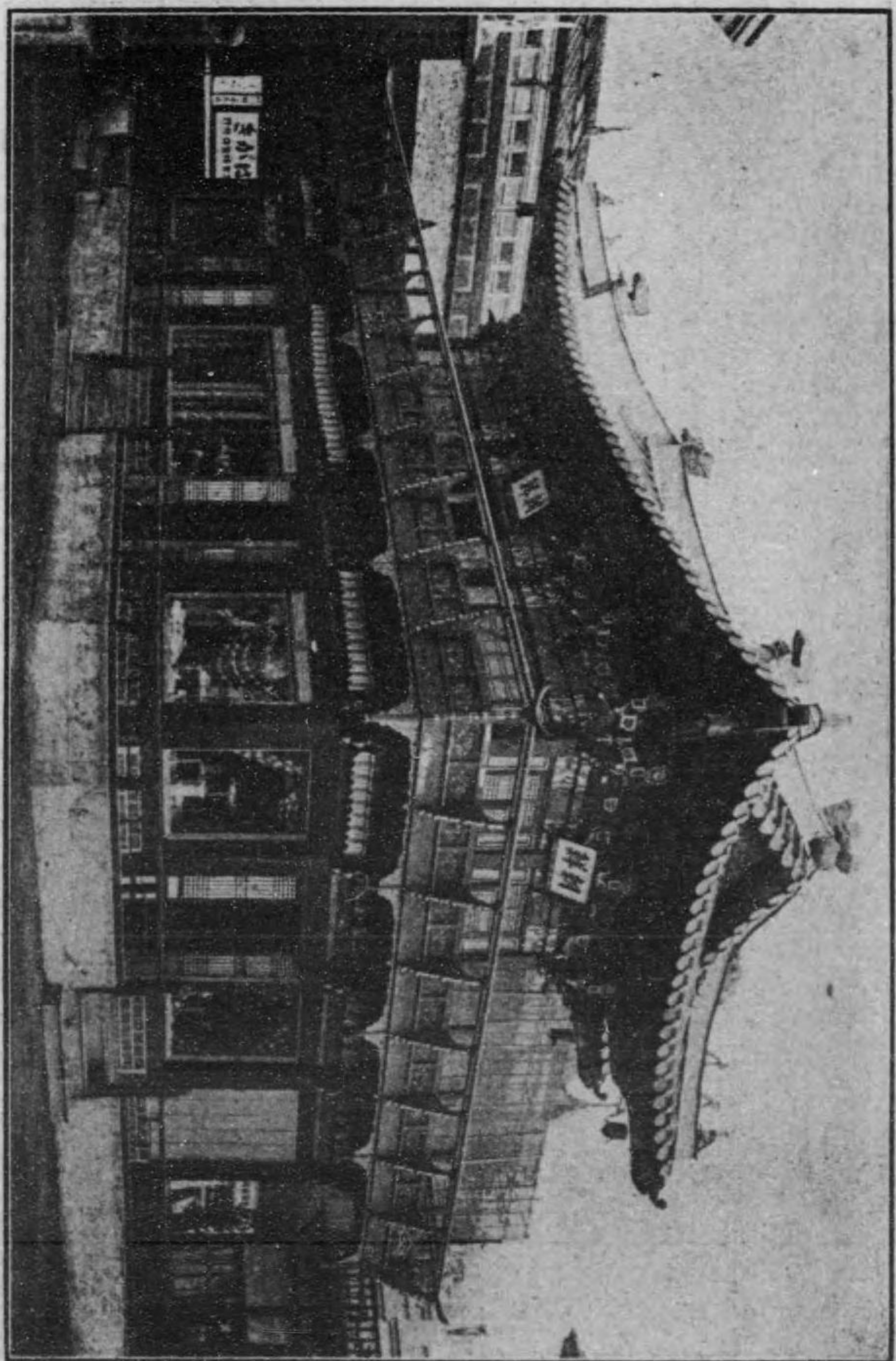
本館は外景殊に奇觀に富めるの他尙其の周圍の空地に榕樹、檳榔、蒲葵、相思樹等臺灣特有の植物數種を繞らし以て最も熱帶趣味に富みたれば常に觀客の注意を惹く所となれり

以上の兩館に於ける階上の貴賓席は開會中各皇族殿下を始め多く大方貴賓の休憩せらるゝ所となり復大に本會の爲に光彩を添へたり

臺灣糖業聯合會特設館

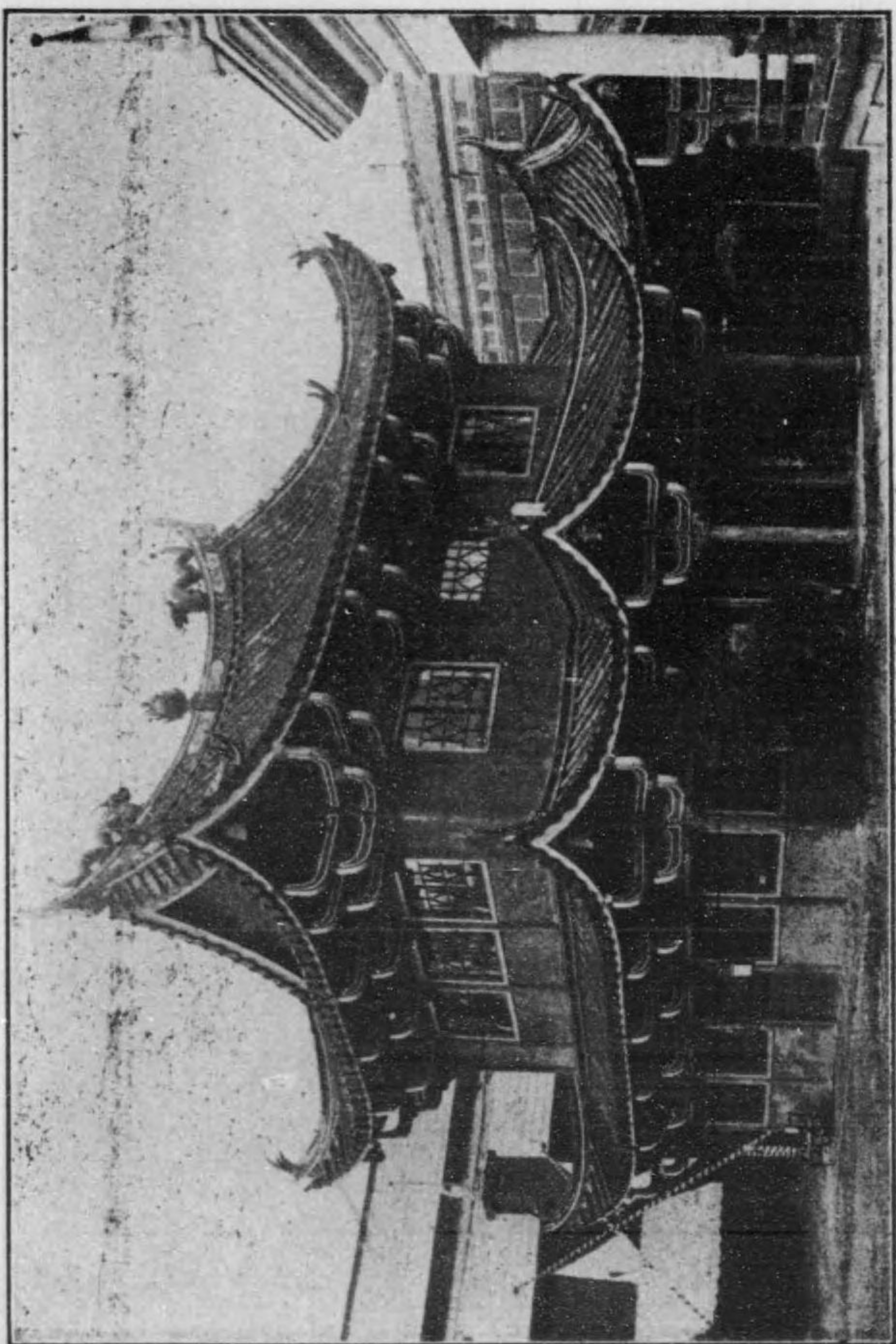
甘蔗の栽培と砂糖の製造とを一場に模出して公衆の觀覽に便せるものにして左方は甘蔗園及製糖工場を背景畫として其の前に甘蔗の成長並に耕作せる土人（人形）を配し。右方は壓搾機及壓濾機を背景畫として其の前に甘蔗、石灰、パカス、糖汁等を置き製造上の順序に成れる製品を並列したり左に列品に添附せられたる一表を掲げて参考と爲す

砂糖製造順序並に廢物利用法

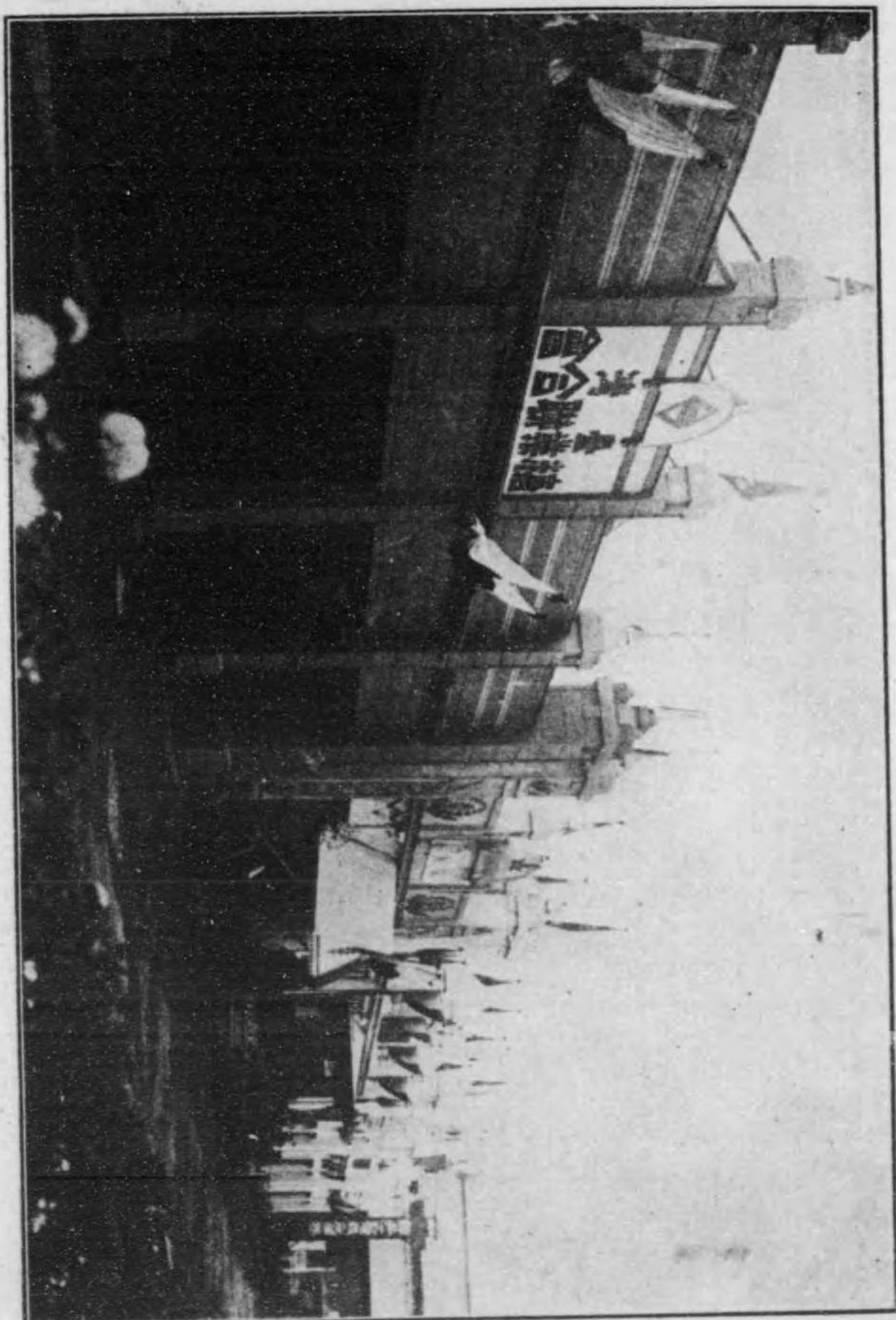


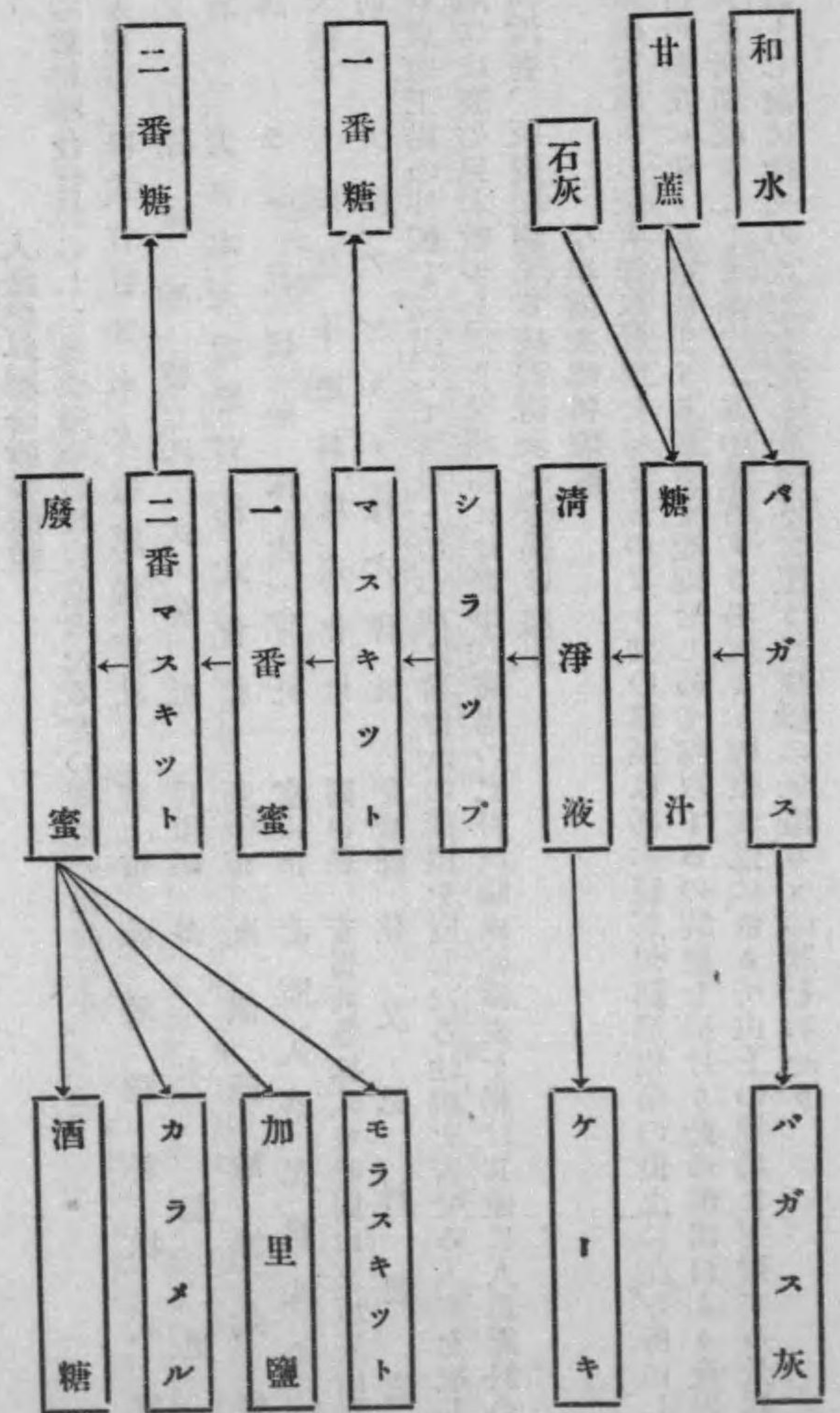
特設館

特設館外景



特設館外景





東京菓子株式会社特設館
 三共株式会社特設館
 (共に「出品の運用及實驗」の項参考すへし)

日本醋酸製造株式會社特設館

鹽原乾餾工場及其の附近の光景を背景畫となし其の前に人、馬の模型等を配して自然の野趣を表はし以て工場所在地の狀況を髣髴せしむ

人造肥料聯合會特設館

人造肥料聯合會員にして過磷酸製造販賣業者たる左の數社の出品なり

- | | |
|-------------------|-------------------------|
| 東京市 株式會社 日本人造肥料會社 | 堺市 硫酸肥料株式會社 |
| 同 關東酸曹株式會社 | 兵庫縣 多木製肥料 |
| 同 大日本人造肥料株式會社 | 新潟市 新潟硫酸株式會社 |
| 同 ラサ島磷礦株式會社 | 富山市 北陸人造肥料株式會社 |
| 大阪市 大阪化學肥料株式會社 | 岡山縣 安田商事株式會社 岡山支店 安田製肥所 |
| 同 大阪アルカリ株式會社 | 愛媛縣 住友肥料製造所 |
- 肥料製造工場の外觀を描出して背景となし前に諸會社の商標を附したる法被を着せる人形を配し尙ほ一隅には製品見本數多を置き又棚間には農事試驗場の肥料試驗成績圖表を掲げ其他に人造肥料の沿革及其消費、販賣に關する統計諸表をも掲げたり

小平濱次郎特設館

那須硫黃鑛山の硫黃採取狀態を示すものなり其の鑛區は栃木縣那須郡那須岳の頂上に在る所にして噴火山の熱度に依り熔融流出する硫黃を凝縮せしめて採取するの裝置を描けり此の流出口より産出する硫黃は所謂硫黃にして此には其の流出する場處より輕便軌道に依りて山上の置場に運搬する景狀を背景畫とし前に役夫の人形を配し硫氣空に漲りて凄慘の氣溢るゝの狀を示せり

日本電氣應用株式會社特設館

伊東朝雄園 共同特設館
丸見屋商店
平尾レイト特設館

(共に「出品の運用及實驗」の項参考すへし)

第五節 音樂堂

音樂堂は本館の入口と對峙の位置に建設(建坪十二坪)したり其の結構は八角形にして高く床を設け周圍に欄干を附し日々の奏樂若くは餘興は何れも此にて催したり

第六節 噴水塔

正門内右側の處に圓形、徑五間の噴水池を穿ち中央に圓形白色の噴水塔を設けたり其の構造はセセツション式に據り、裝置は循環式タービン唧筒を用ひ而して塔心には各色のスタンド硝子を張り其の中心より電燈の光を放射せしむるの裝置をなせり水は斷えず塔の周邊より垂れて其の觀恰も珠簾の如く殊に日暮よりは水色、色硝子を透りて中心の電燈に映し壯觀場内の夜色を壓したり

第七節 賣店

賣店の開設は賣店規則(別掲)に依り本會の承諾を要するものにして其の相當の手續を了し開設した

るもの十八名あり其の坪數、販賣品名及店主氏名は左の如し

坪數	販賣品	店	主
二四	西洋料理	富士見軒(上野)	精柳
三〇	汁子、雜煮	壺屋	青柳
一二	辨當、すし、天井	鳥榮	養
四〇	天麩		丸山
四	果糖		中澤
二	味淋		柳助
二	書籍		前田
三	繪葉書		赤木
二	同器		村澤
二	陶器		後藤
二	石細具		福田
四	玩石		清水
二	同		土岐
二	窓クリニング		寺井
二	同		伊東
四	革細工		橋本
四	末石		外山
六	粉切等		眞子

第八節 入場券賣捌所

入場券賣捌は本會の直營する所にして正門外に一棟を設置して之を取扱へり同所は前面に窓口十二箇所を設け一窓に看守(女)各一名を配置して事に當らしめたり

第九節 物品預り所

會場正門内の右側に物品預り所を設け以て入場者の便利に供せり其の預り料は杖傘類壹本に付金壹錢。外套、小包類壹個に付金貳錢。大包、自轉車、姆車の類壹個に付金五錢を規定とせり

第十節 休憩所

朝鮮總督府特設の朝鮮館並に臺灣總督府特設の臺灣館は共に其の新領土の物産陳列の爲に置かれたるものにして樓上は何れも該總督府に於て特別優待を爲すべき貴賓の休憩に備へたる處なるか各皇族殿下を始め奉り本會に於て特別優待を爲すべき貴賓を待つ場合にも大抵右兩館の樓上を借用して之に充ることゝ爲せり以て多大の便益を得たるは本會の最も深く感謝する所なり

團體入場者の爲に本館の中庭に無料休憩所を設け共同椅子百餘脚を置き以て其の使用に便せり又三西商會にて此處に新案特許山崎式「寶釜」を出陳し瓦斯を燃料として湯を沸かし之を茶に利用して休憩者

に提供し旁該釜の便利を示せり

||三||

朝鮮館にては其の東側に附屬し清楚なる四阿を設けて接待所となし此に大釜を備へて日々人蔘湯を沸かし無料にて休憩者の飲用に供せられたり

||四||

平尾賛平氏は其の特設のレスト館に附屬して小休憩所を設け共同腰掛十脚を配置し以て入場者の無料休憩に充てられたり

||五||

仁丹本舗森下東京倉庫にては會期中場内各處に共同椅子五十脚を配置し以て入場者の無料休憩に供せられたり

第十一節 救 難 所

日本赤十字社東京支部にては本會の請求に依り會期中土曜日、日曜日及祭日に限り同社救護員一組（醫員一名、看護婦二名、人夫一名）を會場内の詰所に派遣し臨時の救護に備へられたり而して其他の平日に在りては本會に於て看護婦一名を常置して應急の備とし事あるときは豫て特約ある醫師の來診を請ふこととなせり其の詰所は正門内の右側に設置したり

第十二節 正 門

正門は白壁塗にして高さ五拾尺、幅四拾尺、冠木の中央に本會の徽章を表はし頂上に彩旗を掲げたり

第十三節 山下裝飾門

會期中上野公園山下袴腰より上野元黒門町二十五番地々先に掛け本會裝飾門を建設し以て參觀者の爲に案内の便を圖れり門は高さ四十尺、幅三十八尺にして左右の柱に本會の徽章を表はし冠木には横に「化學工業博覽會」の七大字を割し夜間は紅色電燈を以て之を現はす左右門柱の上部は前面に會章を現はし又冠木の中央上部には裝飾塔を設けて壯觀を添へたり

第十四節 裝飾兼示道塔

會期中市街の裝飾と參觀者の案内とを兼ね上野元黒門町二十番地々先（三橋際不忍池寄）に本會裝飾兼示道塔を建設したり塔は大島直樹氏の設計に成り圓形白色にして高さ三十三尺を有し頂上に化學と工業とを意味せる衡器、天秤を捧げる女神の像（藤井祐浩氏作）を安置し之と對面の家屋に照明投光器を装附し夜間は是より塔の前面を照射することとなせり

第十五節 萬世橋揭示場

會期中神田區萬世橋際の道路敷地(高架線際)をトして特に本會揭示場を建設したり揭示板は長さ一間幅二間にして之に廣告畫(電車内に掲げたる廣告畫と同圖案のもの)を描き以て參觀者の案内となせり

第十六節 建 札

開會九月二十日
閉會十一月十八日



本會の開設を廣告するの目的を以て開期中東京市中の重なる十字路、重なる橋際、公園入口、電車交叉點、停留場其他繁華樞要の地區並に各道鐵驛前等に別掲圖面の如き建札を約七十ヶ所に建設すること、なし中部及東部兩鐵道管理局、各警察署、市役所等の許可を得て之を實行したり

第十七節 廣告畫(繪ビラ)の揭示



廣告畫(繪ビラ)



(ラビ繪) 廣告
(張揚内車電)



(ラビ繪) 廣告
(張揚内車電)

上野公園不忍池畔

九月廿八日 至 十一月十八日

化 學 工 業 博 覽 會

學校、電車、鐵道、汽船、人の出入多き商店等總て日常最も多く人目を惹き易き機關に請ひて會期中別掲の廣告畫(繪ビラ)を適當の場所に掲げ以て公衆の來觀を喚起するに勉めたり。但電車に在りては東京市街、王子、京王、京濱、横濱の各線とし又學校は東京、京都、大阪、神奈川、兵庫、新潟、埼玉、群馬、千葉、茨城、栃木、奈良、三重、愛知、静岡、山梨、滋賀、岐阜、長野、宮城、福島、岩手、福井、石川、富山、和歌山、の三府二十三縣にして其の配付部數は次の如し(但小學校は前記府縣名に圈點を施せる分のみなり)

實業學校	三一六校	師範學校	五〇
中學校	一七〇	高等女學校	一一七
實科高等女學校	七三	小學校	二、七五〇
計	三、四七六		

其他鐵道に在りては中部、東部、西部、北海道、九州の各鐵道管理局。朝鮮總督府鐵道局、臺灣總督府鐵道部、南滿洲鐵道株式會社等各所管の鐵道線路に於ける各主要驛。汽船にありては大坂商船株式會社の各地支店及主要航路の汽船。隅田川汽船株式會社の船客待合所及汽船とし東京市中の飲食店、料理店、氷店、理髮店、酒屋、吳服店。東京に接續する市邑の重なる商店、東京に接續する官私鐵道沿線市邑の重なる商店等皆之を掲げたり而して就中其の各學校、鐵道、汽船等公共的機關に於て右に關し種々の厚慮を煩はしたるは本會の深く謝する所なり

又東京市電氣局が同局に於て廣告畫を調製し一定の期間各電車内通路の上に掲げ以て乗客に本會の開設を知らしめられたるは併せて謝する所なり

第十八節 探照燈の點火

十月二十九日以降(雨天を除く)毎夜本館三階の露臺に於て貳萬燭光の探照燈を點じ以て大に會場の壯觀を添へたり此の探照燈は臺灣總督府の備品を借用したるものにして其の光達距離は前方は遠く神田日本橋方面に及び左方は上野公園の林間を透り、右方は本郷臺及湯島臺に逼り殊に其の燈色は白色、綠色若くは紅色と夜毎に交換せしを以て其の光彩の美觀は以て大に照射圈内の目を集注せしめ人心を喚起したり

第十九節 電燈及電力

會期中本會に於て裝置したる電燈は其數三百六十七燈、七百三十四燭光にして其の内譯左の如し其他に動力として電力を要せしもの二ヶ處、十二馬力あり(但個人に於て其の出品陳列に關し設備せられたるものは此外とす)會期中會場内に屹立する主要の建築物に對し毎夜投光器に依りて外觀を照射し以て大に不忍池畔の夜色に光彩あらしめたり(電氣工事は總て東京市電氣局の擔當に係る)

山	位	燭	力	燈	數
山下	裝飾門	五			一七八

鳥	三	正	車	本	同	同	同	同	同	東	西	北	別	參	教	同	事
橋	又	門	館	館	館	館	館	館	館	館	館	館	館	館	館	館	館
裝飾兼示道	兼示道	兼示道	階	階	階	階	階	階	階	階	階	階	階	階	階	階	階
上塔	上塔	上塔	上塔	上塔	上塔	上塔	上塔	上塔	上塔	上塔	上塔	上塔	上塔	上塔	上塔	上塔	上塔

一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇
三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇
五〇	五〇	五〇	五〇	五〇	五〇	五〇	五〇	五〇	五〇	五〇	五〇	五〇	五〇	五〇	五〇	五〇	五〇

一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇
二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇
三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇

五 燭 光	十 燭 光	十 六 燭 光	二 十 四 燭 光	三 十 二 燭 光	五 十 燭 光	百 燭 光	千 燭 光	二 千 燭 光	四 十 燭 光	計
九四	二〇八	二七九	一三六	一五四	一〇〇	三五	一七	一一	一一	一、〇二七
十分力	四分力	二分力	一分力	一分力	一分力	一分力	一分力	一分力	一分力	計
馬力	馬力	馬力	馬力	馬力	馬力	馬力	馬力	馬力	馬力	計
二七	三七	四七	四四	一四	一一	一一	一一	一一	一一	四九

所々に各其の出品主に於て装置したる電燈の燭力、燈數及其の出品運轉の爲に装置したる電動機の馬力、機數を通計するときは左の如し

右の外、千住製絨所、製鐵所、水産講習所、朝鮮總督府、臺灣總督府其他會社、個人の出品陳列場

噴 液 體 空 氣 製 造 機 械	位 置	馬 力
噴 水 塔		一〇馬力 二

計	同 巡 物 救 噴 中 池 表 裏 其	衛 詰 所 (正門入口) (本館入口)	品 査 預 詰	の 護	他 塀 塀 端 庭 水 所 所 所
六、七三四	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
三六七	九	六	六	八	四
	二	八	一	一	一

第二十節 臨時郵便出張所の開設

本會開會式に際し下谷郵便局にては當日特に出張所を本會正門内に設けて局員を出張せしめ同所に於て受付たる郵便物に對しては紫色インキを以て日付印を押捺し以て當日の記念と爲せり

第二十一節 請願巡查派出

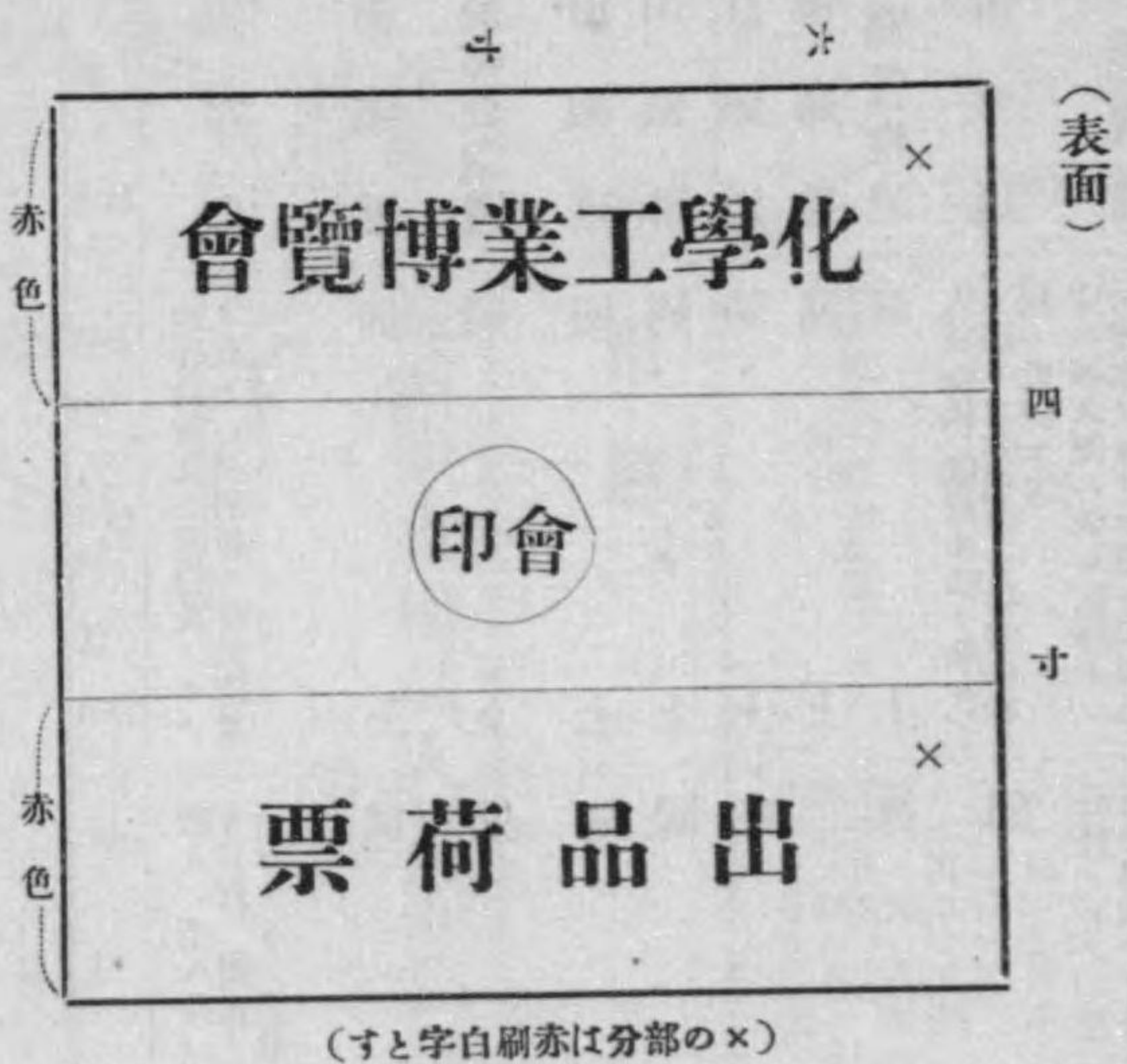
會期中場内取締のため請願巡查派出の件を警視廳に出願し許可を得て日夜三名つゝ常詰せらるゝことゝなれり

第三章 出品

第一節 運賃及乗船車賃の割引

出品物、出品人、關係役員及觀覽人等に對する運賃若くは乗車船賃の割引は博覽會の盛否に關係する所小少ならざるを以て本會は鐵道院其他鐵道會社、汽船會社に請ふて夫々賃金割引の承諾を得、其の運賃割引に付ては「出品荷票」を製し裏面に割引の線路、歩合、期間、區間等を詳記し又乗車船賃に付ては「割引證」を製し裏面に割引の線路、方法、歩合、期間等を詳記し以て各要求者に相當の枚數を交付したり其の「出品荷票」及「割引證」は左の如し

出品荷票



(すと字白刷赤は分部のx)

(裏面)

其會社他名	其割引ノ歩方法及合	割引期間	割引區間
鐵道院線	速達便扱及小荷物扱ノモノハ除キテ割引但シ航路運賃ハ低減セズ	搬入ノ際八月一日ヨリ十月廿日迄 搬出ノ際十一月廿日迄	(イ)院線、德島線、總武線ヲ除ク各驛及釜山、沙留、飯田町又ハ秋葉原驛トノ相互間但シ北海道各線ヨリハ函館、青森間航路經由ニ限ル (ロ)總武線各驛ト兩國驛トノ相互間 社線連絡驛ト沙留、飯田町又ハ秋葉原驛トノ相互間
青梅鐵道	同	同	社線連絡驛ト沙留、飯田町又ハ秋葉原驛トノ相互間
千葉縣輕便鐵道	同	同	野田線各驛ト秋葉原驛相互間 多古線各驛ト秋葉原又ハ兩國橋相互間 間久留里線連絡驛ト兩國橋相互間
成田鐵道	同	同	社線連絡驛ト秋葉原驛又ハ兩國橋相互間
豐川鐵道	同	同	社線連絡驛ト沙留、飯田町又ハ秋葉原驛トノ相互間
近江鐵道	同	同	社線連絡驛ト沙留、飯田町又ハ秋葉原驛トノ相互間
越後鐵道	同	同	社線連絡驛ト沙留、飯田町又ハ秋葉原驛トノ相互間
宮崎縣營鐵道	同	同	社線連絡驛ト沙留、飯田町又ハ秋葉原驛トノ相互間
朝鮮鐵道	人貨物扱(速達便扱ヲ除キ)ニ限リテ割引但シ發着手数料ハ低減セズ	同	社線連絡驛ト沙留、飯田町又ハ秋葉原驛トノ相互間
南滿洲鐵道	貨物列車便ニ依ル貨物トシテ運送ノモノニ限リ線内ニ割引但シ發着手数料ハ低減セズ	搬入ノ際八月一日ヨリ 搬出ノ際十一月廿日迄	社線內鐵道院線トノ連絡貨物取扱各驛ト沙留、飯田町、秋葉原驛トノ相互間
中國鐵道	院線內割引區間カ岡山線トテ包含セル場合ニ限リ院線ト同一條件ニ依リ割引	搬入ノ際八月一日ヨリ 搬出ノ際十一月廿日迄	社線內鐵道院線トノ連絡貨物取扱各驛ト沙留、飯田町、秋葉原驛トノ相互間

(表面)

氏名	住所	割引證	割引證	割引證	
		武藏野鐵道	五割	八月一日ヨリ十二月二十日迄	内地、朝鮮、臺灣、樺太、關東州、諸港相互間
		東上鐵道	同上	同上	同上
		日本郵船	同上	同上	同上
		東洋汽船	二割	九月二十日ヨリ十一月二十日迄	社船ノ寄港スヘキ日本各諸港
		大阪商船	五割	八月一日ヨリ十二月二十日迄	内地、臺灣、大連、朝鮮、各港ト神戸、大阪間
		東武鐵道	速達便及小荷物取扱ノモノヲ除キテ割引	搬入ノ際八月一日ヨリ十月廿日迄 搬出ノ際十一月廿日迄	社線各驛ト淺草驛トノ相互間

化學工業博覽會出品人及關係役員汽車汽船賃金
割引證

等切
級符

等
區乘車船
間至自

驛驛

注意事項

- 一 此ノ證ハ乘車船券購求ノ際掛員ニ渡シ割引ヲ得ルモノナレハ欄内事項ハ必ス記入シ持參セラルヘシ但壹人壹回ニ限ル
- 一 本證使用者ハ列車、船舶出發時刻三十分前迄ニ停車場、乘船場ニ到着シ乘車船券ヲ購求スルヲ要ス
- 一 割引乘車船券ハ通用期間内ノモノト雖モ本證裏面ノ發賣期間内ニ使用ヲ開始セサルトキハ割引ヲ取消サルルモノトス
- 一 割引乘車船券ハ券面ノ著驛、港ヲ乘越シ又ハ優等車室ニ乗換ヘ若クハ方面ノ變換ニ對シテハ夫々特別ノ制限アルモノト承知セラレタシ
- 一 一般公衆ニ對シ既ニ割引セラレタル場合又ハ特種ノ割引乘車船券ニ對シテハ更ニ本割引證ニ依リ割引ハ爲ササルモノトス
- 一 鐵道院割引乘車船券ハ往路ニ於テ復片ヲ具備セサルトキハ無効トス
- 一 同上割引乘車船券ハ往片使用ノ後ハ復片ヲ使用セサルモ之ニ對スル賃金ノ拂戻ヲ得サルモノトス

化學工業博覽會

注意 本證使用ハ記名本人ニ限ル又十二歳未滿ノ者ニハ適用セス

(裏面)

化學工業博覽會出品人及關係役員汽車汽船賃金割引表

院及會社 名其他	割引 方法	割引 歩合	切符發 賣期間	切符通 用期間	摘 要
鐵道院	往復	二割引 (二、三等 ニ限ル)	八月十日 ヨリ十月 二十日迄	發賣ノ日 ヨリ十二 月十五日 迄	(イ) 東海道線、山陽線、讃岐線、關西線、山陰線、九州各線 (ロ) 各驛所釜山ヨリ新橋又ハ東京驛行陸羽線、奥羽線、信越線、岩越線、北 海道各線各驛ヨリ上野驛行但北海道港線ヨリハ函館、青 森間經由ニ限ル (ハ) 北陸線各驛ヨリ新橋、東京又ハ上野驛行 (ニ) 中央線各驛(萬世橋、中野間ヲ除ク)ヨリ新橋、東京又ハ飯 田驛行 (ホ) 總武線各驛ヨリ兩國橋驛行

青梅鐵道	同	同上	同上	同上	社線連絡ヨリ飯田町驛行
東武鐵道	同	同上	同上	同上	社線各驛ヨリ淺草驛行
千葉縣輕便鐵道	同	同上	同上	發賣ノ日 八月十五日迄	野田線連絡ヨリ上野驛行 久留里線連絡ヨリ兩國橋驛行
成田鐵道	同	同上	同上	同上	社線連絡ヨリ上野驛又ハ兩國橋驛行
豐川鐵道	同	同上	同上	同上	社線連絡ヨリ新橋又ハ東京驛行
近江鐵道	鐵道院線ニ同シ				同
越後鐵道	鐵道院線ニ同シ				社線連絡ヨリ上野驛行
宮崎縣營鐵道	同上	二割引三 等ニ限ル	同上	同上	連絡驛ヨリ新橋又ハ東京驛行
朝鮮鐵道	豫テ局線主要驛ト新橋又ハ東京驛間ニ割引往復乗車券(通用六十日間)ノ設定アリ				
南滿洲鐵道	鐵道院線間ニ朝鮮經由割引往復乗車券(二ヶ月間有効)發賣アリ 割引日詳細遊券ヲモ發賣アリ				
中國鐵道	鐵道院線内割引區間カ岡山驛ヲ包含セ ル場合ニ限リ院線ト同一條件ニテ割引			八月一日 八月二十日迄	
武藏野鐵道		五割引		八月一日 八月二十日迄	

東上鐵道	同上	同上	同上	同上	内地、朝鮮、臺灣、樺太、關東州、諸港相互間
日本郵船	同上	二割引	同上	八月一日 八月二十日迄	内地、朝鮮、臺灣、樺太、關東州、諸港相互間
東洋汽船	同上	同上	同上	八月一日 九月二十日迄	社船ノ寄港スヘキ日本各港間
大阪商船	同上	同上	同上	八月一日 八月二十日迄	内地、臺灣、大連、朝鮮、各港ト神戸、大阪相互間

右ノ外普通團體並ニ官、公、私立學校ノ學生、生徒ノ團體觀覽ニ付テハ鐵道院線ニ限リ其ノ特定率ニ依リ本會期中ヲ限リ左ノ通り割引セラルルコトナレリ

一、二十五人以上一團ト爲リ二十哩以上ノ區間ヲ旅行スル場合ハ左表ニ依ル

割引率 (三等ニ限ル)

哩程	人員	割引率	人員	割引率	人員	割引率	人員	割引率
二十哩以上	二百人以上	二〇〇	二百人以上	二二〇	三百人以上	二六〇	三百人以上	二九〇
五十哩以上	二百人以上	二二五	二百人以上	二四五	三百人以上	二八五	三百人以上	三一五
百哩以上	二百人以上	二五〇	二百人以上	二八〇	三百人以上	三一〇	三百人以上	三四〇
二百哩以上	二百人以上	二七五	二百人以上	三〇五	三百人以上	三三五	三百人以上	三六五
三百哩以上	二百人以上	三〇〇	二百人以上	三三〇	三百人以上	三六〇	三百人以上	三九〇
								四百人以上
								四二〇

一、同一官、公、私立學校ノ學生、生徒職員及附添人ヲ要スル生徒ノ附添人ニ依リ組織セルモノ二十
五人以上一團ト爲リ十哩以上ノ區間ヲ旅行スル場合ハ左表ニ依ル

割引率 (三等ニ限ル)

人員	割引率
廿五人以上	三〇〇
百人未滿	三二五
二百人未滿	三六五
三百人未滿	四〇五
四百人未滿	四二〇
五百人以上	四六〇
五百人以上	五〇〇
五百人以上	五二五
五百人以上	五五〇
五百人以上	五七五

三、同一工場ノ職工及其世話人ニ依リ組織セルモノ五十人以上一團ト爲リ十哩以上ノ區間ヲ旅行スル
場合ハ左表ニ依ル但シ世話人ノ數ハ職工五十人ニ付三人ヲ超過スルコトヲ得ス

割引率 (三等ニ限ル)

人員	割引率
五十人以上	四二五
一百人以上	四七五
二百人以上	五二五
三百人以上	五七五
四百人以上	六二五
五百人以上	六五〇

四、割引賃金ハ一人毎ニ算出シ厘位ヲ錢位ニ切上ク

四年以上十二年未滿ノ小兒及學生團體トシテ取扱フ尋常小學校生徒ハ前項大人割引賃金ノ半額トシ

厘位ヲ錢位ニ切上ク
五、本表ノ割引ハ鐵道院規定ノ第二ニ相當スル率ニシテ化學工業博覽會開催中ハ此率ニ依リ割引セラ
ル、モノトス

第二節 一般出品

一般出品は北海道、樺太の二應並に東京、京都、大阪の三府、神奈川外三十四縣（長崎、茨城、奈良、
秋田、福井、富山、大分、沖繩の八縣は出品なし）及朝鮮、臺灣、關東州等にして其の出品人員千四
百八十八人、出品點數六萬八千貳百八拾壹點あり今之を部類別及地方別に表記すれば左の如し

一般出品人員及點數統計

部	部		地		方	
	類	別	方	別	類	別
第一類	九八	一、二四三	北海道	二	二〇六	
第二類	六二	一、七〇二	樺太	一	五〇	
第三類	八七	六、六一六	東京	五八七	四一、二一五	
第四類	二	二	京都	四二	四、九〇四	
第五類	八	四七	大阪	一八七	六、七五一	
第六類	七	六八	神奈川	一八	六〇三	
合計				六五		

官 計 計 應	第 二 類						小 計	第 二 十 六 類	第 二 十 七 類	第 二 十 八 類
	小 計	第 三 十 四 類	第 三 十 三 類	第 三 十 二 類	第 三 十 一 類	第 三 十 類				
一、四八八	八四	五	一	一	一九	三七	一、三七〇	二六	二一	二一
六八、二八一	六二、〇一四	二七三	二二六	二	二、二五九	二、一六六	六二、〇一四	四、一〇五	三、四九四	一、八三六
關 臺 朝 鹿 宮 熊 佐 福 高 愛 香 德 和 山 廣 岡 島 鳥	計 東 兒				歌					
州 灣 鮮 島 崎 本 賀 岡 知 媛 川 島 山 口 島 山 根 取										
一、四五三	三七	二二	一一	一一	二五	八四	四〇	二九	二七	九一
六七、〇三四	一、九三四	二、四九七	一一	一八	五〇	四七六	一、二四四	二六	一四七	三七六
六七、〇三四	一、九三四	二、四九七	一一	一八	五〇	四七六	一、二四四	二六	一四七	三七六

類 一

第 二 十 五 類	第 二 十 四 類	第 二 十 三 類	第 二 十 二 類	第 二 十 一 類	第 二 十 類	第 十 九 類	第 十 八 類	第 十 七 類	第 十 六 類	第 十 五 類	第 十 四 類	第 十 三 類	第 十 二 類	第 十 一 類	第 十 類	第 九 類	第 八 類	第 七 類
一〇七	七	三九	一四	一三	三六	三一	四四	八	三四	一五	七四	一二	一四七	七九	五四	七三	九	一〇九
一、二六四	一四七	一、〇七七	三二	三〇四	四、三七九	九三八	七六八	九一	六、三一四	一七、四〇五	一七四	六一	三、九三三	三三一	二、一六	三二八	三、二五五	九八一
石 山 青 岩 福 宮 長 岐 滋 山 靜 愛 三 枋 千 群 崎 新 兵																		
川 形 森 手 島 城 野 阜 賀 梨 岡 知 重 木 葉 馬 玉 瀧 庫																		
二	一	一	一	二	三	二	二	二	一	九	二八	一五〇	四	二	二	二〇	二	四四
二七	一〇五	六	三	一一二	八六	七四	三五	七	八七	三五	五六八	二、六二六	八六	六三	一九	一一九	二七	二、七〇九

官	
計	一、二四七
合	三、四
計	一、四八八
應	六八、二八一

六八

第三節 官廳出品

官廳出品は其の出品應三十應にして出品點數一千貳百四十七點あり此他に三重縣立工業學校よりも出品の等なりしか準備中不幸にして擔當主任教員外二名の退職者を生したる爲め齟齬を來し遂に出品を見るに至らず又衛生試験所及水産講習所は十月一日暴風雨のため出品に多大の被害を來し爲に後再び其の陳列を見るに至らざりしは甚遺憾の至なりき、其の陳列の位置は参考館、教育館及北館（新領土出品）にして各應の出品名並に主要なるもの、狀況は概ね別項記載する所の如し

官廳出品點數統計

官	應	出品點數	官	應	出品點數
東京衛生試験所		五九	東京高等工業學校		一〇
大阪衛生試験所		二六	大阪高等工業學校		一一〇
醸造試験所		八二	農商務省商品陳列館		二一
陸軍被服本廠		一一	農商務省山林局		二一五
東京砲兵工廠		九八	農商務省鐵局		八三
大阪砲兵工廠			特許局		三〇

陸軍技術審査部	陸軍糧秣本廠	陸軍被服本廠	臨時軍用氣球研究會	海軍造船省	海軍造兵廠	東京教育博物館	東北帝國大學
二三	二五	五〇	一	一	八五	七	一〇
工業試驗所	水産講習所	遞信省電氣局	東京府立第一高等女學校	市立大阪工業研究所	富山縣工業試驗場	朝鮮總督府	臺灣總督府
計							
一、二四七							

第四節 館外出品

出品中其の容積の巨大なるため、陳列の特殊なるかため又は實驗を施行するに關し普通出品に伍し難き等より本館又は別館に排置せずして館外に陳列したるものあり即左の如し

- 一、移動式水素瓦斯發生機（シーメンス、シュツケルト式） 臨時軍用氣球研究會
- 一、鋼管各種 日本鋼管株式會社
- 一、スポンヂタイヤ 福田護謨製造所

- 一、酸素應用銲接截斷裝置
- 一、美術塗料古代青銅色塗應用器具

日本酸素合資會社
株式會社 橋本店

第五節 出品の特別運轉及實驗

本會出品の中毎日若くは特定日に於て開場時間中若くは特定の時間に限り其の排置の機械を運用して各目的の事項を實驗し以て觀覽者の爲に參考上多大なる裨益を與へたるもの多し今其の重要なものを列擧すれば左の如し

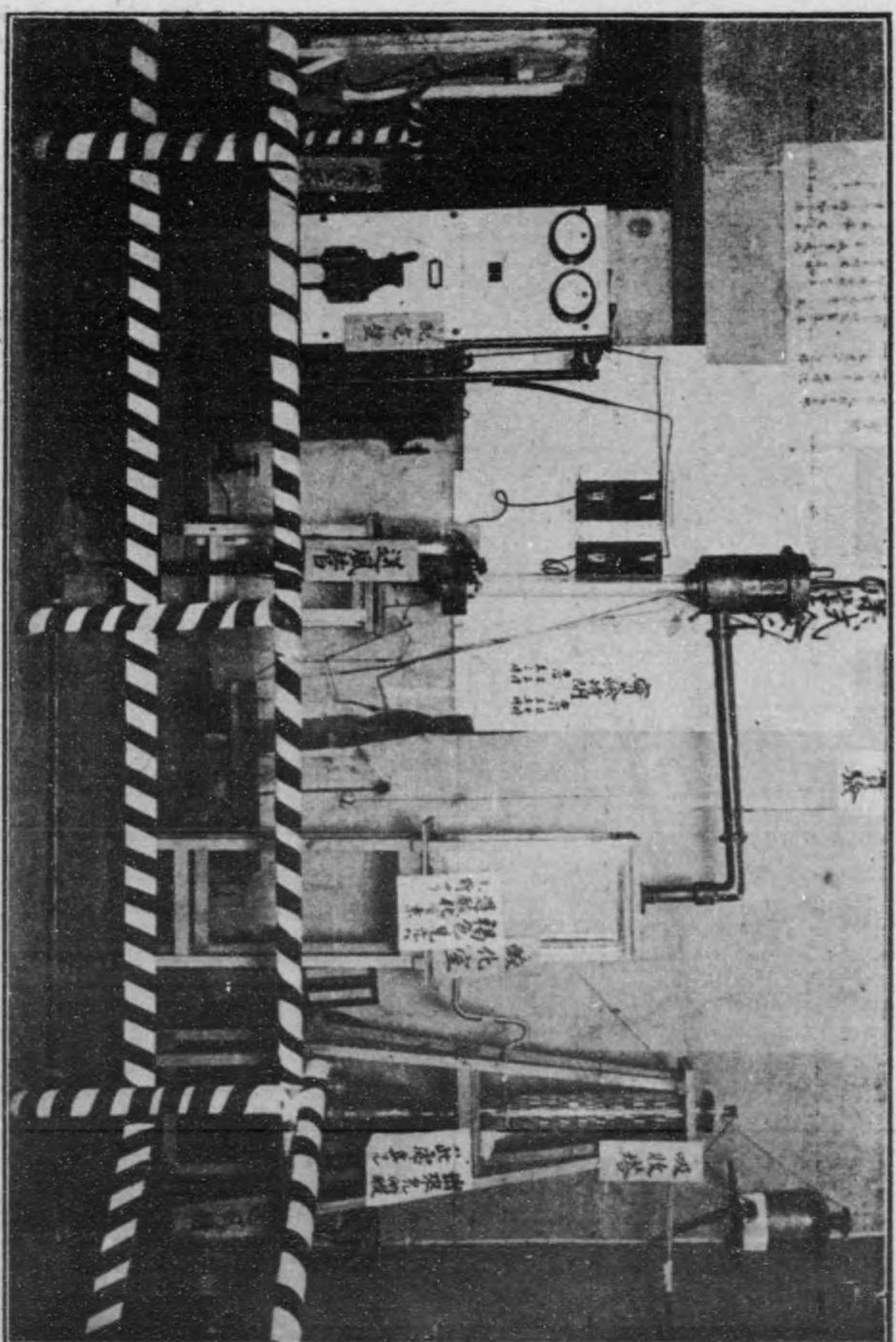
工業試驗所特別出品 空中窒素固定實驗 (參考館)

空中無盡藏の遊離窒素を固定して人類生活上缺くべからざる窒素化合物の人工補給を講ずるは現時化學工業界焦眉の一大問題にして本實驗は之か解決の一方法なり
 本法は本所の研究に係り空氣より硝酸製造の工程を示すものにして本裝置中長き硝子管より成れる電爐中の火焰は其の下端より螺旋狀に吹き上げられたる空氣中の窒素が高壓電氣作用にて直接の酸化作用を受くるに依り發生せるものにして茲に成生せる酸化窒素瓦斯は硝子製酸化室に導かれ更に酸素と化合して褐色の過酸化窒素となり硝子塔にて滴下する水に吸収せられて硝酸となるものなり 毎日午前十時より十一時まで、午後二時より三時迄運轉

火藥、爆藥。

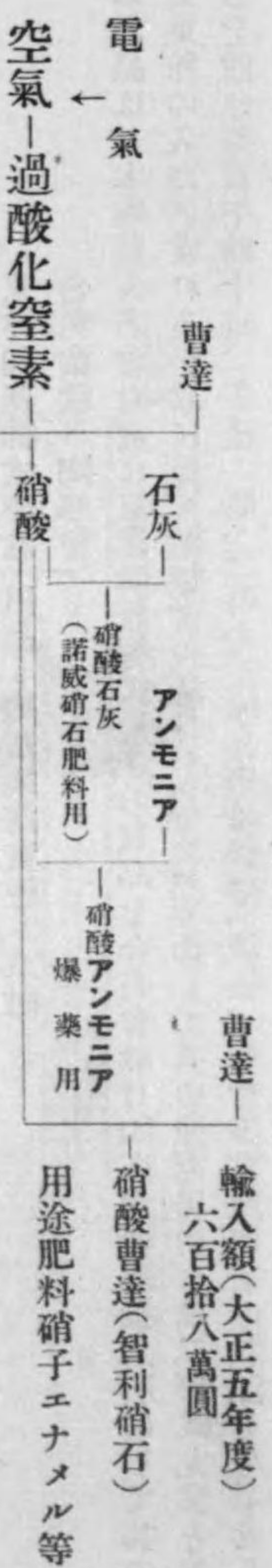
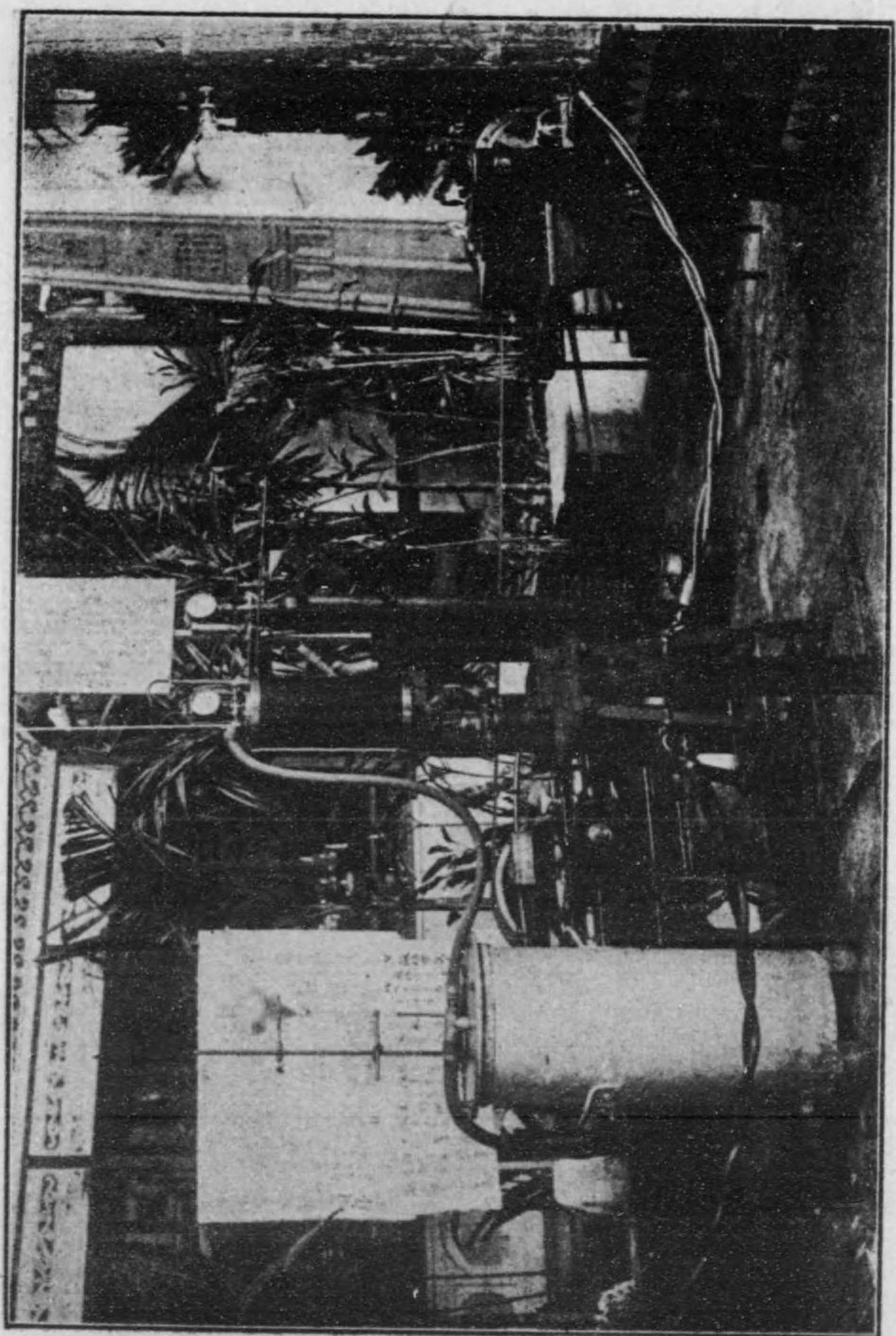
固定窒素の用途

染料、セルロイド、硫酸。
其他化學製品の原料



工業試驗所出品 空中窒素固定裝置

臺灣總督府研究所出品 液體空氣製造機



臺灣總督府研究所特別出品 液體空氣製造 (北館)

此の實驗は土曜日、日曜日及大祭日は午前十一時、午後三時の二回、其他は毎日午後三時これを施行せり

此の實驗に使用せる液體空氣製造機械はハンブソン式にして動力六馬力を要し一時間約一リットルの液體空氣を製造し得るものなり、本機械は實驗用にして其の能率低きも其の構造非常に簡單にして取扱輕便なるか爲に各處の研究所に於て汎く使用せらる。液化すべき空氣は豫め消石灰を容れたる槽を通して空氣に含まるゝ炭酸瓦斯を除きたる後壓縮唧筒にて約二百氣壓に壓縮す、壓縮唧筒には水及油を減摩劑として用ふるにより壓縮空氣は水及油を含むを以て之を清淨室に送りて是等を分離し尙含有せらるゝ水及炭酸瓦斯を苛性加里を用ひ除去したる後冷却装置に導くものなるか此の装置は蛇管より成り此の蛇管に二百氣壓の空氣を送り下方の孔より噴出し一氣壓に下降せしむ、元來壓縮瓦斯を小なる孔より放散せしむるときは孔の前後の壓力の差一氣壓につき其溫度一度の四分の一の降下を來すも

のなるを以て此の場合孔の前後の差二百氣壓なるにより温度五十度の低下を見るへし、こゝに冷却せる空氣は外方の蛇管を昇りて再び壓縮唧筒に送られ二百氣壓に壓縮せらる、かゝる操作を反覆すること約十分間にして空氣は零下百四十度以下に至るに及び、蛇管の孔より噴出せらる、空氣の約五分の一は液化せられ残部は再び壓縮唧筒に復歸すへし、是を以て隨時下方の活栓を開き蓄積せる液體空氣を受器に採取するものとす。

液體空氣の沸騰點は普通の氣壓にては攝氏零下百九十度を有し之か容器は中間真空となせる二重壘用ひらる。

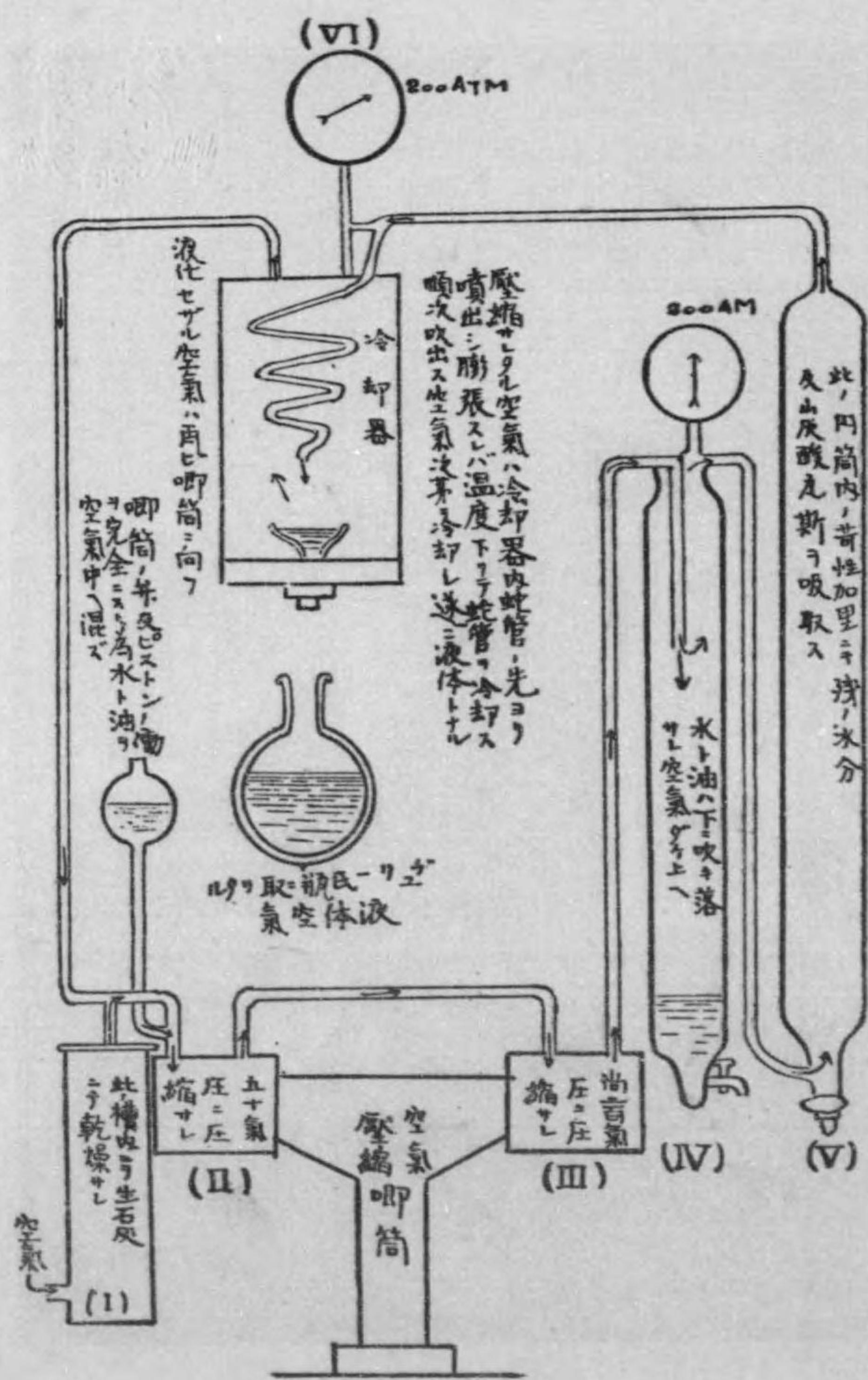
あり酸素はアセチレン瓦斯と共に燃焼してオキシアセチレン燐となし金屬の熔接及切斷に應用し又窒素は石灰窒素、アンモニアの合成等に利用せらるゝなり。

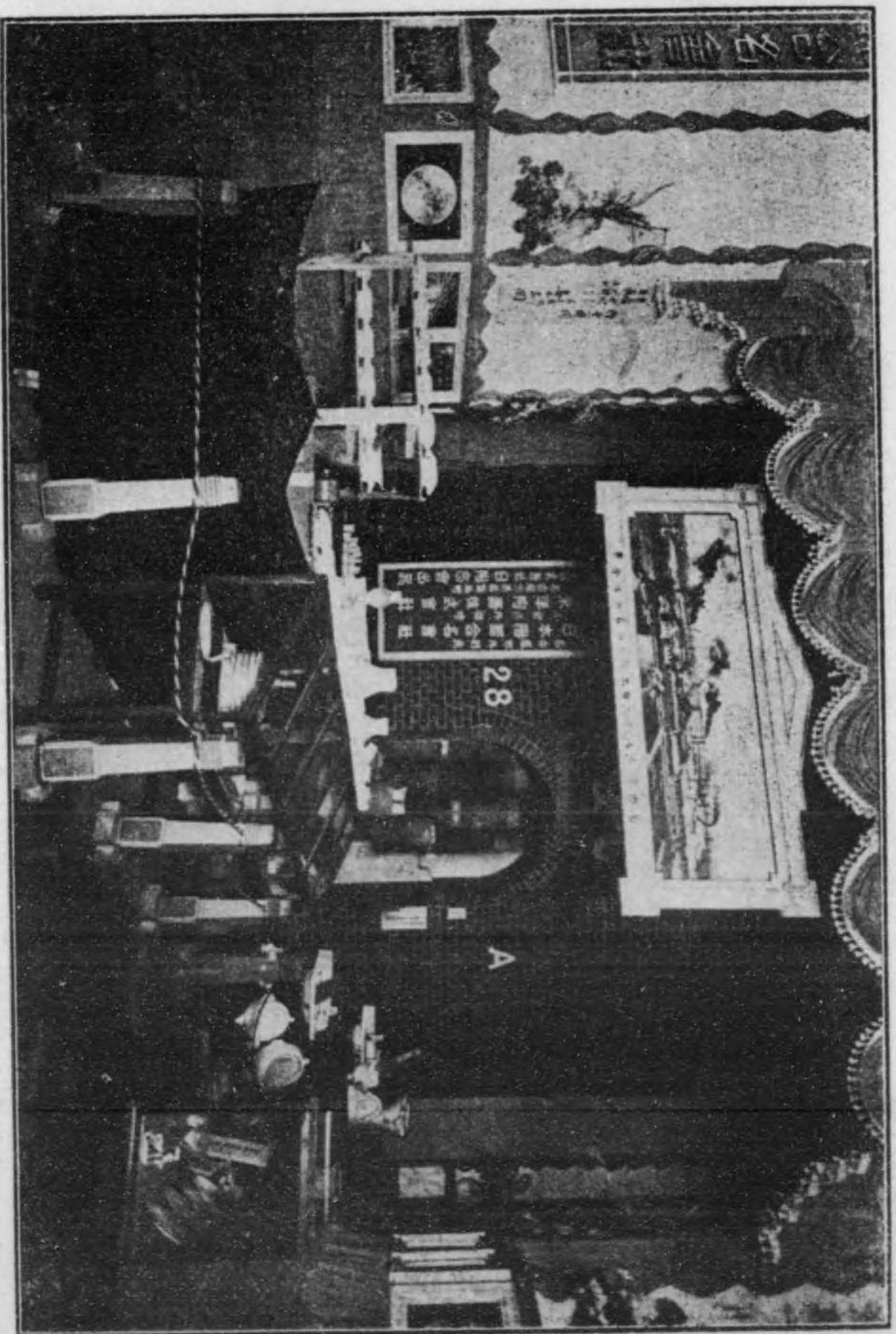
臺灣總督府專賣局出品 小形壓搾樟腦製造 (北館)

小形壓搾樟腦を製造するの實驗にして毎日これを施行せり方形にして中央に台字を表出せる凹型(鐵製)に樟腦を入れ電力を以て壓搾を加ふるときは一回に數個を出す簡易なる作業なり

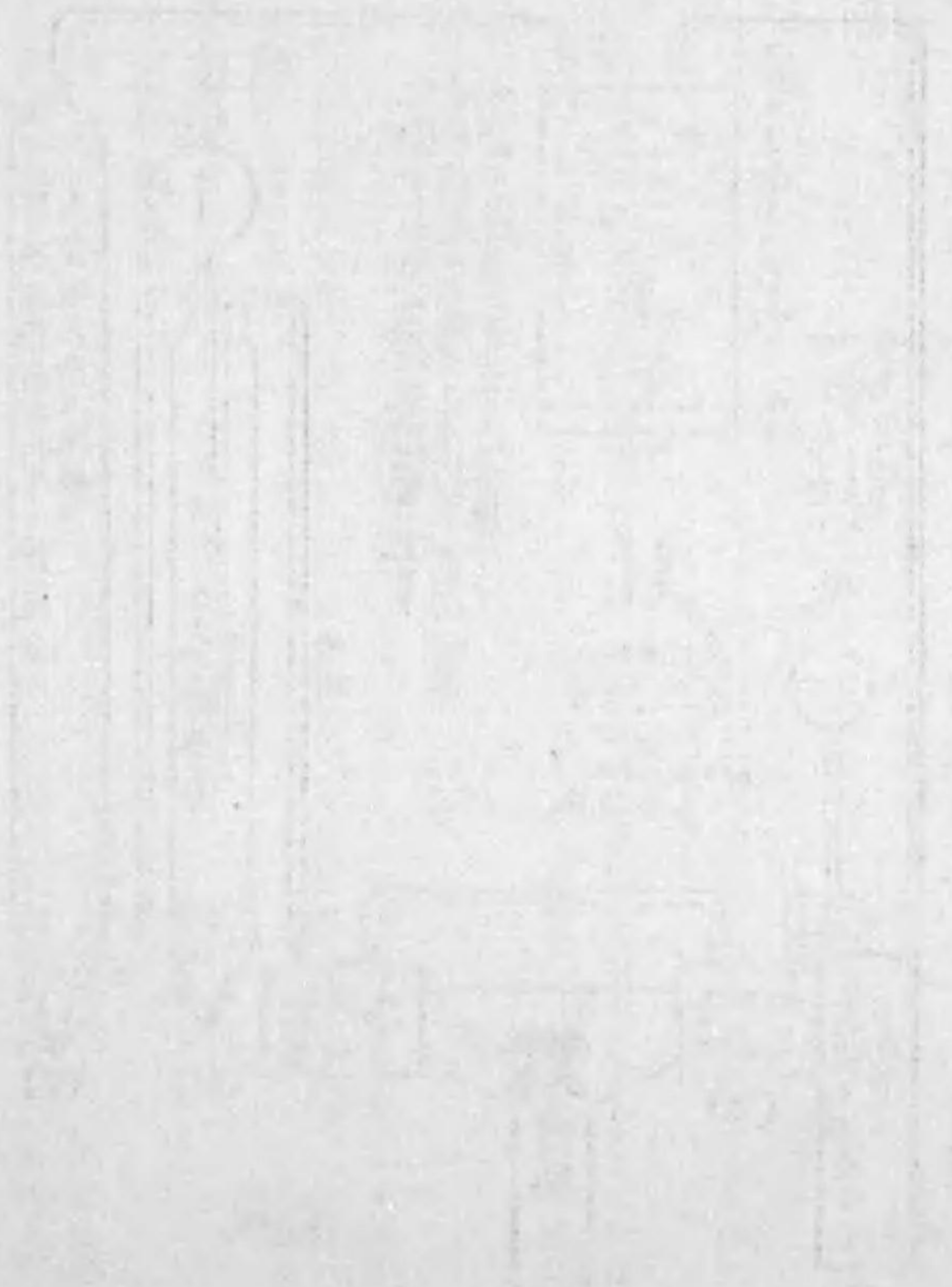
日本陶器合名會社
東洋陶器株式會社 出品 陶器製造實驗 (東館)

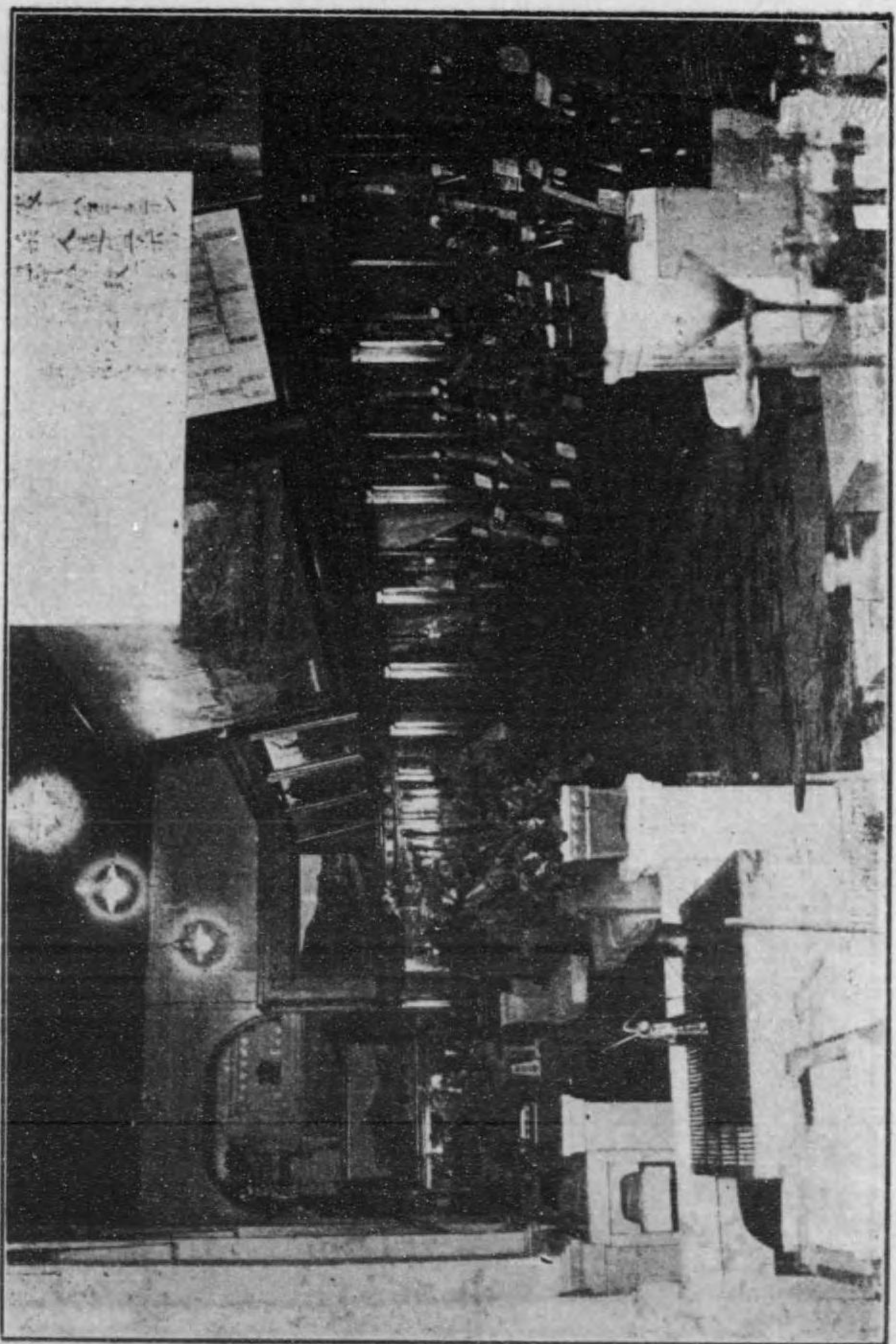
本出品は日本陶器合名會社並に東洋陶器株式會社の製品を合名會社日陶商會の取扱ふ所にして其の位置東館の入口に當れるか故に最も觀覽者の注目を惹き易く而して其の陳列場内には二層式丸窯と繪付窯を設け毎日午前十時、午後一時、三時の三回に機械轉轉、流込、繪付等實地作業の狀況を現示せしか





日本社会福祉会出品





中にも其の流込成形法は同社の創案に係るを以て殊に公衆の注目する所となれり但日本陶器合名會社は名古屋市外中村字則武に在り、東洋陶器株式會社は小倉市外篠崎に在り、共に其の製品は本邦産最良の原料を用ひ、歐洲最新式の機械を以て之を精製し、上薬は伯林磁器規定釉藥等の最強なるものを調合し且本邦陶磁器焼成に比類なき高點(千四百度以上)を以て焼成するか故に素質堅硬にして金屬を以てするも表面に痕跡を印する能はず又能く瓦斯若くはアルコホルの火熱及冷熱の急變に耐え又酸類の腐蝕に對して頗る強度の抵抗力を有し製品の優良嶄然本邦の斯業界に傑出せるの觀あり

三井鑛山株式會社出品—染色實驗(東館)

三井鑛山は三井家の事業たる銀行、貿易、倉庫と相並へる事業の一にして初は北海道岩雄登鑛山、岐阜縣神岡鑛山のみなりしか今は福岡縣三池鑛山其の他をも合し本邦最大の炭鑛事業となれり

本出品の染料は三池産出のコールターを主要原料として製造成功せるものにして陳列所の一部に於ては日々ニトロサミン、バラニトラニリン即赤染と人造藍染の染色の實驗を施行し以て之を公衆に説示し且其の成品を希望者に分ちたり

尙其の陳列せられたる染料及原料の主要なるもの、名稱を列舉すれば左の如し

染料類。アリザリン、レッドM、B、I。アリザリン、レッドM、Y、I。アリザリン、オレンジ。アリザリン、マルイン。アリザリン、アルIS、W。アリザリン、レッドS。アニリン、サルト。バラニトラニリン。ニトロサミン。オレンジII。コンゴI、レッド(試製中)。ファスト、レッド(試製中)。ピスマイク、ブラウン(試製中)。サルファI、アラック。サルファI、ブルー(試製中)。インドイン、ブルー(試製中)。インヂゴ(試製中)。

染料原料類。ベンゾール(九〇%)。トルオール。ザイロール(試製中)。アニリン、オイル。ナフサリ

ン。ベタ、ナフトール。昇華アンスラシン。石炭酸等あり。石炭及び其乾餾副産物としては石炭。コークス。レトルト。カーボン。コイル。タール。硫酸安母尼亞。ピッチ。クレオソート油。重油。ソルベント、オフサ等。

合資會社新田帶革製造所出品調帶使用實驗（東館）

特許耐水調帶及耐水、耐熱調帶の實用を示せるものにして前者は電動機に依りて水槽中に回轉し、後者は前者と接して熱湯中に回轉す此の耐水性調帶は絶對的効力を保たしむべく同製造所に於ける最近の發明に係り接合部に銚、釘、紐等の補助材料は一切用ふることなく華氏二百十二度までは水中に運轉して故障なきのみならず濃厚ならざる酸中に使用するも差支なく殊に防水用として使用するときは能く調車を抱合し著しく牽力を増加するの効ありといふ

尙其の他に新田式ペラタ調帶。環狀製調帶、耐水及耐熱ベルト、星印澁エキス並に其の原料（北海道産檫皮）等を陳列したり。本出品の製造所は明治十八年三月の創業に係り本邦帶革製造業者の尤者として各地諸工場の需要を足し延て海外市場にも歡迎せらるゝに至りたるは寔に慶すべきなり

大陽製帽株式會社出品帽子編製實驗（西館）

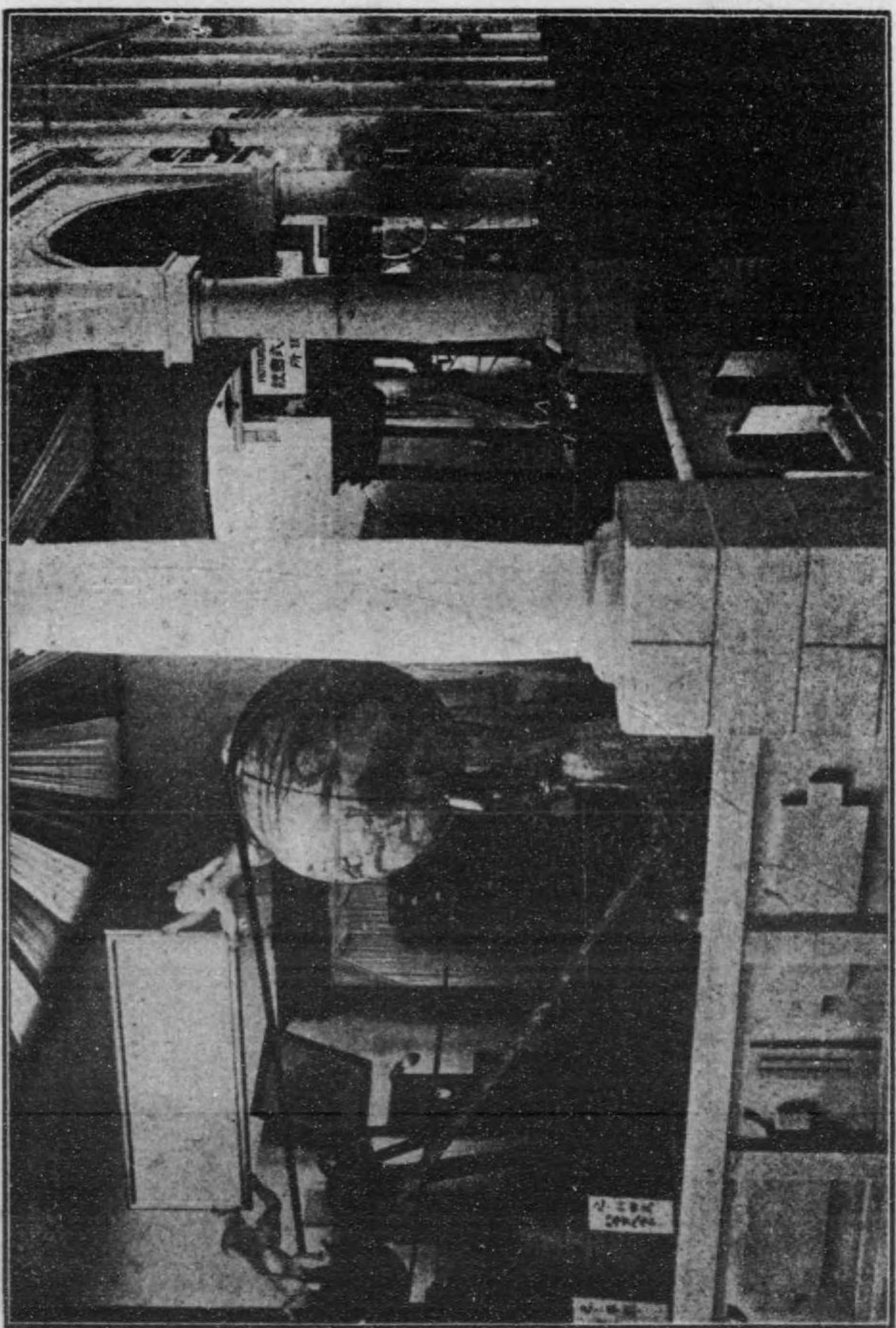
電力に依りて燃紙機械を運轉し以て細長なる紙片を撚條となし之を編みて夏帽子所謂世界バナマを製す。他の東洋バナマと稱するものに似たる所あるが如くなれとも此の世界バナマは三個の專賣特許權と六個の實用新案權を有す固より別種の發明に屬し將來有望の品なるへし毎日運轉

田中合名會社出品化學實驗其他（教育館）

出品場所は間口十一間、奥行二間半を二室に區分して其の右室を古代化學實驗室となし、左室を現代化學實驗室となす而して又其の左室内の一部を附屬動力機械の位置となし他の一部は壁側にて外來の



日本電氣株式會社特設館



光線を利用して顕微鏡の位置となせり
古代實驗室には安本龜八の製作に係る古代鍊金學者の人形壹個を安置し所謂アルケミスト時代の事物を眼前に髣髴たらしめ。現代化學實驗室にては動力を利用して機械の運轉を示すのみならず日々種々の化學實驗を行ひ又顕微鏡は十臺を排列し毎個に細微の動植物等を鏡檢するに備へたり
右の陳列場は會場中深く觀覽者の注意を惹き毎日最多數の群聚する位置なりき

東京菓子株式會社特設館—菓子製造

東京市外新大久保なる同社工場の外觀を背景となして中央には米國製菓子製造機械を据付け電力に依りて機械を運轉し、瓦斯に依りて熱度を利用し技師米人エツカー氏、同ペイドリック氏夫妻時々出張監督の下に同社新案の各種の菓子を製造せり成るに隨て賣出せは隨て賣切となり毎日數萬袋を販賣するの盛況を呈し本會賣店中第一の熱鬧を見たり

三共株式會社特設館—製藥事業狀態

本特設館は間口十間、奥行四間にして四十坪を有し三面には會社工場及作業室の一部を背景畫にて現し正面入口の兩側に約三坪宛の區劃を設け其の一には化學工業用最新式機械特にバキューム、ドラム、ドライヤー其他數種を參考品として陳列し又本社醫科器械部より電氣治療機械等を出陳し毎日之を運轉して電氣の應用を公衆に示すこととせり又一方の區劃内には最新式錠劑器二臺を陳列し實地に之を運轉して錠劑の方法及器械の能力を供覽すると同時に近時世界製藥業の趨勢か藥品を最も簡易に且服用し易からしむる方針を採るに至りたること即ち丸劑、錠劑製造の旺盛なることを説示せり
中央右側には八角廻轉臺を設け本會社の製藥中數十種を陳列し其の周圍には各品の製造工程を説明したり又之を並列して左側には富士山の模型を造り電力にて模型列車を運轉せしめ石炭を起點としてサ

リチール酸及其の誘導體の製造工程を示せり
其他サトウライト製品及ベークライト製品各數十種を出陳せり

日本電氣應用株式會社特設館—鯨井式電氣脫煙實驗

此の煙突は東京帝國大學工科大学助教授鯨井恒太郎氏の發明に係る電氣脫煙器にして高壓電流の作用により石炭、木炭、木材、セメント、亞鉛、硫酸其他鑛山に於ける各種の煙霧を除去し且つ有用なる副産物を採集するに使用するものなり—土曜日、日曜日及大祭日午後三時より四時まで運轉

伊東胡蝶園 丸見屋商店 共同特設館—活動寫眞

毎日午前十時、午後一時、同三時の三回活動寫眞を映寫し無料にて入場者に觀覽せしめたり其の映畫は兩催主の工場に成れる各種の化粧品に關係あるものにして御園化粧品製造工場、ミツワ製造工場及ミツワ研究所、各内部の實況並に名優中村福助か化粧品の撰擇、其の使用の有様及同人の婦人に扮装する順次の状態等日々觀覽者の爲め多大の感興を與へたり

平尾レポート館—美粧術實施

美粧術獎勵の爲土曜日及日曜日毎に東京美粧學館長池谷せむ子、東京美粧俱樂部主任山下きみ子の二女史出席し尙平日は專屬として大川壽々子女史出席して専ら新式美粧術を施し殊に毎日特定の時間には無料にて施術したり

日本酸素合資會社(館外出品)—酸素應用銲接截斷實驗

土曜日及日曜日毎に酸素應用銲接截斷の實驗を施行し入場者の觀覽に供せり其の之か應用に供せらるゝ酸素の製造法及酸素の應用は左の如くなりと云ふ

—酸素製造法—

酸素は化學的にも又電氣分解に依りても製造せられますか吾々か工業的に酸素を製造するには空氣中より採るのでありまして此の方法が最も効率が高いのであります今簡單に此方法を述べますと先づ空氣を充分清淨したる後ち空氣壓搾機にて二百氣壓位に壓縮し然る後ち此の高壓の空氣を酸素素分離器に導き急に放散して膨脹させます空氣は膨脹する周圍の熱を吸収し温度は著しく降下して攝氏零下百九十四度以下に達し液體空氣となるのであります此の液體空氣に熱を與へますと酸素と窒素とは氣化の温度に差違ある爲め其中に含まれたる窒素は先づ蒸發を始め攝氏零下百八十三度に到達すれば全く蒸發して後には殆んど純粹に近い液體酸素が残ります此の液體酸素は一旦發散させてするのであります

—酸素の應用—金屬の銲接と切斷—

銲接 酸素とアセチレンと混合した瓦斯が燃焼するときには非常に高い温度の熱を發生します此の焔の温度は華氏六千度位であります此の高熱を利用して鐵、鋼、眞鍮、銅、アルミニウム等の金屬を容易に且つ完全に銲接することか出來ます

切斷 酸素を應用して鐵又は鋼を切斷することか出來ます之は酸素の鐵又は鋼を酸化する性質を利用してありまして方法は至て簡單であります先づ切斷せんとする部分を酸素アセチレン焔に依りて豫備加熱し然る後、酸素を注射して酸化するのであります此の酸化鐵は切口より液狀を爲して滴下するを以て切斷作業か遂げられる事になります此の方法に依りますと如何に硬い鐵でも鋼でも極めて迅速に而かも任意の形狀に切斷する事か出來るのであります

第六節 説明員

本會の出品中には事物に依り一般的説明を得されは通常の參觀者に諒解し難きもの往々之あり依りて本會に於ては之かため中學程度以上理化學の素養あるもの四名を採用し之を説明員として館内に配置し日々其の事に當らしめたり但説明員は參觀者に認め易からしめむ爲め特に一定の衣服並帽を著用せしめ尙白布に「説明員」の三字を朱書せるものを左肩より右脇へ佩用せしめたり

第七節 出品人懇談會 出品人委員

本會出品人間相互の利便を企圖するため九月二十七日日本館三階に於て出品人懇談會を開けり出席人員貳百七拾名清浦總裁の挨拶に次て内田會長は出品陳列上に關し一場の注意を與へ夫より設備陳列等に關する諸事打合のため出品人委員を撰定常置するに決し而して其の撰定は會長に指名を委任することとして一同退散し追て會長より指名せられたる委員人名左の如し

- | | | | |
|-------|------------|-------------|----------|
| 出品人委員 | 三井礦山株式會社 | 合資會社高田商會 | 三共株式會社 |
| | 古河合名會社 | 東京電氣株式會社 | 東洋護謨株式會社 |
| | 日本醋酸製造株式會社 | 日本化學工業株式會社 | 大阪出品協會 |
| | 東京瓦斯株式會社 | 合資會社新田帶革製造所 | 京都出品協會 |
| | 日本石油株式會社 | (東京)田中合名會社 | |
| | | 株式會社島津製作所 | |

第八節 學校、博物館等へ出品寄贈

本會出品中學校、博物館に於て閉會後參考標本として出品人より寄贈又は出品せられむことを希望する旨照會の向少からず本會に於て之が紹介の勞を執りたるもの、内其の主要なるものを左に掲ぐ

一一

學習院より同校初等科に於ける教科上の參考用として備付のため本會出品中より寄贈を得たり旨交渉あり其後寄贈の承諾を得て其の手續を了したるもの若くは其の手續中のもの左の如し

- | | |
|---------------------------------------|-------|
| 品名 | 寄贈者 |
| 一、朝鮮地方貿易一覽表、同主要工業一覽表、同重要貿易品一覽表 | 朝鮮總督府 |
| 一、黃麻、苧麻、アンペラ草、竹紙、パルプ、紅茶其他 | 臺灣總督府 |
| 一、アカシヤ樹標本其他 | 關東都督府 |
| 一、鋼類標本 | 東京市 |
| 一、沃度原料及製品標本 | 東京市 |
| 一、木材乾縮成生物及原料標本 | 東京市 |
| 一、ペイント及其原料、ワニス、フルニス、ラツクス、シケラツクス標本 | 東京府 |
| 一、鉛板及鉛管標本 | 東京府 |
| 一、コーバル、ワニシ塗板、エナメル塗板、コーバル、ワニシ、エナメル塗料標本 | 東京府 |
| 一、砂糖標本、砂糖利用系統表 | 東京市 |
| 一、各地産銑及鑄鐵類標本、加工品等 | 東京市 |

第一編 事務報告

- 一、金屬タンクステン、酸化タンクステン、バリブテン酸、高速度鋼類標本
- 一、再製銑鐵標本
- 一、コ、ナツト實、コブラ、椰子油及石鹼
- 一、ヤマト鑄鋼、ヤマト燐錫、ヤマト鑿素鋼、ヤマトマンガ鋼標本
- 一、ライオン石鹼、同齒磨並同原料標本
- 一、硫黃標本、那須硫黃鑛山實景寫真
- 一、サトウライト及其加工品、ベークライト及其加工品、キナ樹標本
- 一、石綿原料及加工品標本
- 一、フエロタンクステン、フエロモリブデン、マンガ鋼、フエロシリコン、フエロクロム、マグネツト鋼標本
- 一、眞鍮、白銅、ニツクル鋼、アルミニウム管、合金又ハ金屬加工標本

二二

文部省所轄東京教育博物館にては兩三年來自然科學參考品並に重要工業品製造順序標品、模型、繪畫、寫真等を陳列し一般公衆の觀覽に供し科學思想の普及に力めつゝあり本會出陳別記の物品は工業教育上何れも有益の參考品にして同博物館陳列品として頗る適切のものに付閉會後出品者の承諾を得て同館に陳列し公衆の觀覽に供することを得は民衆の教育上裨益する所少からざるへきを以て右物品の寄贈又は出品方に付文部省普通學務局長より特に本會に交渉せらるゝ所あり其後寄贈の承諾を得て其の手續を了したるもの左の如し

品名

- 一、石英粉末(陳列棚裝飾用) マルフ窯其他

寄贈者

朝鮮總督府中央試驗所

- 一、パラゴム製品並生木
- 一、樟腦油、樟腦、芳樟油、芳油等
- 一、ラミール製造順序標本
- 一、セルロイド製造順序標本
- 一、ロクターリ寫真、大噴油實寫模型
- 一、アスファルト精製順序、同用途指示標本並製造工場寫真
- 一、瓦斯マントル製造順序標本
- 一、エナメル見本及渡邊製黒塗標本、エナメル塗上ケ板見本
- 一、鍊金術工場模型
- 一、石鹼製造順序標本
- 一、蜥蜴革、蛙革鞣順序標本
- 一、煉乳精製順序標本、搾乳煉乳狀況背景畫
- 一、那須硫黃鑛山硫黃精製順序標本、硫黃採掘狀況寫真
- 一、亞鉛鑛並同精製順序標本
- 一、曹達製品及用途指示標本
- 一、石炭乾餾副產物系統額
- 一、柿、蜜柑造花、人造肥料見本
- 一、水銀鑛石標本、水銀製品見本
- 一、亞鉛原料並製品等

東京市	坪谷商會
東京府	中居金次郎
東京市	南洋貿易株式會社
東京市	ヤマトメタル商會
東京市	小林富次郎
東京市	小平濱次郎
東京府	三共株式會社
東京市	木村石綿商會
大阪市	藤田鑛業株式會社
大阪市	住友伸銅所
東京市	臺灣總督府民政部殖産局
東京市	臺灣總督府專賣局
東京府	家村惠之助
東京市	ローヤル、セルロイド株式會社
東京市	日本石油株式會社
東京市	中外石油アスファルト株式會社
東京市	大野瓦斯マントル株式會社
東京市	渡邊七良治
東京市	田中合名會社
東京市	南洋貿易株式會社
東京府	内田直吉
東京市	山代商會
東京市	小平濱次郎
東京市	亞鉛電解鑛業株式會社
東京市	旭電化工業株式會社
東京市	三井鑛山株式會社
東京市	人造肥料聯合會
東京市	日高水銀鑛山製鍊所代理店
東京市	茂木鑛業部

- 一、味の素製造順序標本
- 一、加里鹽原料簡易製造標本
- 一、ゴム製造順序標本
- 一、鳥印エナメル見本額、同製品見本
- 一、ゴム採集背景畫
- 一、木材乾燥生成品見本
- 一、セルロイド製造階梯
- 一、塗料原料並製品見本
- 一、特許精米麥機
- 一、木材乾燥工場模型生成品
- 一、陶器製造順序標本製陶工場寫眞
- 一、裝飾陶板
- 一、鋼鐵原料並ニ精煉順序標本、鋼鐵製煉工場及鋼質顯鏡寫眞
- 一、植實、ステアリン並ニ蠟燭
- 一、木蠟及原料

- 東京市 鈴木三郎助
- 東京市 須賀孟伯
- 大阪市 角一合資會社
- 大阪市 川上保太郎
- 大阪市 中村利三郎
- 兵庫縣 東工業株式會社林產物共同販賣所
- 神戶市 日本セルロイド人造絹絲株式會社
- 埼玉縣 東洋塗料合資會社
- 埼玉縣 永井惣次郎
- 群馬縣 万代信三郎
- 名古屋市 日本陶器合名會社
- 名古屋市 佐治春藏
- 島根縣 株式會社安來製鋼所
- 佐賀縣 大正化學工業合資會社
- 熊本縣 肥後製蠟株式會社

三

東京高等師範學校より同校化學教室に標本として備付のため本會出品中より寄贈を得たき旨交渉あり其後寄贈の承諾を得、其の手續を了したるもの若くは其の手續中のもの左の如し

- 一、擬革
- 一、スポンジ、タイヤ
- 一、鐵合金
- 一、ラミー製品
- 一、人造絹絲
- 一、絹練石鹼
- 一、木材乾燥生成品
- 一、オリブ油

- 東京市 開工社大石儀作
- 東京府 福田ゴム製造所
- 東京市 合名會社藤田組出張所
- 京都市 東洋ラミー織布株式會社
- 横濱市 日本人造絹絲株式會社
- 金澤市 坂田秀雄
- 徳島縣 劍山製藥株式會社
- 香川縣 香川縣農事試驗場

第九節 特別出品に對する感謝狀の贈呈

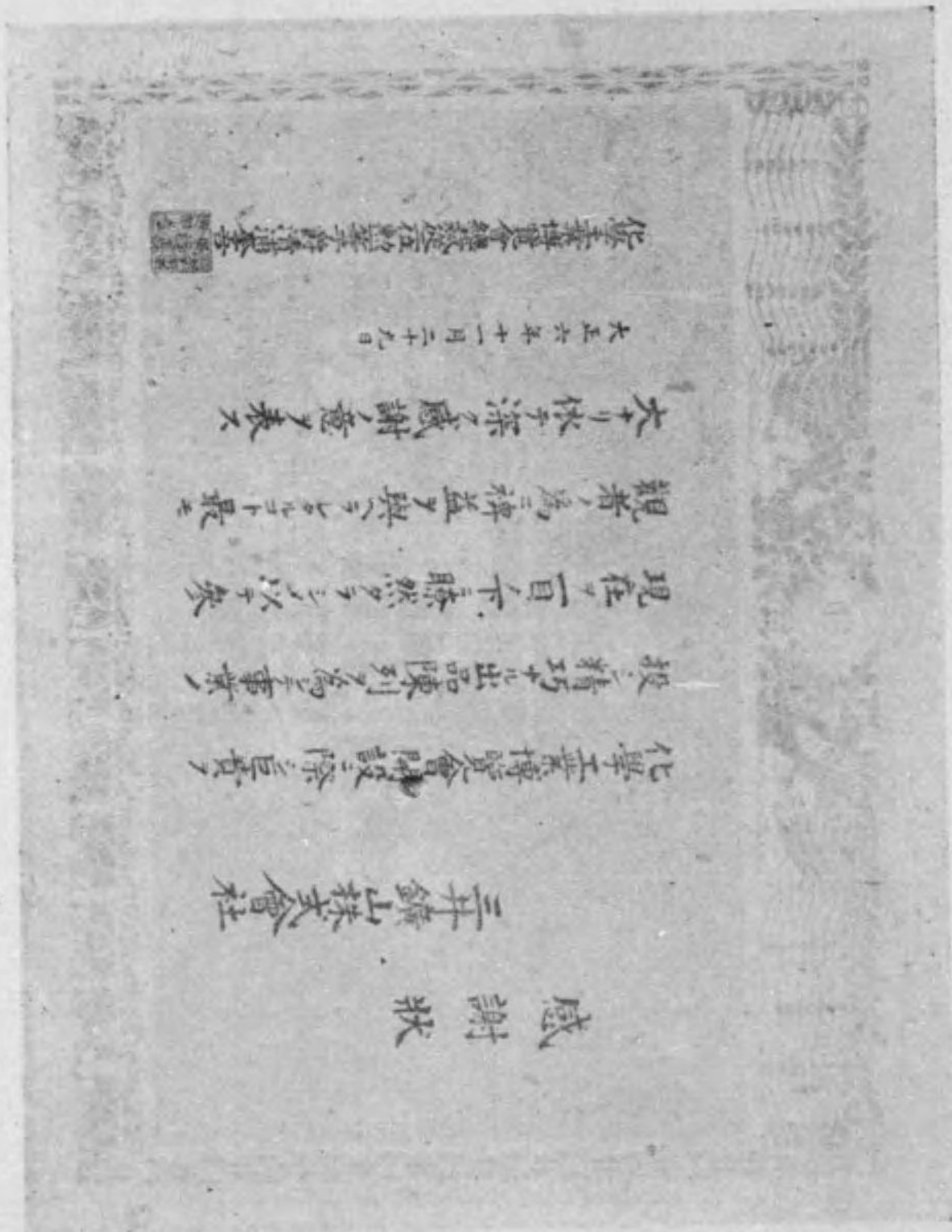
本會開設の趣旨を翼賛して参考上有益なる物品を貸與又は出品せられ殊に之か爲に壯大なる陳列館を特設せられたる等の諸官廳及會場内特に巨費を支出して壯麗なる陳列装置を爲し又は宏壯なる特設館を建造して特殊の陳列を爲し若くは作業の狀況を實演して大に會場の光彩を添へ參觀者に裨益を與へ又は特別の設備を爲して入場者に許多の便利を與へ、會場の設備に關し多大の盡力を以て本會の成功を助けられたること著大なる等の會社其他出品人等各位に對し本會より總裁の名を以て之に鄭重なる感謝狀を贈呈したるもの左の如し

- 東京衛生試驗所 醸造試驗所
- 大阪衛生試驗所 陸軍省
- 東京砲兵工廠
- 大阪砲兵工廠

陸軍技術審査部
 陸軍糧秣本廠
 陸軍被服本廠
 臨時軍用氣球研究會
 海軍造船兵廠
 東京教育博物館
 東北帝國大學
 東京高等工業學校
 大阪高等工業學校
 農商務省商品陳列館
 農商務省山林局
 製鐵所
 特許局
 工業試驗所
 水產講習所
 遞信省電氣局
 東京府立第一高等女學校

市立大阪工業研究所
 富山縣工業試驗場
 朝鮮總督府
 關東都督府
 臺灣總督府
 同土木局
 同專賣局
 同研究所
 六櫻社
 日本石油株式會社
 日本陶器合名會社
 東洋陶器株式會社
 合名會社日陶商會
 日本特殊鋼合資會社
 合資新田帶革製造所
 日本シタート、コットン合資會社
 寶田石油株式會社

東京鉛板株式會社
 東京瓦斯株式會社
 東京電氣株式會社
 大阪曹達株式會社
 株式會社川崎造船所
 鹿島清次郎
 臺灣糖業聯合會
 合資高田商會
 大日本鹽業株式會社
 臺灣鹽業株式會社
 大日本麥酒株式會社
 大陽製帽株式會社
 南滿洲鐵道株式會社
 久原鑛業株式會社
 久原鑛業株式會社
 株式會社日立製作所
 株式會社高原商會
 古河合名會社
 合名會社藤田組
 木村石綿商會主木村信一



狀 謝 感

出品地方	出品人員	賣價	規則第二十四條に 依る本會手数料
北海道	一	一七九〇〇〇	八九五〇
東京都府	六八	二、六九七〇三〇	一三三六五〇
	三	一六三九五〇	八二〇〇

八五

化學工業博覽會出品規則に基き出品人の委囑に依り賣却を本會事務所に於て取扱ひたるもの左の通り
而して其の代金及殘品は夫々送付を了したり

第十節 出品物賣約及殘品處分

合資會社榮屋石綿紡織所
合資明治護謨製造所
三井鐵山株式會社
株式會社芝浦製作所
森下博
神東博
株式會社島津製作所
丸善株式會社
工業化學會

(東京) 同文館
田中合名會社
角一ゴム合資會社
玩具研究會
清水連郎
臺灣糖業聯合會
東京菓子株式會社
三共株式會社
日本醋酸製造株式會社

人造肥料聯合會
小平濱次郎
日本電氣應用株式會社
伊東胡蝶園
丸見屋商店
平尾贊平
湘南木工場加茂増五郎

大	兵	埼	千	三	愛	靜	山	岐	宮	福	山	和	香	愛	朝	臺	關
府	縣	縣	縣	縣	縣	縣	縣	縣	縣	縣	縣	縣	縣	縣	縣	縣	縣
府	府	府	府	府	府	府	府	府	府	府	府	府	府	府	府	府	府
府	府	府	府	府	府	府	府	府	府	府	府	府	府	府	府	府	府
府	府	府	府	府	府	府	府	府	府	府	府	府	府	府	府	府	府
府	府	府	府	府	府	府	府	府	府	府	府	府	府	府	府	府	府

二	未	未	未	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
五	詳	詳	詳	四	五	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
九																	

四	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
三	八	九	一	〇	三	三	三	二	一	一	一	一	一	一	一	一	一
六	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
一	二	八	一	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
六	二	八	一	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
九	八	一	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
五	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇

二	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
〇	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
七	九	九	四	五	七	七	七	七	七	七	七	七	七	七	七	七	七
二	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
三	九	九	四	五	七	七	七	七	七	七	七	七	七	七	七	七	七
〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇

第十一節 出品陳列に關する札類

出品陳列に關する小札、揭示札等の種類左の如し

出品札

各出品物に附したる出品札は別掲雛形の通りにして厚地の洋紙刷とし其大さは「大」豎五寸、横三寸五分、「小」は豎三寸二分、横二寸二分とせり

出品札

出品番號	第 號		
	氏名	住所	實價

各出品物には成るべく説明箋を附して觀覽者の爲に參考に便することとし別掲雛形の如く調製したり

池内 寵
小相 鳴

星田 茂幹

段野 忠信

同會は出張所を下谷區池ノ端七軒町正慶寺内に設け星田幹事、龜岡事務員の二名を滞京して事務を取扱はしめしか十二月六日事務終了し同七日閉所歸阪し、七年一月二十三日役員會を開き總ての事務を終了せり、同協會規則は左の如し

第一條 本會ハ化學工業博覽會ニ於ケル大阪ノ出品ニ關スル事務ヲ處理シ出品人ノ利便ヲ圖ルヲ以テ目的トス

第二條 本會ハ化學工業博覽會大阪出品協會ト稱シ事務所ヲ大阪府立商品陳列所内、出張所ヲ東京ニ置ク

第三條 本會ハ出品人及本會事務處理上贊助セラル、者ヲ以テ組織ス

第四條 本會ノ主ナル業務ハ左ノ如シ

- 一、出品目録及解説書ノ取纏メ整理ニ關スル件
- 二、出品物ノ發送及返送ニ關スル件
- 三、出品搬入、搬出並ニ陳列裝飾ニ關スル件
- 四、出品ノ説明及廣告ニ關スル件
- 五、出品賣約及即賣ニ關スル件
- 六、出品ノ審査ニ關スル件
- 七、賣上金ニ關スル件
- 八、出品ノ看護ニ關スル件

九、其他出品ニ關スル一切ノ件

第五條 本會商議員ノ決議ニ依リ會員ノ出品陳列裝飾費及運搬費、荷造費、荷解費ニ對シ相當補助ヲ爲スヘシ

第六條 會員ハ本會ノ指示スル事項ヲ遵守スル義務ヲ有スルモノトス

第七條 本會ハ委託ヲ受ケタル出品物ノ賣約及即賣ニ對シテハ手数トシテ賣價ノ百分ノ五ヲ申受クルモノトス

第八條 出品物ハ充分保護監督ヲナスト雖モ不可抗力ニ依ル損害ハ本會其責ニ任セス

第九條 本會ハ左ノ役員及事務員ヲ置ク

幹事長	一名	幹事	若干名
商議員	七名	事務員	若干名

第十條 幹事長、幹事ハ會員ヨリ商議員ハ出品人中ヨリ發起人會ニ於テ選定シ之ヲ囑託スルモノトス

第十一條 事務員ハ幹事長之ヲ任免ス

第十二條 幹事長ハ本會ヲ代表シ一切ノ事務ヲ統轄シ會議ニ臨ンテハ議長ノ職務ヲ行フ

第十三條 幹事長事故アルトキハ命ヲ承ケタル幹事其ノ事務ヲ代理ス

第十四條 商議員ハ幹事長ノ招集ニ應ジ本會樞要ノ事務ヲ商議ス

第十五條 幹事互選ヲ以テ會計監督一名ヲ置ク

第十六條 幹事以下ハ幹事長及上長ノ指揮ヲ受ケ會務ヲ處理ス

第十七條 會員ハ總會ニ於テ意見ヲ述ヘ又ハ本會事務所ニ就キ會務ニ關シ質問スルコトヲ得

第十八條 總會ハ會員及商議員三分ノ一以上ノ請求又ハ幹事長ノ意見ニ依リ開會スルモノトス

第十九條 總會ハ本會ノ經費並ニ業務成績等ノ報告ヲ受クルモノトス

第二十條 幹事長、幹事及商議員ハ名譽職トス

但シ本會々務ニ屬スル實費ハ本會ニ於テ之ヲ支辨ス

第二十一條 事務員ハ有給トス

第二十二條 本會ノ債務其他一切ノ會計ヲ結了シ殘餘金アルトキハ商議員ノ議決ヲ經テ之ヲ處分ス

第二十三條 本會ハ博覽會事務結了ヲ以テ解散ス

第四章 審 査

第一節 審査部の組織

本會の出品は其の部類品彙多く各専門家の鑑識に依り公正なる審査を行ふにあらざれば適切なる品騰を與へ難き次第に付本會は特別の詮議を以て審査總長、同部長、審査官を派遣せられ度き旨農商務大臣に出願せし處幸に願意を容れられ審査總長、同部長は八月十四日、審査官は九月二十六日以後二回を以て右命令若くは囑託せられたる旨同省より通達せられたり其の官氏名は左の如し

審査總長	平山成信
審査第一部長	工業試験所技師 高松豊吉
審査第二部長	東京高等工業學校長 工學博士 阪田貞一

右大正六年八月一日被命

右大正六年九月二十六日囑託

右大正六年十月十五日被命

- | | |
|--------------|----------|
| 東京高等工業學校教授 | 正田桂太郎 |
| 同 | 中島武太郎 |
| 名古屋高等工業學校教授 | 川口徳三 |
| 從四位勳五等 | 松浦和 |
| 從四位勳五等 | 湯淺藤市郎 |
| 從六位 | 小野良三 |
| 農商務技師 | 清水省吾 |
| 東京帝國大學工科大学教授 | 工學博士 俵國一 |
| 權造試驗所技師 | 佐藤壽衛 |
| 東京高等工業學校教授 | 關口八重吉 |
| 東京美術學校教授 | 鎌田彌壽治 |

右大正六年十月十五日囑託

第二節 審査部員の分掌

審査官の分掌、審査補助及同品評人並に審査書記の囑託は審査總長に於て左の如く專行せり

審査分掌

部	類	品	目	審査官	審査補助	審査品評人
第一部類	工業藥品	主任 井上仁吉 蜂屋貞興 龜高德平 鴨居武 三山喜三郎 平野久保 清水省吾 鈴木建治 報告員 保科貞良		宮本清利		
同第二類	電氣化學製品及用品	主任 加藤與五郎 鴨居武 小寺房治郎 北脇市太郎 清水省吾 報告員 加藤與五郎 高柳金造		佐藤貞造 加藤述之 高柳金造		
同第三類	金屬製品	主任 堀池彌太郎 細井岩彌 加藤與五郎 依國一 小寺房治郎				小林豊造 岩田繼清

同 第 八 類	同 第 七 類	同 第 六 類	同 第 五 類	同 第 四 類
爆發物及マツチ	染料及染物	タール蒸餾製品	乾餾生成品	壓縮及液化瓦斯
主任 報告員 楠 潮 熊 治 莊 司 市 太 郎 正 田 桂 太 郎	染料主任 報告員 中 島 武 太 郎 齋 藤 俊 吉 平 野 久 保	染料主任 報告員 高 松 德 治 郎 川 口 德 三 大 山 清 一 郎	主任 報告員 野 口 寅 之 助 川 口 德 三 井 上 仁 吉	主任 報告員 北 脇 市 太 郎 龜 高 德 平 堀 池 彌 太 郎
		加 藤 淺 四 藤 田 正 一 三 好 甲 子 郎	加 藤 淺 四 藤 田 正 一 三 好 甲 子 郎	

同 第 十 四 類	同 第 十 三 類	同 第 十 二 類	同 第 十 一 類	同 第 十 類	同 第 九 類
酒類及醸造品	砂糖類	窯業品	漆液及漆器	顔料及塗料	醫藥
主任 報告員 丹 波 敬 三 矢 部 規 矩 治 朝 比 奈 泰 彦 佐 藤 壽 衛	主任 報告員 石 津 利 作 矢 部 規 矩 治 鈴 木 梅 太 郎 鈴 木 達 治	主任 報告員 井 上 禱 之 助 植 田 豐 橋 江 守 襄 吉 郎 芝 田 理 八	主任 報告員 蜂 屋 貞 興 三 山 喜 三 郎 正 田 桂 太 郎	主任 報告員 野 口 寅 之 助 矢 野 道 也 正 田 桂 太 郎	主任 報告員 石 津 利 作 丹 波 敬 三 朝 比 奈 泰 彦
八 木 喜 橋	佐 田 樂 造	松 山 芳 彦	五 十 嵐 三 次	仲 西 他 七	石 尾 正 文 緒 方 章 前 田 仙 太 郎

同 第十五類	紙及其製品	主任 加藤與五郎 報告員 植田豐橋 佐伯勝太郎		
同 第十六類	ゴム及其製品	主任 梅野兵太郎 報告員 矢野道也 正田桂太郎		
同 第十七類	礦油及其製品	主任 井上禮之助 報告員 細井岩彌 山村銳吉 清水省吾	大橋敏男	
同 第十八類	油脂及蠟	主任 井上仁吉 報告員 堀池彌太郎 辻本滿丸		
同 第十九類	石鹼及蠟燭	主任 加藤與五郎 報告員 小野良三 高松德治 辻本滿丸	小林修明	
同 第二十類	香料及化粧品	主任 小野良三 報告員 朝比奈泰三 篠崎英之助	星野耕造	

同 第二十一類	樟腦、薄荷及テレピン油	主任 石津利作 報告員 野口寅之助 篠崎英之助		
同 第二十二類	人造肥料	主任 井上仁吉 報告員 鈴木達治 鈴木梅太郎	松山芳彦	
同 第二十三類	皮革擬革及其製品	主任 野口寅之助 報告員 莊司市太郎 正田桂太郎	沼田玉吉	
同 第二十四類	寫真及寫真印刷物	主任 鎌田彌壽治 報告員 山村銳吉 佐伯勝太郎		
同 第二十五類	飲食物及嗜好品	主任 石津利作 報告員 丹波敬三 鈴木梅太郎	松山芳彦	
同 第二十六類	セルロイド及其類似品	主任 鴨居武 報告員 楠瀬熊治 三山喜三郎		

同 第二十七類	纖維工業品 (化學的處理ヲ施シタ原料及製品)	主任 大山清一郎 報告員 吉武榮之進 齋藤俊吉	
同 第二十八類	雜種化學製品 (インキ、墨、印刷インキ、肉、靴、膠、漆、ビラ、チン、寒天等)	主任 加藤與五郎 報告員 高松徳治郎 梅野兵太郎 矢野道也	
第二部 第二十九類	分析及試驗用器具 機械	主任 峰屋貞與 報告員 龜高德平 山村銳吉 湯淺藤市郎	
同 第三十類	製造用器具、機械	主任 植田豐橋 報告員 關口八重吉 小西正二	
同 第三十一類	發光、發熱及燃燒、 裝置	主任 保科貞 報告員 楠瀬熊治 關口八重吉	古澤萬氣象
同 第三十二類	冷却及冷蔵裝置	主任 湯淺藤市郎 報告員 小西正二 關口八重吉	古澤萬氣象

同 第三十三類	防熱、防火、防水、 防遮材料及裝置	主任 保科貞 報告員 小西正二 湯淺藤市郎	
同 第三十四類	化學ニ關スル圖書 統計設計報告論文 等	主任 細井岩彌 報告員 大山清一郎 莊司市太郎 小西正二	

審査書記 山内英太郎
同 横田孝正

第三節 審査方針

九月二十七日清浦總裁、武井副總裁、内田會長、平山審査總長、高松、阪田兩同部長以下は上野公園精養軒に於て審査官一同と協議會を開く席上清浦總裁より將來の進行に關し所見を演述せらるる所あり次て平山審査總長は審査の方針に就きて演述し尙右審査官と種々協議するところあり其の平山總長より示されたる方針の要領は左の如し

審査方針

- 一、審査は最も公平嚴正を期し苟も私心に涉ることあるへからず
- 一、審査は周密精到を要すと同時に敏速を旨とし緩漫に流るへからず

- 一、審査に關する事項は之を秘密にせざるべからず若し些少たも漏洩せんか累を審査の信用に及ぼし其弊害測るべからざるものあるべきを以て審査に従事する者は各秘密を嚴守して苟も漏洩す可らず
- 一、褒賞は出品現在の成績に對して其眞價を旌表すると共に將來に向ひて同業の模範を示す所以なるを以て決して濫與に陥らざる様擬撰すべし高等の擬賞に於ては殊に然りとす
- 一、産業の獎勵は國家經濟の資する所なるを以て主眼となさざるべからず故に製産盛大にして内外販額の多きものに擬賞するは勿論外國輸出の多額なるものは殊に優賞を擬せんことを望む
- 一、審査の方針に關する細密の事項及評點の項目等は各部類に依りて必ずしも同じきことを得ず此の如きは宜しく部長に於て之を指示し審査官以下をして守る所あらしむべし
- 一、各部の擬賞及各類の評點は必しも寛嚴なきことを保し難きに依り各部長は互に氣脈を通し又審査官を指導し全體を通觀して平衡を得せしめんことを望む
- 一、審査概況は簡明にして肯綮に中ることを要す
- 一、審査報告書は當業者の參考に供せらるる指針たるべきものなるを以て將來を裨益するに足ることを期して之を起稿し期に後れずして提出せられんことを望む

第四節 審査規程

- 第一條 出品ノ審査ハ出品部類目錄ニ依リ二部ニ分チ各部ニ審査部長ヲ置ク
- 第二條 審査總長ハ審査ニ關スル一切ノ事項ヲ監理ス
- 第三條 審査部長及審査官ハ審査總長ノ指揮ニ從ヒ出品ノ審査及之ニ關スル事務ニ従事スルモノトス

第四條 前各條ノ職員ハ主務省ヨリ其派遣ヲ申請スルモノトス

第五條 審査ニ關シ必要アルトキハ審査員若干名ヲ置キ審査總長之ヲ囑託ス

第六條 審査部長ハ審査ノ分掌ヲ定メ各部ニ一名ノ主任ヲ置ク

第七條 審査官ハ其審査シタル出品ノ評點ヲ評點紙ニ記入シ調印ノ上主任審査官ニ提出スヘシ

第八條 主任審査官ハ評點紙ヲ取纏メ各出品ノ平均點ヲ算出シ之ヲ審査部長ニ提出スヘシ

第九條 審査ノ評點ハ左ノ標準ニ據ル

名譽賞牌 九十六點以上一百點迄

金牌 九十一點以上九十五點迄

銀牌 八十一點以上九十點迄

銅牌 七十一點以上八十點迄

褒狀 五十點以上七十點迄

第十條 出品陳列ノ爲メ特ニ優秀ノ裝置、裝飾ヲナシタルモノニハ賞狀ヲ贈與スルコトアルヘシ

第十一條 審査ノ爲メ必要アルトキハ出品人ヲシテ同一ノ出品若クハ解説書ヲ提供セシメ又ハ出品ノ製造所ニ就キ實地臨檢ヲナスコトアルヘシ

第十二條 出品ノ審査ハ大正六年十月一日ニ始メ十月十五日ニ終ル

第十三條 擬賞ハ審査會議ニ於テ之ヲ定ム

第十四條 本會規則第二十五條ニ該當スルモノアリト認メタルトキハ其事由ヲ具シ主任審査官ヨリ審査部長ニ提出シ審査部長會議ノ上之ヲ定ム

第十五條 審査總長ニ於テ必要アリト認メタルトキハ再審査ヲナサシムルコトヲ得

第十六條 審査總長ハ第十三條及第十四條ニ定メタル擬賞ヲ決裁シ褒賞ノ授與ヲ總裁ニ申請スヘシ
 第十七條 審査部長ハ其ノ部ニ屬スル審査報告書ヲ審査總長ニ提出スヘシ
 第十八條 審査部長、審査官及審査員ハ自己ノ出品ノ審査ニ干與スルコトヲ得ス又審査ニ關スル事項ヲ漏洩スヘカラス

審査番號	出品人		部	審査項目	評點	備考
	縣	府				
出品番號	町	市	品名	品類	平均	審査官印
				産類		
			價額	備		
			意匠	匠		

評點紙

第五節 審査手續

第一條 審査部長ハ審査官ノ分掌、主任審査官及報告員ヲ定メ審査總長ニ報告スヘシ
 第二條 審査官及主任審査官ノ氏名ハ事務總長ニ通知シ審査室ニ揭示スヘシ
 第三條 主任審査官ハ分掌内ノ審査官ト協議シ評點ノ項目ヲ定メ審査部長ノ承認ヲ受クヘシ
 第四條 審査ハ合議評點トシ一葉ノ評點紙ニ各審査官捺印スヘシ
 第五條 同一者ノ出品ニシテ合議ノ上同種類中最優等品ニノミ評點スルトキハ評點紙ノ備考欄ニ其旨記入シ併テ評點セサルモノ、番號品名ヲ別紙ニ記載シ各審査官之ニ捺印スヘシ
 第六條 銀牌以下ノ擬賞ハ部長ニ於テ各分掌主任ノ會議ヲ開キ協議ノ上之ヲ定ムヘシ
 第七條 再審査ノ場合ニ於テハ部長ニ於テ分掌審査官ヲ變更スルコトアルヘシ
 第八條 審査ノ爲審査囑託、審査補助及品評人ヲ要スルトキハ審査部長ヨリ審査總長ニ申出スヘシ
 第九條 審査囑託ノ評點ハ審査官ノ參考ニ供スルモノトス
 第十條 審査ハ成ルヘク陳列現場ニ於テ之ヲ爲スヘシ
 第十一條 出品ヲ陳列場以外ニ於テ審査スル必要アルトキハ審査官ヨリ審査部長ヲ經テ其品名及審査ノ時日ヲ事務總長ニ通知スヘシ
 第十二條 審査ノ爲出品物ノ試験又ハ分析ヲ要スルモノアルトキハ主任審査官ヨリ審査部長ニ申出スヘシ
 第十三條 解説書ハ審査官自ラ之ヲ調査シ他ニ示スヘカラス

第十二條 審査ノ爲實地ノ臨檢ヲ必要トスルトキハ主任審査官ヨリ其場所及審査官ノ氏名ヲ前以テ審査部長ニ申出スヘシ

第十三條 實地臨檢ノ爲費用ヲ要スルトキハ豫メ審査部長ヨリ事務總長ニ通知スヘシ

第十四條 出品若クハ審査用トシテ提出セシメタル物品ノ全部又ハ一部ヲ審査ノ爲メ消費若クハ毀損セントスルトキハ豫メ審査部長ノ承認ヲ受クヘシ

第十五條 各出品ノ審査ヲ終リタルトキハ主任審査官其付札ノ欄外へ審査済ノ印ヲ押捺スヘシ

第十六條 各分掌内ノ審査ハ十月一日ニ始メ十五日ヲ以テ終了スルモノトス

主任審査官ハ審査終了ト同時ニ其分掌ニ關スル審査概況ヲ審査部長ニ提出スヘシ

第十七條 各審査部内ノ擬賞ハ十月二十五日迄ニ終了スルモノトス

第六節 審査事務

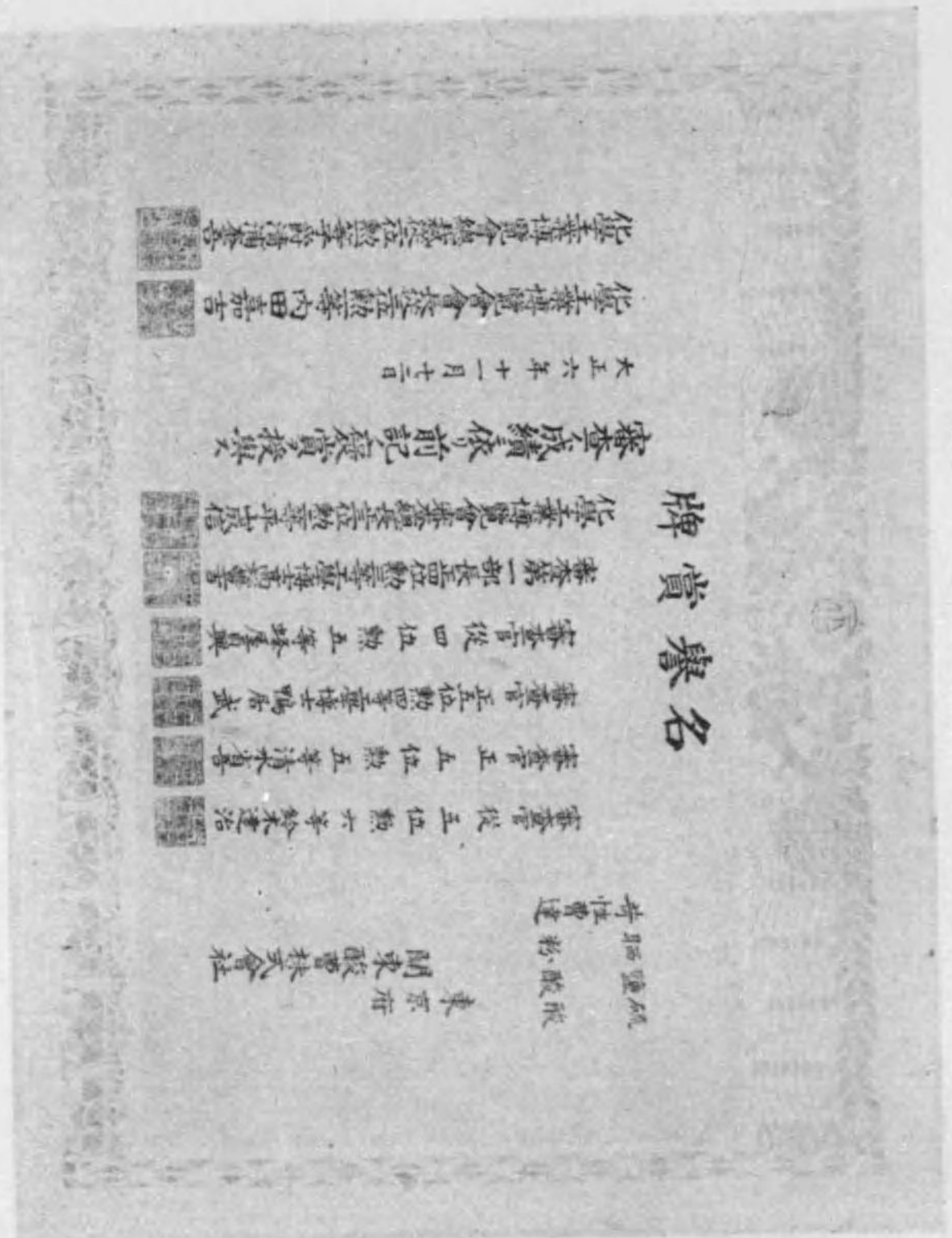
審査部は本會々場樓上の西室を以て之に充つること、し九月二十二日を以て事務を開始せり出品は之を搬入審査、現場審査に區別し其の特に分析審査を要するものに關しては擔任審査官所屬官廳、試験場等相當の機關に依りて之を施行し、又審査官總會議を要する場合に在りては本會々場の三階に於て之を開けり但出品者中開會期限を過ぐるも出品目録、同解説の未達又は不備の爲め審査臺帳を編成するに由なきもの少からず而して是等諸般の事務整理より審査室の準備、各種用品の調度に至るまで總て審査書記に於て之を擔當處理することとなしたり

狀

賞

牌

賞



牌賞名



第七節 賞牌及賞狀

賞牌は山口家彦氏の考案に出て松岡壽氏の撰定に係り。賞狀は安田祿造氏の考案に出て、亦松岡氏の撰定に係るものにして其の様式は別掲挿圖の如し

賞

狀

直徑一寸八分、厚二分とす

名譽賞牌は金色とし、金、銀、銅の三賞牌は各其の色とす

名譽賞牌は表面下部に「名譽」の二字を刻す

賞

狀

豎一尺五寸六分、横二尺とす

刷色は左の如く區別し各其の周圍を褐色とし、地色は淡色とす

名譽賞牌	淡紫色
金牌	紅色
銀牌	藍色
銅牌	褐色
裏狀	淡綠色

上部中央に金色にて會章を掲ぐ

第八節 褒賞授與人名錄

磁製管	京東	合資友玉園加藤製陶所	同	油	朝	鮮	深見勝三郎
陶料、陶器、顏料	京都	日本陶料株式會社	同			清水醬油株式會社	
粘土坩堝	大阪	正盛坩堝製造所 中辻萬造	同			安田醬油株式會社	
美術硝子器	京今	村英祐	同			水野邦次郎	
壓搾硝子器	京永	新太郎	同			內外醬油株式會社	
硝子腕輪	阪三	好鹿藏	同			小豆島醬油株式會社	
耐火煉瓦	兵同	旭硝子株式會社	同			山平兵衛	
ホートランド、セメント	三兵	三重セメント株式會社	同			馬場善兵衛	
同	同	盤城セメント株式會社	同			高橋本清助	
同	同	佐賀セメント株式會社	同			高井作右衛門	
同	同	知士佐セメント株式會社	同			伊藤小左衛門	
同	同	大阪日本窒素肥料株式會社	同			神谷酒造合資會社	
同	同	秩那鐵器株式會社	同			九鬼榮助	
同	同	臺南製糖株式會社	同			田中德兵衛	
同	同	臺東製糖株式會社	同			豐王製紙株式會社	
同	同	日本酒造株式會社	同			東洋濾紙株式會社	
同	同	鮮山内莊平	同			土佐紙株式會社工業部	
同	同	三巴酒造株式會社	同			日本紙器製造株式會社	

防水紙類	兵庫	神戶防水紙布製造所	同	香油	東	京	金原己三郎
濾紙	京都	朝鮮纖維工業所	同			日本除蟲菊株式會社	
護謄製品	同	合名會社離合社	同			伊藤清右衛門	
同	同	千代田護謄製造所	同			尾田八兵衛	
同	同	內外護謄合資會社	同			野村七兵衛	
同	同	攝津ゴム株式會社	同			藤澤友吉	
同	同	合資會社阪神ゴム製造所	同			朝日樟腦精製合資會社	
同	同	小島久太郎	同			株式會社	
同	同	淺田常五郎	同			日本商業會社樟腦精製所	
同	同	鴻後製蠟株式會社	同			平野大豆工業株式會社	
同	同	肥後製蠟株式會社	同			大豆漂白株式會社	
同	同	本井上寅次郎	同			鈴木製油所	
同	同	仁豆油、落花生油、亞麻油	同			富士革布株式會社	
同	同	大豆、花生油、亞麻油	同			松金新次郎	
同	同	牛脂、豚脂	同			內田直吉	
同	同	石鹼	同			林庄太郎	
同	同	化粧石鹼	同			羽田調帶製造所	
同	同	絹綵石鹼	同			羽田伊之助	
同	同	湯卷印化粧石鹼	同			長谷川保定	
同	同	パール煉香油	同			臺灣鹽業株式會社	

電氣絕縁材料各種	電燈附屬用器	蓄電池用鉛丹リサイツ	硫酸ニツケル、丹馨	電解亞鉛	錫、酸	錫、酸化	金屬マクネシウム	電氣鍍、鍍金	金屬ソナウム過酸化曹達	マイカナイト、群青	硫酸及其採取法	黒鉛	印刷用金銀箔	ネームプレート	金屬箔	石工道	銅器
京 菅原電氣製作所 菅原稠	京 三田土ヨム製造合名會社	京 日本製鍊株式會社	京 久原鐵業株式會社	京 亞鉛電解鐵業株式會社	京 日本金屬株式會社	京 長谷川保定	京 會社 亞鉛電氣鍍工場	京 伊藤源次郎	京 日本理化工業株式會社	京 小平濱次郎	京 日本黒鉛製煉所千代浦昌	京 都 河本喜衛	京 都 奥山	京 都 堀新太郎	京 都 中雄二	京 都 林は	京 都 重若
アルミニウム器具	靴底	電、スト、一、ア	機引手、屏風金具	可鍛鐵	網狀鐵板	高速銅板	再製鐵板	特殊鋼	發條各種	自轉各種	螺旋各種	發條各種	鐵切各	刺身庖丁	メチルアルコール	大 同	大 同
京 那須鐵之助	京 合名會社野崎商店	京 金子松之助	京 川島庄之助	京 東京鉛板株式會社	京 瀧澤七郎	京 櫻井貞次郎	京 岡田伸銅所	京 中居金次郎	京 株式會社電氣製鋼所	京 立野正光	京 東京製輪株式會社	京 會社 伊澤螺絲管製造所	京 帝國發條製作所	京 沖村廣吉	京 味村廣助	京 東工業株式會社	京 東工業株式會社

コールドタール蒸留製品	コールドタール蒸留製品	モスリソ捺染	同	同	綿布捺染	タオル臘染	蕪黄木綿	硫黄染料	同	同	メチル、パオレット	直接木綿染料	硫黄染料	直接木綿染料	媒染染料	硫黄染料	醫藥品	ヒフノチン、蓆酸
大 阪	大 阪	大 阪	大 阪	大 阪	重 京	藤 京	富 京	帝 京	丸 京	小 京	會 京	東 京	大 京	大 京	大 京	大 京	大 京	大 京
大阪合密工業株式會社	大阪合密工業株式會社	南方藤之丞	酒井竹次郎	三重捺染株式會社	藤田庄三郎	富田金七郎	帝國染料製造株式會社	丸大染料株式會社	小川利一	會社 龜井戸染料製造所	東洋染料製造株式會社	大 阪	大 阪	大 阪	大 阪	大 阪	大 阪	大 阪
沃度化合物	沃度化合物	沃度粉	沃度粉	沃度粉	沃度粉	沃度粉	沃度粉	沃度粉	沃度粉	沃度粉	沃度粉	沃度粉	沃度粉	沃度粉	沃度粉	沃度粉	沃度粉	沃度粉
重 京	重 京	重 京	重 京	重 京	重 京	重 京	重 京	重 京	重 京	重 京	重 京	重 京	重 京	重 京	重 京	重 京	重 京	重 京
三重沃度製造株式會社	三重沃度製造株式會社	高田益次郎	小林柔軟オブライト製造所	東京沃度商會	高砂工業株式會社	京 都 都 新藥堂	日本アスファルト工業株式會社	小 西 安兵衛	松 榮 堂	松 榮 堂	會 社 比壽染料製造所	山 本 商 店	東 洋 塗 料 合 資 料 社	渡 邊 七 良 治	神 戶 塗 料 合 資 會 社 總 代 理	神 戶 塗 料 合 資 會 社 三 協 商 會	段 谷 又 三 郎	新 潟 化 學 工 業 所 東 京 出 張 所

疊綠布、晒綿布	袋	イ 靴	皮印靴	貝 釦	朱 肉	化學用硝子量器	檢 温	理化學用硝子器具	同	化學用天秤
大阪	大阪	大阪	大阪	京阪	京阪	京阪	京阪	京阪	京阪	京阪
中六郎	東京袋織物製作所	鈴木三郎	鈴木馬造	鈴木貝釦製造部	森島萬造	東京量器製造合資會社	合資會社東京理化計器製	櫻井延次郎	宮川卯一	合資會社守隨商店
白 金 製 品	同	理 化 學 用 器 具	理 化 學 用 硝 子 製 品	理 化 學 用 硝 子 器 具	キシライト用軸受各種	石鹼製造機各種	精製蒸餾機、コロンネル	飯淵式木製調車	シクリート、コットン製	村山式保熱板
東 京	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
田 中 梅 吉	深 江 壯 之 助	杉 本 宗 吉	須 賀 孟 伯	杉 田 藤 太 郎	佐 藤 英 夫	喜 多 武 英	山 口 熊 太 郎	飯 淵 工 場	尾 本 安 次 郎	範多商會東京支店

業 状

石 炭	織 物	血 劑	參 茸	醋 酸	合 成 有 機 藥 品
愛 知	大 阪	北 海 道	東 京	東 京	同
富田化學工業所富田嘉一	合名會社山谷製藥所	草刈元次	東京藥品製造所	日ノ出藥局光富留吉	京北化學研究所 山本鎮三郎
中 間 化 合 物、人 造 香 料	鹽 化 加 里、硫 酸 加 里	炭 酸 加 里、鹽 化 加 里	重 クロロム 酸 加 里	同	苦 汁 製 品
兵 庫	千 葉	靜 岡	東 京	同	大 阪
庫多田化學製品所	總房水産株式會社	東洋醱酵資料株式會社	大正製藥株式會社	小幡實平	阪 澤 田 福 太 郎

同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	
香	香	香	香	香	香	香	香	香	香	香	香	香	香	香	香	香	香	香	香	香	
宇多津化學工業株式會社	萩尾繁馬	吳成富十	小林富次郎	小西宗七	守隨彦太郎	山留合名會社	東京藥土株式會社	大阪化學工業株式會社	重關四製茶合資會社	岡東遠製茶合資會社	高砂工業株式會社	平澤重助	日本藥品化學株式會社	吉野五運	日本製造化學合資會社	高田吉太郎	京高名會社 柴田染料商店	同	同	同	同
黃 色 血 滴 鹽、重 クロロム	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	
武 内 工 業 所	織田信治	日本電氣化學工業株式會社	九州電氣工業株式會社	手盛電氣株式會社	京都電氣化學試驗所	石川伊之助	東京電工所	建部長八	金子梅吉	茂木源兵衛	青木賢藏	千野又次郎	櫻場竹雄	山口五左衛門	ミカド商會宮本榮一	日本國工商會森川康	人見伊之助	同	同	同	同

瓦斯ストープ	堀	玉	濱田	吉	コイル天	東	平岡
鐵瓶、銅壺、水焜籠	同	矢崎	健治	納戸	裏地	重	田儀三郎
金屬取付硝子器	大	阪	森高	和吉	納戸	静	市銀三郎
黒鉛メタル	愛	知	中島健三郎	印	付黒	三	市嘉十郎
發火合金	大	阪	本城直三郎	紺染	絲染	同	山木嘉十郎
ホワイトメタル	東	合資	合資	木綿	絞	同	村治圓次郎
易熔合金	同	會社	日の出化學製工所	同	同	同	村原增吉
錫	同	三浦	正助	同	同	同	早川角次郎
鍋、電氣抵抗片、再製鉄	堀	合名	會社川口鑄鐵所	同	同	同	近藤藤金治
東印千歳車	同	高橋	孫太郎	同	同	同	近藤藤政吉
チルドロール	同	永瀬	留十郎	同	同	同	近藤藤政吉
紙裁	堀	寺田	楠次郎	同	同	同	同
刺身庖丁	同	大田	周三郎	同	同	同	同
木材乾餾製品	群	馬	萬代信三郎	同	同	同	同
木材乾餾製品	同	島	劍山製藥株式會社	同	同	同	同
精製ナフトリン	福	會社	九州化學工業商會	同	同	同	同
精製ナフトリン、グリー	東	山本	間次郎	同	同	同	同
消防被服地染	三	高橋	芳太郎	同	同	同	同
木綿紋付黒染	同	同	同	同	同	同	同

酸性染料	大	東	亞化學工業合資會社	甘草、甘草	越幾斯	關	東	州	乾	卯兵衛
メラフエニン、ダイア	東	松榮堂	服部重右衛門	タ	膏	劑	京	東	日本タクル株式會社	同
メチレンブルー	同	大正化學工業合資會社	同	軟	膏	劑	京	東	合資會社	同
直接木綿染料	同	三石商會	齋藤峰三郎	護	綯	創	同	同	同	同
ニユーモルダント、エル	朝	大	喜多友太郎	輕	粉	劑	同	同	同	同
ニグロシン、ベニス	東	川	邑春	藥局方	グリセリン	粉	同	同	同	同
楓葉エキ	同	茂	木重次郎	輕	粉	劑	同	同	同	同
硫磺	朝	淺	野義輔	パタ、乳糖、ストロー	セルロース、グアヤコ	同	同	同	同	同
硫磺	愛	富	田嘉一	グルコサート、クアヤコ	同	同	同	同	同	同
メタニール、エルロー、過	東	日本藥學協會	鴨田修治	枸橼酸及其製劑、橙皮油、	密柑油	同	同	同	同	同
硫磺染料	同	末	次虎太郎	單	寧	劑	同	同	同	同
高麗人蔘製劑	朝	吉	林煥寸株式會社	殺	蟲	劑	同	同	同	同
菊十字護謄絆創膏	大	山	田惣太郎	ク	レ	同	同	同	同	同
カフエイ	三	關	西製茶合資會社	辨	柄、ルシゲン	同	同	同	同	同
同	同	水	彩繪具	同	同	同	同	同	同	同
無機鹽類、人工カル、ス	東	同	同	同	同	同	同	同	同	同
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
醫藥	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同

干素飽罐同時罐	白	ラ	タカ	内	ス	日東	維子	太	富	吉
麵、干	葡	ム	カ印	外	ミス	東印	子印	士	川	川
餛	萄	ネ	印	サ	サイ	サイ	サイ	サイ	式	式
餛			サ	イ	ダ	イ	イ	イ	調	調
餛			イ	ダ	ー	ダ	ダ	ダ	帯	帯
餛			ダ	ー	石	若	千	朝	東	京
餛			ー	廣	川	島	葉	京	京	京
餛			廣	青	島	松	島	京	京	京
餛			青	森	管	田	原	京	京	京
餛			森	青	野	部	田	京	京	京
餛			青	森	政	善	東	京	京	京
餛			森	青	次	志	洋	京	京	京
餛			森	青	耶	志	舍	京	京	京
餛			森	青	耶	志	含	京	京	京
餛			森	青	耶	志	合	京	京	京
餛			森	青	耶	志	耶	京	京	京
餛			森	青	耶	志	耶	京	京	京
餛			森	青	耶	志	耶	京	京	京
餛			森	青	耶	志	耶	京	京	京
餛			森	青	耶	志	耶	京	京	京
餛			森	青	耶	志	耶	京	京	京
餛			森	青	耶	志	耶	京	京	京
餛			森	青	耶	志	耶	京	京	京
餛			森	青	耶	志	耶	京	京	京

晒	同	常	精	人	印	防	ほ	便	凝	魚	ビ	ソ	テ	蠟	寒	化
白		製	製	造	刷	水	ま	益	眞	鱈	ア	ソ	キ	製	學	學
綿		綿	綿	綿	イ	靴	れ	印	珠	美	ト	ル	ス	模	用	用
布		綿	綿	綿	キ	ク	靴	盤	珠	化	ン	シ	型	量	器	器
大	同	朝	三	東	同	千	東	朝	東	京	東	同	東	同	同	同
阪	同	鮮	重	京	同	葉	東	鮮	京	都	都	同	京	京	同	同
島	同	早	加	川	同	佐	東	渡	京	坂	合	牛	喜	士	日	日
治	同	島	藤	村	同	古	東	邊	京	根	名	田	多	田	寒	寒
兵	同	物	輝	喜	同	悠	東	文	京	清	會	見	見	天	天	天
衛	同	産	三	十	同	次	東	治	京	一	上	長	長	株	株	株
衛	同	商	會	耶	同	耶	東	耶	京	會	幸	兵	兵	式	式	式
グ	同	會	大	檢	同	石	東	能	京	一	作	衛	衛	生	生	生
ラ	同	正	大	温	同	材	東	川	京	同	機	機	機	機	機	機
ス	同	式	正	器	同	ロ	東	式	京	同	機	機	機	機	機	機
ウ	同	顯	式	計	同	ール	東	洗	京	同	機	機	機	機	機	機
レ	同	微	自	器	同	ズ	東	濯	京	同	機	機	機	機	機	機
ン	同	鏡	動	同	同	ズ	東	機	京	同	機	機	機	機	機	機
ズ	同	計	折	同	同	ズ	東	機	京	同	機	機	機	機	機	機
ル	同	器	射	同	同	ズ	東	機	京	同	機	機	機	機	機	機
エ	同	計	レ	同	同	ズ	東	機	京	同	機	機	機	機	機	機
リ	同	計	ン	同	同	ズ	東	機	京	同	機	機	機	機	機	機
カ	同	計	ズ	同	同	ズ	東	機	京	同	機	機	機	機	機	機
テ	同	計	ズ	同	同	ズ	東	機	京	同	機	機	機	機	機	機
ラ	同	計	ズ	同	同	ズ	東	機	京	同	機	機	機	機	機	機
ミ	同	計	ズ	同	同	ズ	東	機	京	同	機	機	機	機	機	機
コ	同	計	ズ	同	同	ズ	東	機	京	同	機	機	機	機	機	機
ス	同	計	ズ	同	同	ズ	東	機	京	同	機	機	機	機	機	機
シ	同	計	ズ	同	同	ズ	東	機	京	同	機	機	機	機	機	機
ウ	同	計	ズ	同	同	ズ	東	機	京	同	機	機	機	機	機	機
イ	同	計	ズ	同	同	ズ	東	機	京	同	機	機	機	機	機	機
ロ	同	計	ズ	同	同	ズ	東	機	京	同	機	機	機	機	機	機
イ	同	計	ズ	同	同	ズ	東	機	京	同	機	機	機	機	機	機
ド	同	計	ズ	同	同	ズ	東	機	京	同	機	機	機	機	機	機
ウ	同	計	ズ	同	同	ズ	東	機	京	同	機	機	機	機	機	機
イ	同	計	ズ	同	同	ズ	東	機	京	同	機	機	機	機	機	機
ロ	同	計	ズ	同	同	ズ	東	機	京	同	機	機	機	機	機	機
イ	同	計	ズ	同	同	ズ	東	機	京	同	機	機	機	機	機	機
ド	同	計	ズ	同	同	ズ	東	機	京	同	機	機	機	機	機	機
ウ	同	計	ズ	同	同	ズ	東	機	京	同	機	機	機	機	機	機
イ	同	計	ズ	同	同	ズ	東	機	京	同	機	機	機	機	機	機
ロ	同	計	ズ	同	同	ズ	東	機	京	同	機	機	機	機	機	機
イ	同	計	ズ	同	同	ズ	東	機	京	同	機	機	機	機	機	機
ド	同	計	ズ	同	同	ズ	東	機	京	同	機	機	機	機	機	機
ウ	同	計	ズ	同	同	ズ	東	機	京	同	機	機	機	機	機	機
イ	同	計	ズ	同	同	ズ	東	機	京	同	機	機	機	機	機	機
ロ	同	計	ズ	同	同	ズ	東	機	京	同	機	機	機	機	機	機
イ	同	計	ズ	同	同	ズ	東	機	京	同	機	機	機	機	機	機
ド	同	計	ズ	同	同	ズ	東	機	京	同	機	機	機	機	機	機
ウ	同	計	ズ	同	同	ズ	東	機	京	同	機	機	機	機	機	機
イ	同	計	ズ	同	同	ズ	東	機	京	同	機	機	機	機	機	機
ロ	同	計	ズ	同	同	ズ	東	機	京	同	機	機	機	機	機	機
イ	同	計	ズ	同	同	ズ	東	機	京	同	機	機	機	機	機	機
ド	同	計	ズ	同	同	ズ	東	機	京	同	機	機	機	機	機	機
ウ	同	計	ズ	同	同	ズ	東	機	京	同	機	機	機	機	機	機
イ	同	計	ズ	同	同	ズ	東	機	京	同	機	機	機	機	機	機
ロ	同	計	ズ	同	同	ズ	東	機	京	同	機	機	機	機	機	機
イ	同	計	ズ	同	同	ズ	東	機	京	同	機	機	機	機	機	機
ド	同	計	ズ	同	同	ズ	東	機	京	同	機	機	機	機	機	機
ウ	同	計	ズ	同	同	ズ	東	機	京	同	機	機	機	機	機	機
イ	同	計	ズ	同	同	ズ	東	機	京	同	機	機	機	機	機	機
ロ	同	計	ズ	同	同	ズ	東	機	京	同	機	機	機	機	機	機
イ	同	計	ズ	同	同	ズ	東	機	京	同	機	機	機	機	機	機
ド	同	計	ズ	同	同	ズ	東	機	京	同	機	機	機	機	機	機
ウ	同	計	ズ	同	同	ズ	東	機	京	同	機	機	機	機	機	機
イ	同	計	ズ	同	同	ズ	東	機	京	同	機	機	機	機	機	機
ロ	同	計	ズ	同	同	ズ	東	機	京	同	機	機	機	機	機	機
イ	同	計	ズ	同	同	ズ	東	機	京	同	機	機	機	機	機	機
ド	同	計	ズ	同	同	ズ	東	機	京	同	機	機	機	機	機	機
ウ	同	計	ズ	同	同	ズ	東	機	京	同	機	機	機	機	機	機
イ	同	計	ズ	同	同	ズ	東	機	京	同	機	機	機	機	機	機
ロ	同	計	ズ	同	同	ズ	東	機	京	同	機	機	機	機	機	機
イ	同	計	ズ	同	同	ズ	東	機	京	同	機	機	機	機	機	機
ド	同	計	ズ	同	同	ズ	東	機	京	同	機	機	機	機	機	機
ウ	同	計	ズ	同	同	ズ	東	機	京	同	機	機	機	機	機	機
イ	同	計	ズ	同	同	ズ	東	機	京	同	機	機	機	機	機	機
ロ	同	計	ズ	同	同	ズ	東	機	京	同	機	機	機	機	機	機
イ	同	計	ズ	同	同	ズ	東	機	京	同	機	機	機	機	機	機
ド	同	計	ズ	同	同	ズ	東	機	京	同	機	機	機	機	機	機
ウ	同	計	ズ	同	同	ズ	東	機	京	同	機	機	機	機	機	機
イ	同	計	ズ	同	同	ズ	東	機	京	同	機	機	機	機	機	機
ロ	同	計	ズ	同	同	ズ	東	機	京	同	機	機	機	機	機	機
イ	同	計	ズ	同	同	ズ	東	機	京	同	機	機	機	機	機	機
ド	同	計	ズ	同	同	ズ	東	機	京	同	機	機	機	機	機	機
ウ	同	計	ズ	同	同	ズ	東	機	京	同	機	機	機	機	機	機
イ	同	計	ズ	同	同	ズ	東	機	京	同	機	機	機	機	機	機
ロ	同	計	ズ	同	同	ズ	東	機	京	同	機	機	機	機	機	機
イ	同	計	ズ	同	同	ズ	東	機	京	同	機	機	機	機	機	機
ド	同	計	ズ	同	同	ズ	東	機	京	同	機	機	機	機	機	機
ウ	同	計	ズ	同	同	ズ	東	機	京	同	機	機	機	機	機	機
イ	同	計	ズ	同	同	ズ	東	機	京	同	機	機	機	機	機	機
ロ	同	計	ズ	同	同	ズ	東	機	京	同	機	機	機	機	機	機
イ	同	計	ズ	同	同	ズ	東	機	京	同	機	機	機	機	機	機
ド	同	計	ズ	同	同	ズ	東	機	京	同	機	機	機	機	機	機
ウ	同	計	ズ	同	同	ズ	東	機	京	同	機	機	機	機	機	機
イ	同	計	ズ	同	同	ズ	東	機	京	同	機	機	機	機	機	機
ロ	同	計	ズ	同	同	ズ	東	機	京	同	機	機	機	機	機	機
イ	同	計	ズ	同	同	ズ	東	機	京	同	機	機	機	機	機	機
ド	同	計	ズ	同	同	ズ	東	機	京	同	機	機	機	機	機	機
ウ	同	計	ズ	同	同	ズ	東	機	京	同	機	機	機	機	機	機
イ	同	計														

第九節 褒賞授與人員統計

部	類	名譽賞牌	金牌	銀牌	銅牌	褒狀	計
第 一	第一類 工業藥品	二	三	五	一	一	二
	第二類 電氣化學製品及用品	一	一	一	一	一	五
	第三類 金屬製品	一	一	一	一	一	五
	第四類 壓縮及液化瓦斯	一	一	一	一	一	五
	第五類 乾餾生成品	一	一	一	一	一	五
	第六類 タール蒸餾製品	一	一	一	一	一	五
	第七類 染料及染物	一	一	一	一	一	五
	第八類 爆發物及マツチ(模型又ハ包裝)	一	一	一	一	一	五
	第九類 醫 藥	一	一	一	一	一	五
	第一〇類 顏料及塗料	一	一	一	一	一	五
第 二	第一類 漆液及漆器	一	一	一	一	一	五
	第二類 窯 業 品	一	一	一	一	一	五
	第三類 砂 糖 類	一	一	一	一	一	五
	第一四類 酒類及釀造品	一	一	一	一	一	五

第	部	名譽賞牌	金牌	銀牌	銅牌	褒狀	計
第 一	第一五類 紙及其製品	一	一	一	一	一	五
	第一六類 ゴム及其製品	一	一	一	一	一	五
	第一七類 礦油及其製品	一	一	一	一	一	五
	第一八類 油 脂 及 蠟	一	一	一	一	一	五
	第一九類 石鹼及蠟燭	一	一	一	一	一	五
	第二〇類 香料及化粧品	一	一	一	一	一	五
	第二一類 樟腦、薄荷及テレピン油	一	一	一	一	一	五
	第二二類 人 造 肥 料	一	一	一	一	一	五
	第二三類 皮革、擬革及其製品	一	一	一	一	一	五
	第二四類 寫真及寫真印刷物	一	一	一	一	一	五
第 二	第二五類 飲食物及嗜好品	一	一	一	一	一	五
	第二六類 セルロイド及其類似品	一	一	一	一	一	五
	第二七類 纖維工業品(化學的處理ヲ施シタル原料及製品)	一	一	一	一	一	五
	第二八類 雜種化學製品(インキ、墨、印刷インキ、印肉、靴墨、膠、セラチン、寒天等)	一	一	一	一	一	五
	第二九類 分析及試驗用器具、機械	一	一	一	一	一	五
	第三〇類 製造用器具、機械	一	一	一	一	一	五

第一編 事務報告

一三五

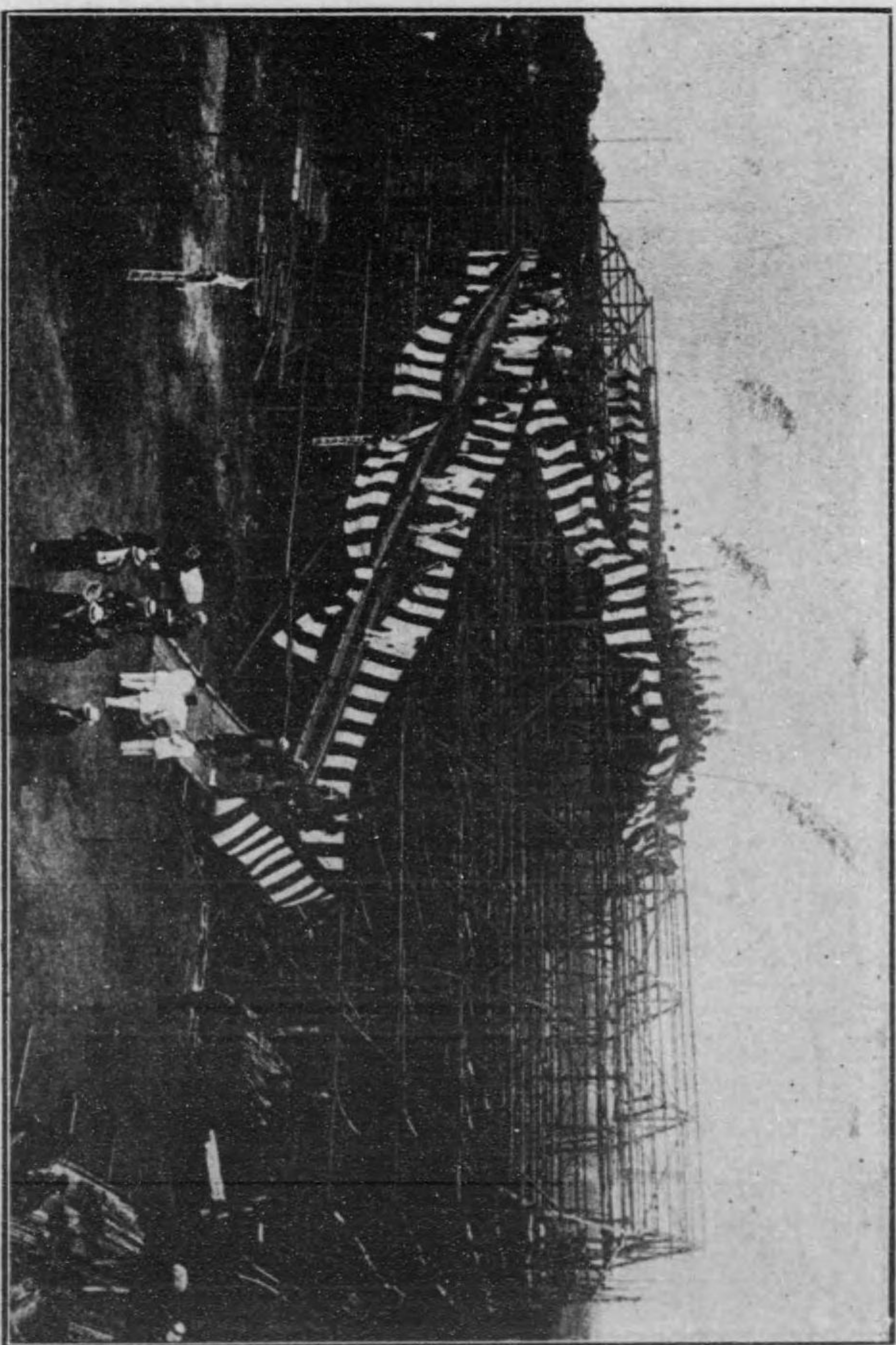
第一編 事務報告

計	二		一三六
	第三一類	第三二類	
	發光、發熱及燃燒裝置		
	第三二類	冷却及冷蔵裝置	
	第三三類	防熱、防火、防水、防遮材料及裝置	
三八			二
一〇六		-	二
一八一	二		二
二八二	二		
三五二	三		二
九五九	七	-	八

第五章 儀式

第一節 上棟式

本會建築工事の進捗するを期とし八月二日(木曜日)午後を以て新築諸館(別館、參考館、教育館等)の上棟式を舉行せり式場は新築別館の屋上にして當日朝野貴紳の臨場せられたるもの男爵近藤廉平氏外無慮百七十名あり、四時を報するや清浦總裁、武井副總裁、内田會長、平山、高松、阪田の各顧問、中松事務總長、井村理事其他理事、委員等着席次て祭主大社教大教正竹崎喜通氏祭官一同を隨へて著席夫より式は莊嚴なる奏樂裡に行はれ清浦總裁、武井副總裁以下順次玉串を捧げ式畢りて餅撒を施行し各自退下後本館階上に於て來賓に立食を饗す半にして内田會長一場の挨拶を爲し五時四十分會を散せり當日の案内狀及順席書は左の如し



式 棟 上

拜啓 時下盛暑之候愈々御清穰被爲互候
段奉恭賀候陳者來八月二日(木曜日)午
後四時上野公園不忍池畔本會々場ニ於テ
新築諸館上棟式ヲ舉行致候ニ付御貴臨ヲ
賜度此段御案内申上候 敬具

化學工業博覽會

大正六年七月 日 會長 內田 嘉吉

殿

追而炎暑之折柄ニ付御輕裝ニ願上候尙午御手數御
貴臨之有無八月一日迄ニ御一報被下度候

化學工業博覽會 上棟式順序

第一振鈴 午後四時半

齋主祭官式場着席
來賓車寄(玄關)に集合

第二振鈴

來賓一同登階式場着席
修 祓

降神行事一同起立
神饌ヲ供ス 此間奏樂

齋主祝詞ヲ奏ス 一同起立
總裁以下玉串ヲ献ケ拜禮

神饌ヲ撤ス 此間奏樂
昇神行事一同起立

各 自 退 下
食 堂 開 始
以 上

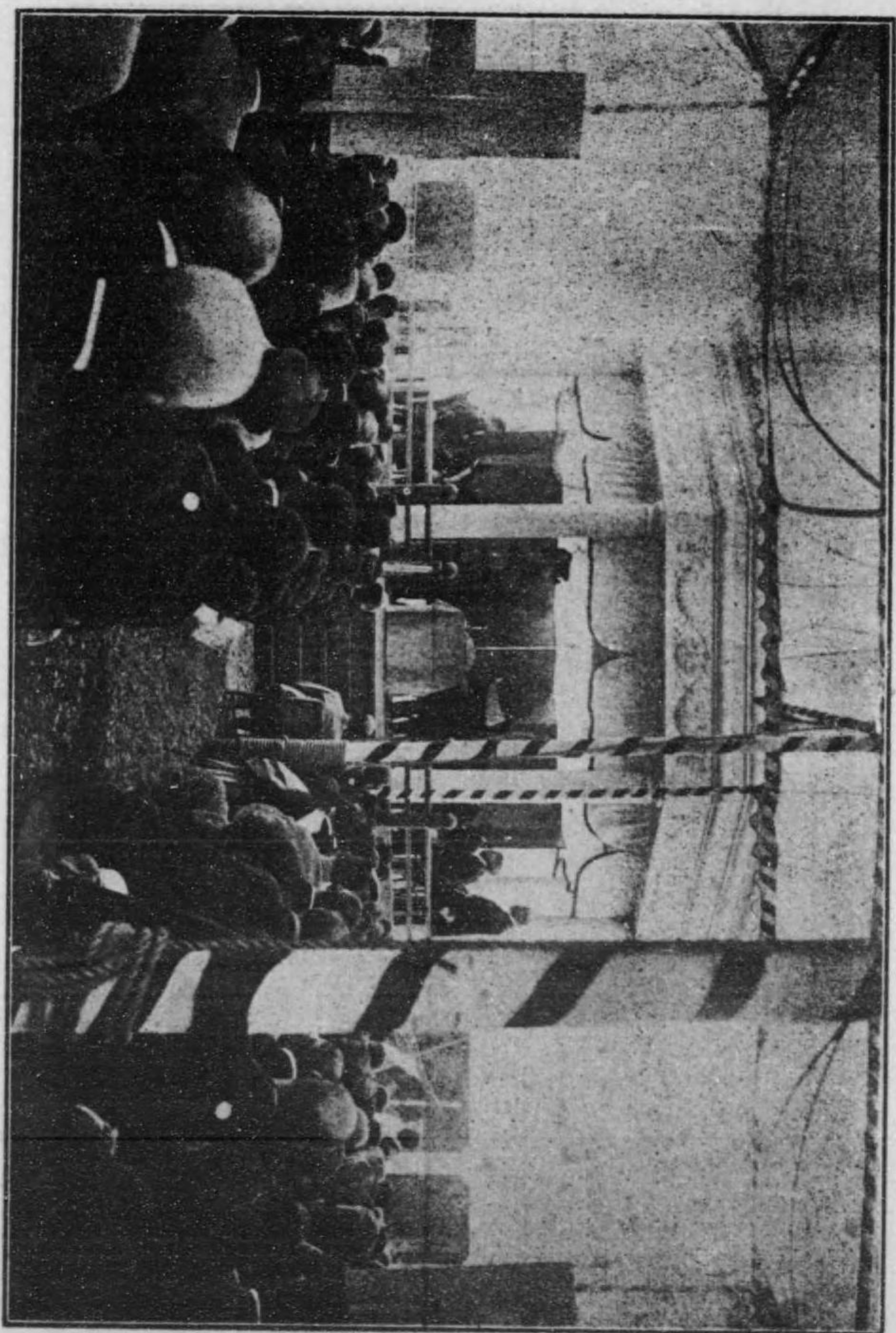
大正六年八月二日

第二節 開 會 式

九月二十日(木曜日)本會開會式を舉行す式場は本館前庭の奏樂堂を中心として之に充てたり
 七時合圖の爲本郷區湯島公園地内に於て先づ煙火三發を打揚ぐるや次て出品人、來賓の參着者陸續廣
 至し寺内閣總理大臣代理兒玉内閣書記官長、松室司法大臣、岡田文部大臣、加藤海軍大臣、大岡衆議
 院議長、鍋島侯爵、曾我樞密顧問官、井上東京府知事其他貴紳の臨場無慮二千餘名あり午前九時四十
 五分第一振鈴を合圖とし陸軍々樂隊の奏樂中に一同著席十時君か代の吹奏了るや内田會長の式辭、清
 浦總裁の告辭あり夫より寺内閣總理大臣(兒玉内閣書記官長代讀)、仲小路農商務大臣(上山農商務
 次官代讀)、岡田文部大臣、井上東京府知事、東京市長代理高橋助役、藤山東京商業會議所會頭(稻茂
 登三郎氏代讀)の祝辭、出品人總代大倉男爵の答辭あり奏樂中に式を畢り本館中庭の大天幕裡に於て
 一同に立食を饗應し次て正副總裁、内田會長其他先導し來賓一同を會場に案内して巡覽に供し斯く
 て各隨意退散を告げ正午十二時に至り一般の觀覽を容れたり。從來各種博覽會に於ける通慣として開
 會式日までに出品の整頓を告げさること往々あり本會は深く此に留意し銳意其の進行に努めたる結果
 開會式日までに陳列裝飾等幾んど遺憾なきに至りたるは聊以て誇としたる所なり
 當日の式辭、告辭、祝辭並に答辭等は左の如し

式 辭

化學工業博覽會方ニ設備ノ完成ヲ告ケ本日朝野紳士ノ眞臨ヲ辱ウシ茲ニ開會式ヲ舉グルヲ得タリ
 抑モ本博覽會ハ從來幾多ノ博覽會ト稍其趣ヲ異ニシ純ラ科學ノ應用及ヒ技術ノ施行ヨリ成レル新重要ノ物品ヲ蒐集シテ陳列シ平易



式 場
 (詳告 鏡 越 浦 清)
 開